

Discussion Paper Series

B No.45

ロシア連邦国家統計委員会
『ロシアの国家統計 1802-1996 年』
モスクワ, 1996
[翻訳]

監訳：雲 和 広 (一橋大学経済研究所)
翻訳：森永 貴子 (立命館大学文学部)
志田 仁完 (一橋大学経済研究所ロシア研究センター)
神竹 喜重子 (一橋大学経済研究所ロシア研究センター)

August 2015

INSTITUTE OF ECONOMIC RESEARCH HITOTSUBASHI UNIVERSITY

INSTITUTE OF ECONOMIC RESEARCH HITOTSUBASHI UNIVERSITY

HIER Discussion Paper Series (B)

No.45

ロシア連邦国家統計委員会
『ロシアの国家統計1802－1996年』
モスクワ，1996
[翻訳]

監 訳： 雲 和 広 (一橋大学経済研究所)

翻 訳： 森永 貴子 (立命館大学文学部)

志田 仁完 (一橋大学経済研究所ロシア研究センター)

神竹 喜重子 (一橋大学経済研究所ロシア研究センター)

Коллектив авторов (И.И. Елисеев, В.М. Проскуряков, В.И. Успенский и др.),
Российская государственная статистика, 1802-1996. Госкомстат России,
Москва: Издатцентр, 1996

一橋大学経済研究所

2015年8月

The Institute of Economic Research

Hitotsubashi University

Naka 2-1, Kunitachi City, Tokyo, 186-8603, JAPAN

<http://www.ier.hit-u.ac.jp>

Printed in Tokyo, Japan

ロシア連邦国家統計委員会

『ロシアの国家統計 1802—1996 年』

モスクワ, 1996 年

Госкомстат России

Коллектив авторов: И.И. Елисеев, В.М. Проскуряков,
В.И. Успенский и др.

Российская государственная статистика, 1802—1996

Москва: Издатцентр, 1996

一橋大学経済研究所

2015 年 8 月

監 訳： 雲 和 広 (一橋大学経済研究所)

翻 訳： 森永 貴子 (立命館大学文学部)

志田 仁完 (一橋大学経済研究所ロシア研究センター)

神竹 喜重子 (一橋大学経済研究所ロシア研究センター)

【凡 例】

1. 本書の各所で言及される年月日は、各文書が刊行された時点における年月を示している。
2. 原著においてイニシャルを用いて表記されている人物名に関しては、出来る限り、正式名称で記載している。なお、日本語での表示の多くは、先行研究に従っている。
3. 本文コラムに記載されている人物を、重要人物年表として整理している。

【読者の皆様へ】

皆様に、もうすぐ 200 周年を迎えるロシアの統計の歴史を、概要にてご紹介いたします。

ロシアの統計は、すでに 18 世紀に、実生活への社会的・経済的認識を調査する有効な手段として登場しました。しかし、実際にその基礎が敷かれたのは、皇帝アレクサンドル一世によってであり、19 世紀の初めに入ってからのことでした。19 世紀前半のロシアのもっとも偉大な統計学者ドミートリー・ペトローヴィチ・ジュラフスキーは、国家のみが最も完全で体系的な情報を収集出来るのであり、また国家だけがそれらの情報を（[訳注]: 国家全体の）進歩のために十分に管理出来るものと考えていました。また追記しておきたいことは、社会生活をあらゆる側面から改革しようという時期ごとに、国家が統計へと寄せる関心が強まったということです。なぜなら統計は、過去の分析を通して現在を記述し、未来を予測することが出来る科学と行政の双方にかかわっているからです。

この 2 世紀の間におけるロシアの統計の発展の道りは厳しいものでした。ロシアが経験した社会的転換が統計を形成し、またそれをれっきとした学問に変えてきました。一方、統計はロシア経済の改革を行う上で一定の貢献を成してきたのです。

今やロシアは、市場経済を形作り発展させる時代に突入しました。これまでの歴史的経験から、全国規模の情報基盤を構築するにあたり、国家統計の統合機能が大幅に強化されていくことがはっきりと予想されます。一方でこのことが示すのは、ロシア国家統計がもはや非常に近い将来に社会的・経済的進歩を管理し、ロシアの国家体制を強化させ、ロシアの全ての地域にある潜在能力を伸ばし、ロシア人の生活水準や福祉をよりよきものにしていく手段となるはずであろう、ということです。

1996 年 8 月

ロシア連邦国家統計委員会委員長 ユーリー・ユルコフ

【訳者はしがき】

本書は Госкомстат России, *Российская государственная статистика 1802—1996*, Москва: Издатцентр, 1996 の全訳である。訳者らは 2007 年 3 月(雲・志田)或いは 2007 年 4 月(森永)より一橋大学経済研究所「アジア長期経済統計プロジェクト」「21 世紀 COE 社会科学の統計分析拠点構築」の一部を構成する「ロシア長期経済統計」班の一員として人口統計等の整備を開始した。最初の成果は 3 月末から 9 月末までの実質 6 ヶ月でまとめあげ、雲和広・森永貴子・志田仁完著「ロシアの長期人口統計」『経済研究』, 第 59 巻第 1 号, 2008 年 1 月として刊行した。

この際、ロシア帝国の統計作成手法をレビューするに当たって、帝国内務省統計委員会の刊行物と共に、極めて有用であったのがロシアにおける統計組織の変遷を概説した本書であった¹。そこでその邦訳を供することの意義を確信した次第である。

既に原書は刊行から 20 年程が経過しており、また 2013 年には原書を刊行したロシア国家統計委員会(Госкомстат России)の改組されたものであるロシア連邦統計局(Росстат)から、2011 年までの情報を追加した *История Российской государственной статистики, 1811—2011*, Москва: Статистика России が刊行されている。しかしながら、この 2013 年刊行の書籍とは異なって歴史的叙述が 18 世紀から始まり、またロシア帝国時代の史料をも多数含む形となっている原書の意義は損なわれていない。

実を言えば、原書の翻訳は、その粗訳を 2008 年の段階で終えていた。その翻訳は上記の論文「ロシアの長期人口統計」の作成と並行して進め、他の多様な分野の統計を包括したプロジェクト全体の成果物としての刊行物『ロシア長期経済統計』の

¹ 原著は、ロシア国家統計局ウェブサイトで閲覧可能である(アクセス日:2015 年 3 月 24 日。ただし、法律文書などの複製物は提示されておらず、それは印刷版にのみ収録されている。本訳書はそのすべてを掲載した。):

http://www.gks.ru/wps/wcm/connect/rosstat_main/rosstat/ru/about/history/.

ために準備したものであった。しかしながら、プロジェクト全体の完成が大幅に遅れ、そのため本翻訳の作業も粗訳の段階に留まっていたのである。このたび、ようやくプロジェクト全体の目処が立ったため、それにあわせて本書の翻訳も完成させることとした次第である。

ロシア連邦国家統計局(Росстат)の V. Sokolin 副議長(2007 年当時)は訳者らの要望を快諾して下さった。また Sokolin 副議長との交渉に当たっては、Sokolin 副議長と個人的な交友関係をお持ちでありかつ「ロシア長期経済統計」班の統括者である久保庭眞彰・一橋大学名誉教授に多大なご助力を戴いた。ここに明記し深謝申し上げる次第である。

本書訳者(森永貴子・志田仁完・神竹喜重子・雲)を代表して
雲和広

2015 年 7 月 盛夏のウクライナ・キエフにて

原書の本文に対して、修正を行っている。それは次の通りである：

- 1996 年以降の統計制度の改変に関して、ロススタート・ウェブサイト情報に従い、1996 年以降の年表を追加している。
- 便宜上、原著の各章に、番号(第 1 章, 第 2 章, , ,)を打っている。
- 構成を変更し、最後に掲載される年表を前に持ってきている。また、コラムで言及される人物は統計局長の一覧と同じなので、それらを人物年表として整理した。
- より理解を容易にし、また日本語で補完出来る情報を補うため、日本語版独自の訳注を多数追加した。



INSTITUTE OF ECONOMIC RESEARCH

HITOTSUBASHI UNIVERSITY

2-1 Naka Kunitachi Tokyo 186-8603 Japan
TEL: +81 [0] 42-580-8312 • FAX: +81 [0] 42-580-8333

Уважаемый В.И.Соколин !

Институт Экономического Исследования Хитоцубаши Университета просит о разрешении переводить Вашу книгу, "Российскую Государственную Статистику 1802-1996" полностью на японском языке.

Мы считаем весьма полезным переводить данную книгу для наших японских исследователей российской экономики. Нам хотелось бы в Японии распространить знание истории российской статистики.

Мы удостоверяем, что данный перевод будет посвящен на чисто научную цель, а не будет опубликован для никакой коммерческой выгоды.

Искренно умоляем Ваше позволение и понятие к нашей просьбе.

С уважением.

Кумо Казухиро
Редакционная коллега
<Долгосрочная историческая статистика России>
Институт Экономического исследования
Хитоцубаши университет

一橋大学経済研究所
東京都国立市中 2-1

尊敬するソコーリン様,

一橋大学経済研究所が貴所の書籍、『ロシアの国家統計 1802-1996 年』の全文を日本語に翻訳することをお認め戴きたく存じます。

私どもは、我が国のロシア経済研究者達にとって、当該書籍の翻訳は極めて有意義であると考えております。ロシア統計の歴史に関する知識を、広く日本に知らしめたいと存じます。

この翻訳は、純粋に学術的な目的に関わるものであり、商業的利益に基づいて行うものではないことを確言致します。

私どもの御願いをお聞き戴き、お認め下さいましたら幸いです。

雲和広

『ロシア長期経済統計』編集メンバー

一橋大学経済研究所



107450 Россия, Москва, ул. Мясницкая 39
39 Myasnitskaya St., 107450 Moscow, RUSSIA

Тел/Тел: (495) 207-4366
Факс/Fax: (495) 207-4927
E-mail: stat@gks.ru

02.10.07 № АС-05-38/2787

Кумо Казухиро
Институт экономических исследований
Университет Хитоцубаши

Уважаемый Кумо Казухиро,

Благодарим Вас за Ваше письмо и за интерес, который Вы проявляете к российской статистике и истории ее развития. Росстат приветствует любые действия, направленные на популяризацию статистики, и не имеет возражений против перевода издания «Российская Государственная Статистика 1802-1996» на японский язык для последующего использования японского текста в научных целях.

С уважением,

А.Е.Суринов
Заместитель руководителя Росстата

ロシア連邦統計局
107450 ロシア，モスクワ市，Myasnitskaya 通り 39

2007年10月2日

尊敬する雲和広様，

書簡と，ロシアの統計とその発展の歴史に対してお寄せになった関心とに御礼申し上げます。ロシア連邦統計局は，統計のより広範な利用に関わるどのようなご関心も歓迎致します。私どもの刊行物である『ロシアの国家統計1802-1996年』を学術的目的のために日本語に翻訳なさることに異議を差し挟むものではございません。

A.E.スリノフ
ロシア連邦統計局副議長

【目次】

| | | |
|----------------|---------------------|-----|
| 凡例 | | ii |
| 読者の皆様へ | | iii |
| 訳者はしがき | | iv |
| ロシア連邦統計局との間の書簡 | | vii |
| 目次 | | xi |
| 図画索引 | | xii |
| 年表 | | xiv |
| 第1章 | ロシア国家統計制度の歴史 | |
| | —概観— | 1 |
| 第2章 | ロシア統計の活動開始と組織構造 | |
| | —18世紀末—19世紀20年代— | 5 |
| 第3章 | 統計制度の発展と理論的基礎 | |
| | —1830年代前半—1860年代初頭— | 15 |
| 第4章 | ゼムストヴォ統計と国家統計 | |
| | —19世紀60年代—20世紀初頭— | 23 |

| | | |
|-----|--------------|----|
| 第5章 | ソ連期の国家統計組織 | |
| | —1918—1991年— | 39 |
| 第6章 | 現代ロシアの国家統計制度 | |
| | —市場経済への移行期— | 55 |
| 付録 | | I |

【図画索引】

| | |
|--|-------------|
| 「1802年の最後4か月間における内務大臣による省設置に関する報告」 (『サンクト・ペテルブルク・ジャーナル』, 第1号, 1904年.) | 11-13 |
| 「1843年3月7日付け第1514号内務省総務部文書」 | 18-19 |
| 「国家評議会の進言と皇帝アレクサンドル2世による承認」 | 29-31 |
| 「1923/1924年国民経済バランスの概要」 | 45 |

付録

| | |
|--|-------------------|
| 「1802年の最後4か月間における内務大臣による省設置に関する報告」 (『サンクト・ペテルブルク・ジャーナル』, 第1号, 1904年.) | II-VIII |
| 「1811年3月20日付け第168号警察大臣通達」 | IX-XII |
| 「1823年6月12日付け第7号内務省統計局文書」 | XIII-XXI |
| 「1825年10月7日付け第18号内務省統計局文書」 | XXII-XXIII |
| 「ロシア帝国法律大全, 第2集第9巻第2部, 1834年」 | XXIV-XXVIII |
| 「ロシア帝国法律大全, 第2集第27巻第1部, 1852年」 | XXIX-XXX |
| 「ロシア帝国法律大全, 第2集第33巻第1部, 1858年」 | XXXI-XXXIII |
| 「ロシア帝国法律大全, 第2集第36巻第2部, 1861年」 | ... XXXIV-XXXVI |
| 「ロシア帝国法律大全, 第2集第38巻第1部, 1863年」 | XXXVII-XL |
| 「ブロックハウス・エフロン百科事典」 | XLI-XLIII |
| 「1918年7月25日付け人民委員会議令」 | XLIV-XLVII |

【年 表】

ロシアの国家統計組織の歴史的変遷(当時の暦で表記)(※)

- 1802年09月08日 省庁に対して文書による統計報告が委任される.
- 1802年09月19日 県知事報告書の所定形式が規定される.
- 1802年01月11日 内務省総務部の付属組織として貴族会議(Сословие дворян Департамента Министерства внутренних дел)が設置される.
- 1811年11月20日 警察省の中に統計部(Статистическое отделение Министерства полиции)が設置される.
- 1819年11月04日 統計部が内務省官房(Статистическое отделение Канцелярии Министра внутренних дел)に移管される.
- 1823年05月12日 統計部が内務省警察部(Статистическое отделение Департамента исполнительной полиции Министерства внутренних дел)の所管に入る.
- 1834年12月20日 内務省審議会配下に統計部(Статистическое отделение при Совете Министра внутренних дел)が設置される.
また、各県に県統計委員会(Губернские статистические комитеты)が創設される.
- 1852年12月22日 内務省直属の組織として統計委員会(Статистический комитет Министерства внутренних дел)が設置される.
- 1858年03月04日 統計委員会が内務省付属組織として中央統計委員会

- (Центральный Статистический комитет при Министерстве внутренних дел)に改組される。
- 1863年04月30日 内務省付属組織として統計評議会と中央統計委員会(Статистический совет и Центральный Статистический комитет при Министерстве внутренних дел)が設立される。
- 1918年07月25日 中央統計局(Центральное статистическое управление)が設立される。
- 1927年05月11日 ソ連中央統計局(Центральное статистическое управление СССР)が設立される。
- 1930年01月23日 ソ連国家計画委員会経済統計課(Экономико-статистический сектор Госплана СССР)が設置される。
- 1931年12月17日 ソ連国家計画委員会付属中央国民経済計算局(Центральное управление народнохозяйственного учета Госплана СССР)へと改組される。
- 1948年08月10日 ソ連閣僚会議付属中央統計局(Центральное статистическое управление при Совете Министров СССР)が設立される。
- 1978年07月05日 ソ連中央統計局(Центральное статистическое управление СССР)となる。
- 1987年07月17日 ソ連国家統計委員会(Госкомстат СССР)に改称される。
- 1991年11月18日 ロシア国家統計委員会(Госкомстат России)。

- 1999年05月25日 ロシア統計庁(Российское статистическое агентство: Росстатагентство).
- 1999年12月06日 ロシア連邦国家統計委員会(ゴスコムスタット)(Государственный комитет Российской Федерации по статистике: Госкомстат России)へ改組される.
- 2004年03月09日 ロシア連邦統計局(ロススタット)(Федеральная служба государственной статистики: Росстат)へと改組される.
- 2008年3月以降 ロススタットが経済開発貿易省の所管となった.
- 2012年3月以降 ロシア連邦政府がロススタットの活動を指揮している.

(※)1996年以降の制度変遷に関して,ロススタット・ウェブサイトに基づき情報を追加した:
http://www.gks.ru/wps/wcm/connect/rosstat_main/rosstat/ru/about/history/302c39804bdd922d8f73bfc25c10f730.

ロシアの国家統計機関に関する重要人物年表(※)

カルル・フョードロヴィチ・ゲルマン：警察省統計局長(1811－1819年)、内務省統計局長(1819－1834年)。ロシアの経済学者・統計学者。

コンスタンチン・イヴァノヴィチ・アルセーニエフ：1834－1853年において内務省審議会付属統計局長／統計委員会委員長。

ピョートル・ペトローヴィチ・セミョーノフ＝チャン＝ジャンスキー：内務省附属中央統計委員会委員長(1863－1882年)。内務省附属統計評議会議長(1875－1896年)。

アレクサンドル・グリゴリーエヴィチ・トロイツキー：内務省附属統計評議会議長(1864－1866年)。

アレクセイ・ボリソヴィチ・ロバノフ＝ロストフスキー：内務省統計評議会議長(1867－1874年)。

ニコライ・アレクサンドロヴィチ・トロイツキー：内務省附属中央統計委員会委員長(1883－1903年)。

パーヴェル・イヴァーノヴィチ・グレゴリエフスキー：内務省附属中央統計委員会委員長(1911－1914年)。

ニコライ・ニコラエヴィチ・ベリャフスキー：内務省附属中央統計委員会委員長(1914－1917年)。

パーヴェル・イリイチ・ポポフ：ロシア・ソビエト連邦社会主義共和国中央統計局局長(1918－1922年)。ソ連人民委員会議附属中央統計局局長(1923－1926年)。

セルゲイ・ヴラディーミロヴィチ・ミナーエフ：ソ連国家計画委員会経済統計課課長
(1930—1931年). ソ連国家計画委員会附属中央国民経済計算局局长
(1931年).

ヴァレリアン・ヴァレリアノヴィチ・オボレンスキー(N. オシンスキー)：ソ連中央統計
局局长(1926—1928年). ソ連国家計画委員会附属中央国民経済計算局
局局长(1932—1935年).

アダム・イヴァーノヴィチ・クラヴァリ：ソ連国家計画委員会附属中央国民経済計算
局局长(1935—1937年).

イヴァン・ドミートリエヴィチ・ヴェレメンチェフ：ソ連国家計画委員会附属中央国民
経済計算局局长(1937年).

イヴァン・ヴァシーリエヴィチ・サウチン：ソ連国家計画委員会附属中央国民経済計
算局(1938—1940年).

ヴラディーミル・ニコラエヴィチ・スタロフスキー：ソ連国家計画委員会附属中央国
民経済計算局局长(1940—1948年). ソ連中央統計局局长(1948—1975
年).

レフ・マルコーヴィチ・ヴォロダルスキー：ソ連中央統計局局长(1975—1985年).

ミハイル・アントーノヴィチ・カラリョフ：ソ連中央統計局局长(1985—1987年). ソ連
国家統計委員会議長(1987—1989年).

ヴァディム・ニキートヴィチ・キリチェンコ：ソ連国家統計委員会議長(1989—1992
年).

(※)上記の人物の詳細に関しては、本文のコラムの記述を参照されたい。





第1章 ロシア国家統計制度の歴史

—概観—

近代ロシアの社会と経済では劇的な変化が生じ、国家統計制度も市場経済に
適応するよう改革することが必要となった。国家統計制度の特徴とその変化の方向
性は、国家の歴史と分かちがたく結びついており、経済の課題は何か、経済をどの
ように運営していくか、ということに大きく左右されるものである。

ロシアの国家統計制度もまた長期間に及ぶ紆余曲折を経て構築されたという歴
史を持つ。この歴史を条件づけてきたのは、ロシアの社会経済的構造の特徴、何よ
りもまず、長きにわたって温存されてきた農奴制の存在であった。

18世紀末において、自由な経済活動が活性化するにともない生じた経済政策
の変化は、国家統計の特徴にも表れている。すなわち、国家統計は、社会状況を
認知し、また認識する手段として有益であり、経済や社会生活の状態をより幅広く
反映する手段として取り扱われるようになったのである。この時代はまた、統計学分
野におけるいくつかの重要かつ興味深い学術的発展がみられた時期としても特徴
づけられる。

19世紀初頭には、大規模な行政制度改革が行われた。

行政組織の再編に伴い、統計業務の制度も変更され、県(による決算)報告の
提出が復活した。さらに、1811年には警察省の付属組織として統計局が設立され
たことを契機に、ロシアの国家統計制度は新たな発展段階に入った。この発展段階
は1860年代初頭まで続き、組織と業務の両面で国家統計機関が大きな進歩を果
たした時期として特徴づけられる。また、1861年の農奴解放の改革をもたらすことに

1802年9月8日(新暦9月20日)付けの勅令により、各省庁は統計報告文書を収集す
るよう委任された。ロシアでは、まさにこの時に、新しい国家統計業務の組織構造が構築
されることになったのである。

なる奥深い統計研究も出現した。

1861－1917年におけるポスト(農奴解放)改革期は、政府統計およびゼムストヴォ統計が発展したことで記憶されている時代である¹。ゼムストヴォ統計家によって収集・処理された膨大な量の統計資料は、農奴解放後の時期におけるロシア経済、とりわけロシア農村に関して詳細に研究する際に信頼しうる基礎資料を提供している。この時代の統計学は、徹底した理論分析を志向するものであり、このことが数理統計学上の一般的な概念を解明する上で主導的な役割を果たしたのであった。

ソビエト統計の初期(1917－1930年)は、特にインテンシヴに統計調査活動が行われた時代として際立っている。すなわち、特別に組織された統計調査やサーヴェイが何度も実施され、『国民経済バランス』が初めて作成された時代であった。この時代はまた、多様な意見や概念、考え方が許容されており、外国における統計研究の成果も批判的に利用しようという時代的特性が見られた。

しかし、その後の時代におけるソビエト統計は、1930年代における指令的・官僚的システムの確立や、最も優れた経済学者や統計学者にまで及んだ大粛清によって、その発展を阻害されてしまった。

この時期の統計は、分析機能を犠牲とした上で、もっぱら日常的な課題の解決・策定や計画遂行の評価を主たる任務としていた。

第二次世界大戦(大祖国戦争)の時期における統計の役割は、労働力や物資に関する膨大な量の経常的な計算や、国内東部地域への生産力の再配置に関する課題を解決することにあつた。戦後になると、統計の役割はさらに増大した。国民経済バランスに関する業務が拡大し、インデックス法が深化し、数理経済モデルの構築と分析への利用が広まった。

現代において、ロシアの国家統計は、社会のニーズに応じて情報を提供するという日常的な課題に対応するだけでなく、国家統計制度がどのようにして市場経済に適したものになるかという複雑な問題にも取り組んでいる。2000年に向けた国家統計制度改革の基本方針は、1995年11月に開催された全ロシア統計家大会で

¹ [訳注] ゼムストヴォ(земство)とは、ロシア帝政期における地方自治機関のことである。

のユーリー・A・ユルコフ・ロシア連邦国家統計委員会委員長(当時)の報告に示されている².

本書では簡単にではあるが、ロシアの国家統計制度の歴史の各時代、出来事、学派に関して、また統計学分野において特に卓越したロシアの学者や実務家を紹介し、彼らが統計理論・方法論を発展させつつ国家統計組織の改善においてどのような役割を果たしてきたかを紹介している。

本書におけるロシア国家統計史概説を準備するにあたっては、以下の人々が関係している：イリーナ・I・エリセーエヴァ(アドバイザー：ロシア科学アカデミー・通信会員)、ヴァシーリー・M・プロスクリャコフ(筆頭著者)、V・I・ウスペンスキー(副筆頭著者)、V・M・クリュチニコフ、V・Ya・ロガヴァヤ、B・G・シヴォリノフスキー、D・B・スームキン。英訳はB・E・ゼレンコが担当した。

本書執筆に際して、以下の資料を参照している：アーカイブの部担当者であるD・I・ラスキン・歴史学博士候補によって作成されたロシア国立歴史古文書館のレファレンスガイド³；アーカイブ資料(本書ではその一部に関して写真を掲載している)；ボリス・G・プロシコ、イリーナ・I・エリセーエヴァ、『統計の歴史』(Плошко, Б.Г., и И.И. Елисеева (1990), *История статистики*, Москва: Финансы и статистика)。



² [訳注] 「連邦執行機関の制度と構造」に関する2004年3月9日付け第314号大統領令による制度改革に伴い、ロシアの統計機関である「ロシア連邦国家統計委員会」(ゴスコムスタット)が改組され、現行の「ロシア連邦統計局」(ロススタット)となった。

³ [訳注] 「ロシア国立歴史古文書館」(Российский государственный исторический архив: RGIA)所蔵のアーカイブ資料に関しては、複数のレファレンスガイド(путеводитель)が執筆されている。その一部に関しては、下記を参照(アクセス日: 2015年3月31日): <http://www.rusarchives.ru/federal/rgia/nsa1.shtml>.



第2章 ロシア統計の活動開始と組織構造

—18世紀末—19世紀20年代—¹

ロシアでは、1760年代から1770年代にかけて、経済・政治・文化の諸側面において著しい進歩が生じた。エカテリーナ2世の治世(1762—1796年)に「啓蒙絶対主義」の時代が訪れたのである。領主制＝農奴制はまだ生産力の発展を阻害するものとはなっておらず、商工業の発展も著しく、18世紀末には資本主義がまさに誕生しようとしていた。

国家の経済政策が大きく転換し、自由な経済活動を活性化する政策がとられた。それとともに国家行政組織も再編された。1770年代には経済参事会〔訳注〕：地方自治機関の執行部が解体され、1775年には地方行政改革が行われた。その結果、県行政府が国家運営の中心的な機関となり、その一方でこれまで国家の最高行政機関であった元老院が司法機関へと再編成された。

これらのことすべてが、当時のロシア統計の性格を左右する影響要因となり、その役割、組織形態、また活動方法に変化をもたらした、ということは言を俟たない。この変化のなかに、統計が社会状況の認識ツールとなる特徴をもつようになったことが見て取れる。すなわち、日常の狭い範囲の問題に対応することを目的とするのではなく、社会経済生活の状態に関する多様な統計データを獲得することを目的とする、新しいタイプの統計活動、いわば「経験知としての統計」が誕生したのである。

1764年以降にロシアにおいて行われたいくつかのユニークな統計活動は、その後の統計実務上の発展とロシアにおける統計学の確立の基礎になった。そのなかでも最重要の成果となったのが、『小ロシア総覧』(Генеральная опись Малорос-

¹〔訳注〕本章の訳出に当たり下記の文献を参照した：佐藤智秋〔訳〕「ロシア国家統計の150年、ロシア連邦国家統計の75年」『経済研究参考資料』, No.47, 1996年。アクセス日：2015年3月31日, https://www.hosei.ac.jp/toukei/shuppan/g_sanshi47_2.pdf。

сии)²や『国土調査』(Генеральное межевание)³である。後者の調査統計の作成に際しては、各県の境界の測量や地形の記録、歴史・行政・地理・経済といった側面における地誌が記録されている。

社会経済的発展の新しい課題の解決に向けて、国家行政組織の変革が必要となった。その過程において、財務記録や統計データを蓄積し、それらを包括的に分析することが緊急の課題として提示され、またそのための調査の実施方法を改善する必要性が増していった。まさにこれらの切迫した必要性こそが、統計学の新たな発展を導いたのである。

帝政ロシアの経済に関する統計的展望を最初に行ったのはキリル・キリロヴィチ・キリーロフ(1689–1737年)である。キリーロフは、元老院秘書官長でもあった人物で、歴史・民族・経済を踏まえた『全ロシア地図』(1734年)を作成し⁴、それ以降50年にわたりこの地図は実際に利用されていった。また、キリーロフはその著書『全ロシア国の繁栄状態』(1927年)のなかで、元老院が収集した財務資料や統計資料、またその加工指標を広く用いて、ロシア国家建国の父であり、皇帝であり、専制君主であったピョートル大帝の偉業を称賛した⁵。同書では、1710年に実施された各戸別の家計調査や、1718年に実施された第1回全国人口調査(ревизия)のデー

2 [訳注] 「ルミャンツエフの総合古記録」(Румянцевская опись)とも称される。エカテリーナ 2世により小ロシア県総督に任命されたピョートル・アレクサンドロビッチ・ルミャンツェフ＝ザドゥナイスキーは、税収増を主な目的として、コサックや農民等の財産状況を法的資料に基づき調査し、一覧を作成した。ブロックハウス・エフロン百科事典(オンライン)の同項目を参照(アクセス日: 2015年4月1日): http://dic.academic.ru/contents.nsf/brokgauz_efron/。

3 [訳注] ロシア帝国の支配地域の境界画定を目的として18世紀中盤(1765年)に国土調査が開始された。ブロックハウス・エフロン百科事典(オンライン)の同項目を参照。

4 [訳注] *Атлас Российской Империи* (СПб, 1734)は、ロシアにおける最初の印刷地図出版物である。同書の複製版が、*Атлас Всероссийской империи: Собрание карт И. К. Кирилова* (СПб.: Альфарет)として2008年に刊行されている。なお、キリーロフに関する日本語の記述としては、下記を参照: 豊川浩一(2010), 「ロシア帝国における植民問題の研究—ウラル地方を中心に—」『明治大学人文科学研究紀要』, 第67冊, pp. 119–153。

5 [訳注] その著書のタイトルは『我が国の父であり、皇帝であり、専制君主であるピョートル大帝の偉業によって開始され、もたらされ、維持されている全ロシア国の繁栄状態』(*Цветущее состояние Всероссийского государства, в каковое начал, привел и оставил неизреченными трудами Петр Великий, отец отечества, император и самодержец всероссийский и прочая, и прочая*)となっている。三上正利(1979)「キリーロフの生涯とその著『全ロシア国の繁栄状態』」『窓』, 第30号。

タが用いられている。ただし、全国人口調査をいかににより上手く実施するかという問題の重要性に関して、著者が当時認識していなかったことは、大いに問題である。このことについて問題提起したのはヴァシーリー・ニキーティチ・タチーシチェフ(1680-1750年)であった。タチーシチェフは、ウラルの国有工場の工場長であり、地域の工場経営者にして、エカテリブルグ市(建設1723年)の礎を築いた人物でもあった。タチーシチェフの業績の一つとして数え上げられる『全国人口調査に関する考察』(*Рассуждения по ревизии по головной и касающемся до оной*)は、人口数の調査法に関して研究を行ったロシアで最初の学術書となった(1747年に執筆されたが、刊行は1861年になってからであった)⁶。タチーシチェフが提案した人口調査に関する基本的な考え方は、統一化した調査フォーマットの確立、調査実施期間の短縮、調査官の技術の向上であり、最終的にこれらの提案は統計業務の実際の場において実行されることになった。

タチーシチェフによるこの提案は、1760年代に入り、ミハイル・ヴァシリエヴィチ・ロモノーソフ(1711-1765年)をはじめとして当時の研究者たちに支持された。ロモノーソフはロシア全土及び各地域の特徴に関係する統計データを収集するべく、30項目に及ぶ「学術的アンケート調査」を1760年に実施した。

ほぼ同時期に、上記の学術調査に続き、それに近似的な学術調査がフョードル・ミハイロヴィチ・ミルレル(1705-1783年)によって実施された。農業に関する質問を中心とした65項目に及ぶ「経済的問題」に関する質問票が、県知事やその他官僚、または数人の民間人に送付されたのである。

これらのアンケート調査は、地方における統計事業の発展という視点から見ても、また学術的な理解のための統計の活用という観点から見ても重要である。アンケート調査表それ自体(質問項目の選択や表現の方法)が、経済統計を確立するための一定の基礎となった。

さらに、ロシアにおける統計学の発展は、アレクサンドル・ニコラエヴィチ・ラディーシチェフ(1749-1802年)によって促進された。ラディーシチェフは統計学に関

⁶ [訳注] 阿部重雄(1996)『タチーシチェフ研究：18世紀ロシア—官僚=知識人の生涯と業績』(刀水書房)を参照。

する自身の考え方を「中国貿易についての手紙」(1794年)、「我が領地に関する記述」(1799年)、「法について」(1802年)といった著作に記している。ラディーシチェフは概して記述統計学の伝統に従っていたが、「政治算術」⁷や、ロシアの国民所得とその商品取引額の構成といった間接的な計算も行っている。さらにラディーシチェフは、農業統計、経済統計、貿易統計、人口統計、司法統計などの統計の概要をまとめた。

このように、当時芽生えつつあった統計科学には、国勢学だけではなく政治算術の傾向も見取れる。

1771年にロシア科学アカデミー([訳注]:当時の名称は、「ペテルブルク科学アカデミー」)・正会員となったウォルフガング・ルードヴィヒ・クラフト(1743-1814年)はその著作のなかで、人口統計の構築に必要な完全な条件を特定した上で出生率・死亡率の指標を作成し、人口増加の計算式を定式化して、とりわけ人口が2倍となるような条件を示した。

以上のように、18世紀のロシアの統計科学は、国勢の際立った特徴を記述する研究から、社会において生じるプロセスを包括的に捉え、そこで生じている発展の法則性を明らかにする研究へと転換していった、といえる。

18世紀後半におけるロシアの統計科学での大きな進歩は、パーヴェル1世の治世(1796-1801年)のもと、1790年代に強まった反動によってブレーキをかけられることになった。しかし、アレクサンドル1世治世(1801-1825年)の初期、つまり19世紀初頭には、ロシアの社会経済面で自由主義の傾向が認められ、行政制度にも及ぶ大規模な改革が実施された。このなかでも特に重要な改革として認識すべきは、部門別の行政制度への移行と省庁制の導入であった。

1802年9月8日付けの勅令(『サンクト・ペテルブルク・ジャーナル』,第1号,1804年)によって、各大臣は年末までに、担当する全ての部門の行政に関して元

⁷ [訳注] 従来、統計学は一国の国勢の記述を論じる記述的な「国勢学」に重きが置かれていたが、やがて英国におけるジョン・グラントやウィリアム・ベティによって、その数量的な観察と分析に重点を置く「政治算術」の分野が構成されるようになった。赤池弘次(1994)「統計科学とは何だろう」『統計数理』,第42巻第1号, pp. iii-ixを参照。

老院を通し皇帝陛下に報告書を提出することが命じられた。新しい行政組織の設置に伴い、統計事業の制度も変更され、県報告が復活することとなった。

そのため、ロシアにおいて行政組織としての統計機関の歴史が実質的な意味においてはじまったのは、1802年9月8日であったということが出来るであろう。

内務大臣のヴィクトル・パヴロヴィチ・コチュベイ伯爵の1802年9月19日付けの通達では、報告書の所定の形式が県知事に提示されている。また、その通達では、報告書に住民数、人頭税、穀物生産、農村の商店、食糧事情、作業場や工場、市の収入や公共建築物に関する情報を含めるように指示が与えられている。その結果、県知事による報告書の提出はかなりしっかりしたものになった。しかし、内容の信頼性は十分に高いものであったとは言えず、このことは報告制度を導入した人々、特に内務省自体も認めるところであった。

実際に、1802年の資料をまとめた内務省による報告書には次のような記述がなされている⁸：

「…この事業が困難であり通常のものとは異なっていたこと、また現場において既に多くの情報が喪失していたことが、この事業が全般的に当初の期待よりも十分な範囲で行われず、正確性を欠いていた理由である。しかし、それにもかかわらず、問題を詳細に説明し、当初見逃されてしまった欠点を明らかにし、調査質問票の表現をより正確にし、さらにそれを表によって補完することで、また、調査官の献身的な実務作業によって、より正確で統一的な情報を獲得し、この事業の目的により近づくことが出来るであろう、という確固たる期待を、初めてものである今回の試みから得ることが出来た」。

1802年9月1日には、皇帝の許可により、内務省総務部内に10名からなる貴族会が設置され、県によって報告された情報を加工処理するように委任された。1810年に、同組織は警察省の下に移管された。

⁸ [訳注] 内務大臣のヴィクトル・パヴロヴィチ・コチュベイ伯爵の署名が付された内務省報告書の一部は、11ページより添付されている。参照されたい。

1811年3月20日には、警察省管轄下に統計局が設置された。同組織を率いることになったのは、ロシア科学アカデミーの会員であるカルル・フョードロヴィチ・ゲルマンであった(1811年3月20日付け168号警察省通達)⁹。

1819年11月4日に、統計局は、そのままの構成で内務省官房へ移管された。

内務省や警察省以外にも、統計業務に従事していた省庁があった。このなかで特に重要性が高かった省庁は、運輸通信省(河川輸送データ)、商務省(貿易統計)、大蔵省(鉱業統計等)である。

政府統計資料は広く刊行された。1803年には商務省による統計集『1802年における様々なロシア貿易』が刊行された。その後、同様の統計集が初めは商務省によって、商務省の廃止以降は、大蔵省によって毎年出版されている。1806年には、内務省による統計集『1804年度内務省報告の付表』が刊行された。1819年11月29日には、大臣委員会会議において、統計にかかわる雑誌やその他の統計書の刊行に関する議論がなされた。

1823年6月12日に、統計局は内務省警察部の所轄に入った¹⁰。

1825年には、初めて、1811年から1825年の期間に実施された統計業務の一覧表が統計局によって作成された(1825年10月7日付け第18号内務省統計局文書)¹¹。

ロシア国家統計制度における大きな変化は、19世紀30年代半ばまでに生じているが、これは、政府が統計業務の組織化に取り組むべき国家的必要性に迫られていた時代に対応するものであった。

⁹ [訳注] 同通達に関しては、本訳書の付録 pp. IX–XII に掲載されている。

¹⁰ [訳注] 原文では5月と表記されているが、付録資料に従い6月と修正した。内務省統計局による文書(1823年6月12日付け第7号文書)については、本訳書の付録 pp. XIII–XXI を参照されたい。

¹¹ [訳注] 同文書に関しては、本訳書の付録 pp. XXII–XXIII を参照されたい。

「1802 年の最後 4 か月間における内務大臣による省設置に関する報告」

(『サンクト・ペテルブルク・ジャーナル』, 第 1 号, 1804 年.)

ПЕРВОЕ ОТДѢЛЕНІЕ.

ДОКЛАДЪ

*Министра Внутреннихъ дѣлъ
съ представленіемъ отгета
съ угрожденія Министерства
за послѣдніе четыре мѣсяца
1802 года.*

「1802 年の最後 4 か月間における内務大臣による省設置に関する報告」

(『Санкт-Петербуржскій-Журнал』, 第 1 号, 1804 年.)

(つづき)

Въ Высочайшемъ манифестѣ 8
Сентября, Ваше Императорское Ве-
личество повелѣвъ Министрамъ пред-
ставлявшъ чрезъ Правительствующій Се-
натъ письменный отчетъ въ управленіи
всѣхъ вѣренныхъ имъ частей, вмѣстѣ
съ тѣмъ означитъ соизволенія и главныя
черты составляющія сей отчетъ. Онъ
долженъ содержать въ себѣ изъясненіе,
какое употребленіе сдѣлано изъ денегъ,
опущенныхъ на годичное каждой части
движеніе, какіе успѣхи каждая изъ нихъ
имѣла, въ какомъ находящся они поло-
женіи и чего въ будущія времена отъ
нихъ ожидать можно. Такимъ образомъ
отчетъ долженъ содержать въ себѣ 1.)
Экономическое положеніе каждой части.
2.) Показаніе главныхъ операций въ ней
сдѣланныхъ. 3.) Настоящее положеніе,
въ коемъ она находящся и 4.) Возвръ-
неніе на тѣ вѣроятности, кои къ совер-
шенству ея въ будущемъ времени пред-
ставляются и съ пользою предприняты
быть могутъ.

Ясно, что таковой отчетъ предпо-
лагаетъ, чтобы всѣ части были уже въ
полномъ ихъ движеніи.



「1802 年の最後 4 か月間における内務大臣による省設置に関する報告」

(『 Санкт・ペテルブルク・ジャーナル』, 第 1 号, 1804 年.)

(つづき)

42

всѣхъ чиновъ въ Департаментѣ служащихъ, исключая Директора и Начальниковъ Экспедицій, опредѣлять и увольнять опредѣленіями Министра, съ конхъ списки для свѣденія будутъ доспавляемы въ Герольдію.

Опытъ и постоянное наблюдение въ управленіи дѣлъ могутъ предсавить со временемъ удобнѣйшіе виды къ внутреннему разпорядку сего Департамента. Министерствво будетъ тогда въ возможности поднести Вашему Императорскому Величеству полный планъ управленія всѣхъ частей въ вѣдомствво его соединенныхъ. А до того времени удерживая настоящій порядокъ вещей, оно будетъ стараться точностію исполненія сохранить связь и отношенія ихъ къ народнымъ нуждамъ, зная что сей естъ единый способъ оправдать Высочайшую къ нему довѣренность.

Подписалъ *Графъ В. Котубей.*





第3章 統計制度の発展の理論的基礎

—1830年代前半—1860年代初頭—

1830年代末にはその兆候が現れていた統計分野の新たな進歩は、40年代半ばには揺るぎのない事実となった。国家統計制度が改善され、その下で膨大な量の事業が実施され、統計を用いた経済研究や統計刊行物の出版数が増加し、統計に対する社会的関心も復活した。

1834年に、内務省審議会の下に統計局が特別に設置された(『ロシア帝国法律大全』、第2集第9巻第2部、1834年)¹。1834年12月20日に承認された「内務省審議会付属統計局法」によって、内務省の管轄下にある全ての部署の状況に関して詳細に、また出来るだけ正確な記録をまとめることが同機関の設置目的として据えられた。この他、同機関には、新しい都市計画案、県・郡の新しい境界画定、市の歳入と歳出に関する見積もり・推計を予備的に検討し、内務省管轄下の省庁

カール・フョードロヴィチ・ゲルマン^(*)：警察省統計局長(1811—1819年)、内務省統計局長(1819—1834年)。ロシアの経済学者・統計学者。

ダンツィヒ(当時のプロイセン)に生まれる。ゲッティンゲン大学で統計学と経済学を学び、1795年にロシアで働きはじめ、1807年にペテルブルク教育大学(後のペテルブルク大学)・政治経済・統計学教授となる。1809年より貴族幼年学校で政治経済学を講義する。1810年にはアカデミーの外国人会員に選ばれ、1835年には正会員となる。1806—1808年に『統計雑誌』(Статистический журнал)を編集発行した。ペテルブルク大学史学・文献学部学部長であり、1820—1830年代には科学アカデミーにおいて学術研究を行った。

主著として、『統計学一般理論の概説』、『統計学史』、『ロシアを中心とする統計書の歴史的展望』がある。また、ロシアにおいて初めて広範な統計文献の調査を行い、国家統計を制度化し、統計地図作成に関する独自の方法論をはじめて確立した。

* [訳注] カール・テオドール・ヘルマン。浦田昌計(1972)「C.Th. Hermann の思想—その「統計批判」論を中心として—」『岡山大学経済学会雑誌』、第3巻第3—4号、pp. 155—178に詳述されている。

¹ [訳注] 同法律は、本訳書の付録 pp. XXIV—XXVIII に掲載されている。

の建造物の新築案を経済面において検討する役割が委ねられた。

各省の総務部や県知事から受け取った情報資料に基づいて、統計局官房に委任された統計業務が行われた。法律上の規定により、統計官は、統計書・報告書の執筆に際して常に、記述の対象となる地域についてまずは歴史的に振り返った上で、現在と比較することが求められていた。また文書には、必要に応じて統計表が添付された。

同時に、全ての県都に、県知事が委員長を務め、総督が運営する統計委員会が設置された。県の統計委員会は情報を収集し、それらを検証した上で、定型のフォーマットに記録し、内務省統計局から受け取った統計表フォーマットに記入した。また、これらの情報に従い県全体や、工業、商業といったいくつかの経済部門に関して、個別に正確な記録がまとめられた。

県への統計委員会の設置の進展は緩慢であり、1853年以前には、欧露部(ロシアのヨーロッパ部分)の49県のうち統計委員会が設置されたのは33県であった。

1837年には、県知事年次報告制度の正式な導入が決定された。調査項目の範囲がこれまでのものから拡大したが、社会経済統計は県の状況に関する基本報告から除外された。内務省が県知事統計報告の項目を大幅に拡大し、人口・農業・鉱工業・商業などの経済生活の最重要な分野が報告に含められるようになったのは、ようやく1842年になってからのことであった。

1843年3月7日、27点の統計が付表として添付される年次報告の様式が承認され、全県知事に送付された(1843年3月7日付け第1514号内務省総務部文書)(18ページを参照)。

1847年以降、西部地域の地主所領の領地台帳を作成するための臨時委員会が内務省の下に設置された²。この領地台帳には領地の所有者ごとに土地の測量・

² [訳注] ニコライ I 世の治世の下で、1840年代後半に、リトアニア、ベラルーシ、右岸ウクライナといった地域において、領地台帳改革(Инвентарная реформа)が実施された。右岸ウクライナにおける領地台帳改革に関しては以下の研究に詳しい: 松村岳志(1996)「右岸ウクライナにおける領地台帳改革(一八四七—四八)の歴史的意義」『社会経済史学』, 第 61 卷第 6 号, pp. 741—768; 松村岳志(1998)「19 世紀前半の右岸ウクライナにおける国有地農民の改革—負担金納化の農業史的意義—」『スラヴ研究』, 第 45 号, pp. 139—161.

等級・評価などを詳細に記述することが要求された。委員会は専門家の不足や資金の不足のため調査の実施にあたって困難に直面した。そこで、地主所領の台帳作成と、内務省で行われていた他の統計業務を統合することが提案されたのである。

1852年12月22日付けの勅令によって、内務省所轄の国有地台帳臨時委員会と内務省審議会統計局に代わり、内務省が直接指揮運営する統計委員会が設置された(『ロシア帝国法律大全』, 第2集第27巻第1部)³。

さらに1858年3月4日に、統計委員会は中央統計委員会に改組された(『ロシア帝国法律大全』, 第2集第33巻第1部)⁴。中央統計委員会はその任務の性質上、統計部とゼムストヴォ部(地方部)の2つの下位部門に分けられていた。統計部は、政府が必要とする全行政部門の統計データを収集し、批判的に検証したうえで整理・加工処理し、それを公表することを義務づけられていた。一方で、ゼムストヴォ部は、地方自治体のあらゆる経済問題を事前に議論し処理することを課題としていた。

中央統計委員会は、その業務の範囲に入る事柄であれば、内務省所属の部局だけでなく、その他のより上位の行政機関に対しても統計資料を要求することが認められていた。全ての県統計委員会が中央統計委員会に従属しており、中央統計委員会は必要な報告資料を入手し、統計業務を監督するために、県統計委員会に対してしかるべき指令を出す必要があった。

このようにして出来上がったロシアの政府統計機関は、19世紀初頭に存在した組織と比べ確かな進歩を遂げたものとなった。

1850年代に、内務省は一連の特別な統計業務を遂行し、このことがある意味で1861年の(農奴解放)改革の実現の前提条件となった。これらの業務は、その特徴に従い、以下の3グループに分けられる: すなわち、(1)ロシアの農奴を特徴づける調査研究、(2)土地の価格一覧資料の整備、(3)領主の所有権・土地の利用状態・農奴の賦役・領主の債務の状況に関する調査、以上の3つである。

³ [訳注] 同法律は、本訳書の付録 pp. XXIX—XXX に掲載されている。

⁴ [訳注] 同法律は、本訳書の付録 pp. XXXI—XXXIII に掲載されている。

8^м Марта 1843. 1087

МИНИСТЕРСТВО
ВНУТРЕННИХЪ ДѢЛЪ
Департаментъ
ОБЩИХЪ ДѢЛЪ
МИНИСТЕРСТВА.

Одъясненіе
Статья 1

7 Марта 1843
(1514)

Случилось въ Министерствѣ
Внутреннихъ Дѣлъ 9 Марта
1843 года.

Вопросъ въ журналѣ подъ
№ 1514 ошлелъ въ
рѣши.

Господицу Уральскому
Генералу Никитѣ Г. Ми-
нистрѣ.

Государь Императоръ
Высочайше повелѣлъ мнѣ
совоимъ Высочайше
торого именованія въ фор-
мѣ годового отчета пред-
ставляемаго Его Величе-
ству Губернаторами; со-
ставленной въ свѣдѣствіе
сего многообразный от-
четъ удостоить Высочайша
го утвержденія и разослать
императорно по всемъ Ви-
царскимъ Губерніямъ.

Итакъ въ виду, что

「1843年3月7日付け第1514号内務省総務部文書」

(つづき)

годовые отчеты представляемы
на Высочайшее благоумотрени
ю 1^м Марта, Его Величество
изволило передать в Комитетъ
Г-н Министровъ, я считаю долгомъ
предпринять къ Вашему Престо
лительству съездитья тако
ваго образцоваго отчета съ сего
днемъ къ оному приложени
емъ.

Министръ Внутреннихъ Дѣлъ 

Директоръ К. Гамбуръ 

1852年には、ロシア全体に関する1849年の状況を報告する資料集が出版された。それは、県知事による報告資料『1849年の報告書により内務省統計局において作成された統計表』に基づいたものだった⁵。また、1860年には、領主の土地所有について整備した資料が、『解放農奴に関する法案起草委員会の付録資料』として刊行された。さらに、都市における統計業務の成果は、2巻組の『都市の社会秩序と経済』(1859年)と、多数の巻で構成された『ロシア都市の移住地』(1859年に着手され、農奴解放後に出版が完了)という2点の基礎的な統計出版物にまとめられている。

1840-1850年代には、一連の大規模な統計調査が実施され、このことが統計学の発展を促す契機となった。当時のロシアの統計学者たちは、統計学が社会状況を研究する科学分野とどのような関係を持つか、という問題に大きく傾注していた。統計学者たちは次のように明確に記している：

社会状況を研究する科学分野と統計学との間には、有機的な関係が存在する(ニコライ・イヴァーノヴィッチ・ナデージュジン、『経済統計学の一分野としての国富：規模と法則』, 1845年)；

統計学が必要であるという根拠は、社会科学の結論に見出される。それは、統計学者によって調査される個別の問題を吟味するものなのである。(ドミトリー・アレクセーエヴィッチ・ミリューチン、『軍事地理学と軍事統計学の意義に関する批判的考察』, サンクトペテルブルク, 1846年)；

統計学の大きな意義は、社会科学の研究から導き出された結論を立証し、社会科学を大きく前進させることにある(ミリューチン, 前掲書)。

ゲルマン, ミリューチン, ナデージュジン, ジュラフスキー(ドミトリー・ペトローヴィチ)といった一連の研究者らは、当時すでに、統計学の理論的研究とはその方法的な研究に他ならないことを明らかにしていた。そのため、統計データの出所、統

⁵ [訳注] 原著では、書誌情報が記されていないが、*Статистические таблицы, составленные в Статистическом отделении Совета Министерства внутренних дел по сведениям за 1849 г.* (СПб., 1852), のことである。

計調査の組織化と実施，統計機関の組織化の改善にかかわる問題を何よりもまず解決しなければならない，と認識していた。また，学問分野として統計学の問題群の分類を理論的に基礎づけるとともに，社会経済現象の分析にその手法を広く活用することも行った。さらに，平均値の定理や，動学プロセスの特性，符号関係の統計的研究等の分野においても大きな成功を収めた。

この時代におけるロシアの統計学者が果たした主たる歴史的貢献は，ロシアの統計学における政治・経済的な研究の意義を確立させ，そこへ向かう志向性を強固なものにしたということにある。また，当時の統計学者による理論的研究の成果は，個々の統計的研究のための確固たる基礎を築くものとなった。しかしながら，そのなかでも主となる意義は，その後の統計学の発展に対して肯定的な影響を与えたことに見出される。政治・経済的志向性の思想は，農奴解放期の国家統計官のなかでも進歩的な人々によって用いられるようになり，このことがゼムストヴォ統計の成功と結びついたのであった。

コンスタンチン・イヴァノヴィチ・アルセーニエフ：1834－1853 年において内務省審議会付属統計局長／統計委員会委員長。

ロシア人統計学者，歴史家。学生時代からゲルマン教授の指導の下で統計研究を行っていた。オロネツ県の統計概説書を作成。1819－1821 年，ペテルブルク大学において政治経済学と統計学の教授となる。1836 年に，ペテルブルグ科学アカデミー・会員に選出され，1841 年より正会員となる。1835－1853 年外務省にて統計業務を指導した。アルセーニエフの業績は，ロシアの地域分類の基礎づけを最初に試みたことにあり，その成果は『ロシア国家の統計学概論』（1818－1819 年）および『ロシア統計概説』（1848 年）に示されている。『内務省雑誌』において，「ロシア国民の性別人口構成に関する研究」，「ロシアの国民教育に関する統計概説」等の統計に関する論文や，他にも歴史に関する論文を発表している。アルセーニエフはロシア地理学協会（1845 年）の創設者の一人でもある。





第4章 ゼムストヴォ統計と国家統計

—19世紀60年代—20世紀初頭—

1855年に入り、ニコライ1世の崩御の後、第一皇子のアレクサンドル2世が皇帝に即位(1855—1881年)し、より柔軟な行政のあり方を求めて、いくつかの大規模な社会制度改革＝「大改革」を実施した。政府の指示に従い、各県には、農奴解放に備えるための県貴族委員会が設置された。1861年2月19日に、アレクサンドル2世は農奴解放令の法案に署名した。農奴制の廃止に続き、地方行政をはじめとする一連の政治改革が実施された。

1864年、県・郡レベルで、選挙によって選出される権力機関であるゼムストヴォ機関が創設された。1960年代の改革のなかで、ゼムストヴォ機関は33県に設置された(1914年には設置県は43となった)。ゼムストヴォの役割は、食料品の供給や慈善活動、商工業、道路建設、郵便、保険、国民教育への物質的援助、保健衛生に及んでいた。ゼムストヴォは、年1度召集される県会や郡会と、3年任期で選出され、ゼムストヴォの業務を直接実施する執行機関としての県・郡の参事会を有していた。ゼムストヴォは、その廃止権限を有する内務省や県知事の統制下にあった。ゼムストヴォの諸機関の活動資金は、不動産所有やそこからの収入に基づいて課せられる地方税を主たる財源としていた。

ゼムストヴォ機関は、地方行政の適切な経営を行っていくために詳細な統計データを必要としていたが、このようなデータを政府の諸機関は提供することが出来なかった。そのため、多くのゼムストヴォが地方統計制度を独自に組織した。19世紀末までに、34のゼムストヴォ設置県のなかで、統計機関を有していたのは25県に上る。このような統計機関は、統計学者をゼムストヴォ統計に必要な不可欠な資料の収集や調査を実施する担当者として個別に招聘するか、または統計部署自体を創設するかの手段により、開設された。情報の入手は、既存の住民登録の原資料から

データを抽出することによって行われた。このような方法に加え、調査官を派遣せずに、民衆学校の教師やその他の人々を介した郷(ヴォーラスチ、農村共同体)での現地情報収集を行うなどした。

ゼムストヴォ統計は現状を評価する役割としてスタートしたが、ゼムストヴォの課税対象に関する資料が収集されるようになるとすぐ、ロシアの経済実態や農村の現状及びその今後の発展に関する課題に取り組むようになった。課税対象の価値や収益性の見積もりに統計収集が限定されていなかったゼムストヴォでは、統計部局の業務内容や組織体制のあり方は一層複雑であり、収集された資料もより豊富で多様性に富んでいた。このようなゼムストヴォのうち、モスクワ県とチェルニゴフ県の2県の統計機関が傑出していた。その共通点は、統計部局の職員を調査官として全ての郡に順次派遣し、研究に必要なすべての問題に関する資料を、現地で収集したという点にある。その一方、業務の目的や方法の点には相違が見られた。

チェルニゴフ県の統計は農地の大きさと土壌の質に注目し、モスクワ県の統計は農業や農民の現状、農地への労働力の活用方法や形態に注目していた。すなわち、チェルニゴフ県の統計家にとって最重要の調査対象であったのは土地それ自体であったのに対し、モスクワ県の統計家にとってのそれは土地を耕作する農民だったのである。チェルニゴフ県の統計機関では、統計業務の最初に、農業用地がリスト化され、地形図上に土地区画境界が記入される。その後統計官が現地に赴き、規定の分類法に従い土壌の等級を確定させたうえで、各区画の収穫量に関する情報を得る。これらの情報に基づき、郡レベルで各等級の土壌がもつ平均的な生産力(収穫量)と区画の平均的な生産力が計算された。

一方で、モスクワ県の統計機関では、郡を構成する経営単位(戸)それぞれの情報が収集された。加えて、現地に派遣された職員の個人的な観察を通して、住民の生活条件や活動状況の全般に関する情報が収集された。郡の現地調査の際に最重要の任務となったのは、農家に対する戸別調査の実施であった。この調査では、農家ごとに、居住用・非居住用の建物の数と大きさ、世帯構成と男女別の働き手の数、([訳注]: 農奴制廃止に伴う)分与地と購入した土地の面積及びその利用法、借地の面積と借地代、家畜の種類と頭数、未開拓の農耕地の数と面積、雇

用労働者数等の情報が収集された。この戸別調査に先立ち、郡から提供される文書資料から様々なデータが抽出された。さらに統計機関は、入手可能な多くの台帳や証書から補足情報を集めた。農家に対する戸別の調査を補完するため、村落の全般的な状況も調査された。このようなモスクワ県のゼムストヴォ統計の実施手法は、より広く普及していき、多くのゼムストヴォによって採用された。当初存在していたゼムストヴォ設置県における統計機関の間における調査実施の相違は徐々に解消していき、統計事業の業務上の手続きは統一化されていった。このようにして、ロシア全県で同じようなやり方で実施される、ゼムストヴォ統計のある種の定型が出来上がったのである。

ゼムストヴォ統計の計算の精密さは、それまでの統計実務のそれをはるかに上回っていた。詳細な項目に及ぶ現地調査が行われ、その調査方法も改善され、分類法が広く活用され、統計表はさらに発展していった。ゼムストヴォ統計の発展を促す上で大きな役割を果たしたのが、統計家による研究会や会合であった。1887年から1917年にかけて、17回の会議が招集された。農民の日常生活に関する調査

ピョートル・ペトローヴィチ・セミョーノフ＝チャン＝シヤンスキー：内務省付属中央統計委員会委員長(1863－1882年)。内務省付属統計評議会議長(1875－1896年)。

地理学・統計学・経済学分野で活躍した偉大なロシア人の学者であり、政治家。ペテルブルク科学アカデミー・名誉会員(1873年)、国家評議会議員(1897年以降)。1848年にペテルブルク大学を卒業し、1849年からロシア地理学協会の正会員となる。自由経済協会の委託により、欧露部の黒土地帯を調査し、アジアの探検旅行を何度も行った。1861年農奴解放令法案起草委員会に参加。1857年には内務省付属中央統計委員会の設立を指揮。1870年に第1回全ロシア統計家大会を組織し、ゼムストヴォ統計の基礎を築いた。欧露部の経済地域区分の分類図を作成した。また、豊かさのレベルによる農家の分類法を初めて利用し、農家グループ間の経済格差を分析した。家計調査も行った。国際統計家会議に参加した組織者の一人である。1863年にサンクト・ペテルブルクで開催された国際統計家会議ではロシア代表となり、1872年の国際統計家会議では議長を務めた。5巻組の『ロシア帝国地理統計辞典』(サンクト・ペテルブルク、1863－1885年)を編纂した。1873年にペテルブルク科学アカデミー・名誉会員となる。農業(収穫)統計のための資料収集の制度を再編成した。ゼムストヴォ統計の発展を奨励し、1897年より国家評議会議員を務めた。

第1回ロシア帝国人口センサス(1897年)を指揮した。統計学、経済学、地理学の分野において100点以上の研究を発表している。

や家計調査の他に、ゼムストヴォ統計は国民教育の調査を行い、1880年代初頭からは保健衛生に関する統計調査も行うようになった。

ゼムストヴォ統計の発展は次の3段階を踏んだ：

- (1) 統計業務の開始と体系化(1870—1894年)：この時期、ゼムストヴォ統計機関は、組織面・財務面で政府から独立していた；
- (2) 統計業務の範囲が拡大し、資産価値の評価も行うようになった(1894—1900年)：この時期に、ゼムストヴォ統計機関の活動が政府の統制下におかれるようになった；
- (3) ゼムストヴォ統計の業務に対して政府から補助金が与えられるようになった(1900—1917年)：このため、統計機関の独立性は制約を受けた。ゼムストヴォ統計業務は第1次世界大戦の開始に伴い事実上停止した。

ゼムストヴォ統計家は、様々な統計手法に関して幅広くかつ手際よく説明を加えていただけではなく、新しい手法を開発し、既存の手法と統合したその活用も行った。彼らによって、アンケート調査法(当時の主な情報源)や調査票の書式が開発され、標本調査や、それと全数調査を組み合わせたサンプル調査法が極めて手際よく活用された。ゼムストヴォ統計の資料作成の重要な特徴は、分類法を体系的に幅広く用いたことにあり、この際、特に、アレクサンドル・ポリカールポヴィチ・シリケーヴィチ(1849—1909年)によって提案された統合表による分類が広く用いられた¹。ゼムストヴォ統計家の研究では、分類法は現象や因果関係やその形態の特定を分析する手段としての役割を持っていることが明らかにされており、このことが、分類による研究のさらなる発展を促す土壌を生み出したといえる。

ゼムストヴォ統計の発展に大きく寄与したのは、ヴァシーリー・イヴァーノヴィチ・オルロフ(モスクワ県ゼムストヴォ統計部長、1876—1885年)、ピョートル・ペロローヴ

¹ [訳注] 家計を分類する際に、ある1つの特徴(例えば世帯人数)のみで分類するのではなく、それに他の特徴(例えば所得)を考慮して分類するような場合に統合表が作成される。より具体的には、2つの性質を行と列にとり、クロス表を作成することによって、家計は世帯人数と所得水準に応じて分類されることになる。

イチ・チェルヴィンスキー ([訳注]: チェルニゴフ県のゼムストヴォ統計家), ヴァシーリー・エゴーロヴィチ・ヴァルザール ([訳注]: 同上), セルゲイ・アンドレーヴィチ・ハリヅメノフ ([訳注]: ゼムストヴォ統計家. サラトフ県等で活動), ヴラジーミル・グスタヴォーヴィチ・グロマン (ペンザ県ゼムストヴォ統計部長), フョードル・アンドレーヴィチ・シチェルビナ (ヴォロネジ県ゼムストヴォ統計部長, 1904 年に帝国サント・ペテルブルク科学アカデミー・通信会員となる) といった統計家たちであった。

1840-1850 年代に活発化した国家主導の統計事業は, 1860 年代においても継続して実施された。この時期に出来上がった国家統計制度が, 農奴解放後の時代を通してずっとほぼ同じ形態で維持された。

1861 年 7 月 27 日付けの勅令に従い, 「農民関連の事業が首尾よく進むように」と, ゼムストヴォ部が中央統計委員会から分離され独立の組織となった。ゼムストヴォの経済問題に関して大臣会議に持ち込まれた問題は, 承認された規則に従い, ゼムストヴォ部に提示され, そこで取り込まれることになった (『ロシア帝国法大全』, 第 2 集第 36 巻第 2 部, 1861 年)²。

1863 年 4 月 30 日に, 内務省管轄の統計組織に関する規定の制定が皇帝アレクサンドル 2 世によって承認された。アレクサンドル 2 世は, 国家評議会の進言に対して「かくあるべし」(*Быть по сему*) と決定を下した (『ロシア帝国法大全』, 第 2 集第 38 巻第 1 部, 1863 年)³。

これによって, 内務省の付属組織として, 統計評議会と中央統計委員会が創設されることが決定された。

1863 年の規定では, 内務省付属統計評議会の活動内容は, 「ロシア帝国域内において統計情報を収集し加工する最も適切かつ信頼しうる方法論を確立し, このことに関する全ての業務に対して一律の指示を与えること」にあった。統計評議会は以下のことを委託された: 帝国全域に及ぶ情報収集に関わり, また他省庁に協力を要請する全ての統計業務の実施方法について審議すること; 各省庁によって

² [訳注] 同法律は, 本訳書の付録 pp. XXXIV-XXXVI に掲載されている。

³ [訳注] 同法律は, 本訳書の付録 pp. XXXVII-XL に掲載されている。

行われる個々の統計事業の成果に関して審議し、それらの刊行に向けて統一の様式を確立すること；様々な省庁の日常業務において得られる統計データの記録方法を改善すること、である。しかし、1875年5月24日に皇帝に承認された規定により、統計評議会は、「行政統計業務において各省や他の主要な行政機関を補助」することが義務となり、「統計評議会自体が審議対象とする問題は、内務省の統計部署に関係することか、内務省の部署の統計業務の遂行に関する問題のみに限られる」ことになった。

一方で、1863年の規定では、内務省付属中央統計委員会は、内務省内における統計業務の遂行を役割とすることが定められていた。中央統計委員会は、毎年地方の委員会から送られる情報を収集・検証・加工し、統計評議会による決定に基づき他省庁から提出される統計データを整理することが任務とされた。また、中央統計委員会に集まった統計データを、統計評議会の規定に従って、他省庁に引き渡す任務を負っていた。さらに、内務大臣による委託や統計評議会の決定に則り、様々な臨時統計業務を実施した。全ての県・州・市の統計員が、実務面や研究の方向性に関して、中央統計委員会に従っていた。中央統計委員会は、内務省の大臣会議の構成員であり統計評議会の常任議員である委員長によって運営されていた。委員長は、統計学の専門家の中から選出され、その任命と解任は、内務大臣の進言に基づいた元老院への勅令か皇帝の命令によって行われた。

アレクサンドル・グリゴリーエヴィチ・トロイツキー：内務省付属統計評議会議長(1864－1866年)。

ロシア人統計学者。1857年、内務省付属中央統計委員会統計部長に任命される。1858年に内務省大臣会議の構成員となり、1861年に大臣補佐、1867年に国家評議会議員となる。ロシア地理学協会の活動に積極的に参加し、ロシア国家統計の制度構築に大きな役割を果たした。その主張により、内務省の統計機関が改組され、中央統計員が部局の地位を獲得し、省庁間の統計事業を調整するために統計評議会が創設された。トロイツキーは統計評議会を指導した。トロイツキーはロシア地理学協会の優秀な統計家グループを中央統計委員会の任務に招聘し、このことで、先進的な統計学の発想が実務に対しても直接影響を与えることが出来るようになった。『ロシアにおける農奴人口』、『第10回人口センサスによるロシアの農奴人口の研究』等の著作を持ち、農奴人口統計に関して基礎研究を行った。

「国家評議会の進言と皇帝アレクサンドル 2 世による承認『かくあるべし』」

Въснѣно имъ саму.

*въ Царскомъ сѣдѣ
30^е Августа 1883 года.*

МНѢНІЕ ГОСУДАРСТВЕННОГО СОВѢТА

Государственный Советъ, въ Департаментѣ Государственной Экономии и въ Общемъ Собрании, разсматривая представленіе Министра Внутреннихъ Дѣлъ объ устройствѣ статистической части при Министерствѣ Внутреннихъ Дѣлъ, многими положили
1, Проекты Положенія объ устройствѣ

69

(つづき)

въ статистической части
при означенномъ Министерствѣ
и штата Центральнаго Статистическаго при немъ Комитета, представить, при мнѣніи Государственнаго Совета, на Высочайшее утверждение Его Императорскаго Величества,

2. Съ открытіемъ Центральнаго Статистическаго Комитета упразднить существующій нынѣ при Министерствѣ Внутреннихъ Дѣлъ Статистическій Отдѣлъ Центральнаго Статистическаго Комитета, и

3. Исчисленный по новому

178
штату расходъ (26.000 р. сер. въ
годъ) на содержаніе Централь-
наго Статистическаго Коми-
тета отнести вполне на
суммы Государственного Каз-
начейства и затѣмъ производя-
щійся нынѣ изъ частнаго зем-
скаго сбора некоторыхъ губер-
ній отпускъ сумм (14.261 р. 77 к.)
на содержаніе Статистичес-
каго Отдѣла Центрального
Статистическаго Комитета
прекратить.

Предсѣдатель Государственного Совета
Графъ В. Бундъ

1866 年には、中央統計委員会による最初の統計集『ロシア帝国統計紀要』(Статистический временник Российской Империи)が刊行された。この統計集には、領域、人口、鉱工業、商業、輸送、教育、犯罪に関する情報が記載された。これはロシアの統計年鑑として最初のものであった(1905 年以降には、『ロシア年鑑』(Ежегодник России), 1912 年以降には、『ロシア統計年鑑』(Статистический ежегодник России)と書名が変更されている)。

ロシアでは、19 世紀と 20 世紀をまたいで、国家統計(中央の統計組織)とゼムストヴォ統計(地方)を経験したことで、統計を活用する意義がさまざまな分野において科学的な意味で理解されるようになった。農業、工業、鉄道輸送、商業といった産業部門別統計や労働統計、財政統計、人口統計の作成が行われるようになった。

この時代の特徴は、統計の実務に様々な現地調査やセンサスの手法が広く活用されていた点にある。

最も重要な調査統計だったのは、長い準備期間を経て行われた 1897 年の第 1 回ロシア帝国人口センサス(それ以前の人口統計は全国人口調査(ревизия)に基づくものであった)である。1862-1897 年の間に、地方の諸都市でローカルな人口センサスが 98 回行われた(1869 年は P・P・セミョーノフが指導⁴; 1881 年・1890 年、ユーリー・エドゥアルドヴィチ・ヤンソンの指導による; 1882 年、アレクサンドル・イヴァーノヴィチ・チュプロフ、イヴァン・イヴァーノヴィチ・ヤンジュル、A・C・ポスニコフらの指導による)。ロシア帝国人口センサスは 1897 年 2 月 9 日(旧暦 1 月 28 日)の

アレクセイ・ボリソヴィチ・ロバノフ=ロストフスキー：内務省統計評議会議長(1867-1874 年)。

アレクサンドロフスキー学習院を卒業。外交職を歴任し、1859-1863 年には在コンスタンチノーブル・ロシア大使となる。オルロフ県知事。内務大臣補佐(1867-1878 年)。1882-1895 年に在ウィーン・ロシア大使を務め、後に外務大臣となる。

歴史学と系譜学の分野において研究著作がある。

⁴ [訳注] ピョートル・ペトローヴィチ・セミョーノフ=チャン=ジャンスキーのことである。セミョーノフは、1856 年に、当時の西欧人にとって行くことが難しかった天山山脈(チャン=ジャン)を初めて探索した。50 年後の 1906 年 11 月 23 日に、その栄誉と功績を称えて、ニコライ 2 世が勅令をだし、セミョーノフの苗字に「チャン=ジャンスキー」を追加することを許した。

状況を調査するために、セミーノフの指揮下で実施された。人口は、現在人口、常住人口、登録人口の3つの分類ごとに調査された。

センサスでは14項目の質問に関して調査が実施され、3種類の調査票フォームが用いられた⁵。人口センサスは成功裡におわり、その成果が、ロシア全体を総括する2巻組の『1897年1月28日実施全国人口センサス集計結果帝国内総集成』で発表され、県別、州別、4都市に関しては個別の巻が刊行された。

農業統計では、農家の戸別調査が実施された。

1903年と1910年に、中央統計委員会が農業機械・用具に関する戸別調査を実施した。

1875年以降には、軍事に向けた馬がどれくらい存在するかを明らかにするため、軍馬調査が実施された(農奴改革以降の時期に、調査は9回行われた)。

一方で、家畜に関する調査は実施されておらず、家畜数に関するデータが毎年収集されるようになったのは1904年以降のことであった。中央統計員会は、1883年以降、標本調査に基づき収穫量統計を整備した。

工業統計分野において最重要の成果であったのは、ヴァシーリー・エゴロヴィチ・ヴァルザールの提案及び主導の下で1900年と1908年に実施された工業センサスである。1900年センサスでは、物品税の課税対象外の工業部門のみを対象と

ニコライ・アレクサンドロヴィチ・トロイツキー：内務省付属中央統計委員会委員長(1883-1903年)。

ロシア人統計学者。アレクサンドル・グリゴリエヴィチ・トロイツキーの長男。1885年にロンドンで開催された国際統計学会議のロシア代表を務める。国際統計研究所・正会員に選ばれる。ローマ、パリ、ベルン、ウィーンの統計家大会に参加。ペテルブルクで開催された国際統計学会議の開催を準備した。人口センサス中央委員会の委員として、1897年第1回ロシア帝国人口センサスの準備を行い、そして実施した。トロイツキー指揮の下で、人口センサスの最終的な成果が総括され、1897-1905年においてトロイツキー編集の統計が刊行された。国際統計学研究所の組織・活動に参加し、1897-1913年に副所長となった。

⁵ [訳注] ちなみにこの3種類の調査票フォームとは、農民用(他計式=調査員が記入)・地主用(自計式)・都市住民用(自計式)の3フォームである。

していたが、1908年センサスでは製造業の全てにおいて調査が行われた。

教育統計は学校統計に示された。最初の学校センサスが1880年に実施された。

1880年代後半から統計学の学問的水準がさらに向上した。この発展に大きく貢献したのが、パフヌーティー・リヴォーヴィッチ・チェビシエフ(1821-1894年)によって生み出されたペテルブルク学派と呼ばれる数学者らであった。チェビシエフや、アンドレイ・アンドレーヴィチ・マルコフ(1856-1922年)、アレクサンドル・ミハイロヴィチ・リャプーノフ(1857-1918年)を筆頭とする彼の弟子たちは、確率論の分野においてロシア学派を形成した。

ロシアの数学者たちの研究成果は、人口学や保険の分野において、とりわけ死亡率表の作成の際に活用されるようになった。統計学は時とともに厳密な科学、数学となっていかなければならないという考え方が、統計学は現象の記述からその分析へと移りつつある社会科学であるという見方と結びついたのである。

しかしながら、統計学は数学である、という見解をすべての学者が共有していたわけではなかった。この考えに否定的であった研究者に、ロシア科学アカデミーの通信会員(1892年以降)のユーリー・エドゥアルドヴィチ・ヤンソン(1835-1893年)がいた。ヤンソンは、統計学の主たる目的は原因と結果の因果関係の解明にあるものの、確率論によって検討対象となる現象の原因を明らかに出来るとは限らない、と主張した。ヤンソンは、記述統計学を擁護する者として、数学や特に確率論に依存しない独立した学問としての役割を統計学に認め、大数の法則を否定し、現象の観察や分類、統計実務の組織化の問題に対して大きな注意を払った。

ヤンソンの考え方は、レフ・ヴァシーリエヴィチ・フォードロヴィチ、ニコライ・パヴロヴィチ・アンツィーフエロフ、コンスタンチン・グリゴリーエヴィチ・ヴォブレイ、レオニード・ヴラジミールヴィチ・ホドスキーなどをはじめとする、あらゆる世代のロシア人統計家に大きな影響を与えた。

統計調査法の分野において大きな貢献をもたらしたのは、モスクワ大学講師のアレクサンドル・イヴァーノヴィチ・チュプロフ(1842-1908年)であった。チュプロフは特に、調査資料の質を向上させるような現地でのフィールドワークによるデータ収集の方法や、調査で得られた資料の信頼性を確固たるものにする目的で、「相互に

関連する情報」を得られるような質問を項目に含める調査方法を好んでいた。また、チュプロフは、ゼムストヴォ統計による統合表の作成を理論的に一般化した一方で、モノグラフの執筆を行うような事例研究の方法論も発展させた。

1880 年は推測統計学(ギリシャ語の「推定」の単語に由来する)の誕生年であるともいえる。この年、後に著名なロシア人経済学者となる当時法学部の学生であったヴラディーミル・アンドレーヴィチ・コシンスキーは、『統計資料の作成方法について』と題するパンフレットの中で、確率論の定理を前提とするとき、一部の事例を用いるという大規模な標本調査は、結論を帰納法的に導き出しうる方法として利用することが可能であり、かつ先進的である、ということの根拠を示した。

ロシアにおいて確率論を研究する学者集団の形成を促したのは、カザン大学教授のアレクサンドル・ヴァシーリエヴィチ・ヴァシーリエフ(1853-1929 年)、ヴラディ斯拉フ・ヨシフォヴィチ・ボルトケーヴィチ(1863-1931 年)、アレクサンドル・アレクサンドロヴィチ・チュプロフ(1874-1926 年)⁶らによる研究成果であった。ヴァシーリエフは論文「確率法則と数理統計学」(『ヨーロッパ報知』, 1892 年)において、大量の観測データを用いることで、なんからの根本的な変化が生じたのか、それとも観測された変化は単なる偶然の範疇におさまるものであるか、について判断を下すことが出来る、ということを証明した。そこでの結論は、確率論に基づく社会統計が数学の一分野である数理統計学になりつつある、というものであった。

パーヴェル・イヴァーノヴィチ・グレゴリエフスキー：内務省付属中央統計委員会委員長(1911-1914 年)。内務省付属統計評議会議長(1914-1914 年)。

ロシアの経済学者。ヤンソンの指導の下で共同体の土地所有に関する統計を研究し、1883 年以降は、鉄道省において鉄道統計を担当し、鉄道の財務統計を再編成した。1890 年以降、サンクト・ペテルブルク大学の教授となる。その著作物には、穀物取引、鉄道建設、金融問題に関する貴重なデータが掲載されている。サンクト・ペテルブルクの人口センサスに関する活動に参加した。政治経済学の理論に関する著書が複数ある。国際会議にも複数回参加している。

⁶ [訳注] 前述のアレクサンドル・イヴァーノヴィチ・チュプロフの息子。チュプロフの生涯と業績等に関して次の日本語論文で紹介されている：近昭夫(2005)「チュプロフと"チュプロフ学派"：最近のロシアにおけるチュプロフ研究から」『西南女学院大学紀要』, 第 9 巻, pp. 120-129.

ボルトケーヴィチの業績で最も有名なものは「統計法則について」(『法律通報』, 1905年, 第8号, 第10号)である。ボルトケーヴィチは, 統計は, ベルヌーイの定理で表されるような確率密度とは無関係である, と記した。現実の世界で生じた出来事のそれぞれは, いくつかの原因の結果として生じたものである。従って, 推測統計学はその方法論を確率密度に求めるのではなく, 期待値に求めるものでなければならない, とする。

数理統計学派の考え方を一般化し, その基礎概念に哲学的根拠を与え, 統計学と確率論の関係を明らかに出来た人物こそ, 偉大なロシア人統計学者, 数理統計学派の真のリーダーであったチュプロフである。チュプロフは, 統計学が確率論によって基礎づけられるようになることを予想し, またそのような転換を促し, 数理統計学の発展を促進した。チュプロフの理論と方法論の分野における業績は, 統計分析の実務, とりわけ標本抽出法の普及に大きな影響を与えた。また, このことには, チュプロフとゼムストヴォ統計家の関係や, 全ロシア・ゼムストヴォ統計家大会におけるチュプロフの研究報告などが大きく寄与している。チュプロフの基本的な主張は, 『統計学要綱』(サンクト・ペテルブルク, 1909年), 『相關理論の基本概念と基本問題』(モスクワ, 1926年), 「確率統計の基本的課題」(『統計通報』, 1925年, 第10号~第12号)等の研究において述べられている。この中で, あらゆる学問が, 永久不変の一般的法則を探求するノモグラフィ的(法則定立的)な科学と, 場所や時間といった特定の条件下における具体的な現象の法則性を解明するイディオグラフィ的(個性記述的)な科学に区別される, と記述している。従って, 客観科学としての統計学はイディオグラフィ的(個性記述的)な科学に分類され, 方法科学としての統計学はノモグラフィ的(法則定立的)な科学に分類される。統計学の認識対象についてチュプロフはさらに次のような主張を行っている。その一つは, 一義的な機能上の連関と同時に, 互いに独立した多くの原因が複雑に絡み合って生じるいわゆる「自由な連関」「緩い因果関係」が存在することである。また, 確率論は「自由な連関」を計測するための原則的基礎であり, この際に得られた連関の統計的な計測が客観的であることを裏付けるものである, と主張した。チュプロフは, ロシアにおいても海外においても, 確率論の普及にあたり大きな影響力を発揮した。

チュプロフはまた、分類法に関する研究も進め、これについては「統計観察の分類論について」(『サンクト・ペテルブルク工科大学紀要』, 1904年, 第1巻第1-2号, サンクト・ペテルブルク)という業績を残している。

この論文によって提起された内容は、特に、ゼムストヴォ統計家のグリゴリー・イヴァーノヴィチ・バスキン(1866-1937年)の研究において、実際に活用されている。バスキンは、農民研究に際して、地域分類、統合分類、下位分類の原則を提示した。

19世紀後半から20世紀初頭にかけて、統計学には次のような方向での発展が見られた。それは、推測統計学の誕生と確立、ゼムストヴォ統計家をはじめとする統計家の実務的経験による統計方法論の一般化、数理統計学の一般化、統計学の分化、というものであった。

ニコライ・ニコラエヴィチ・ベリャフスキー：内務省付属中央統計委員会委員長(1914-1917年)

ペテルブルク大学を卒業し、内務省での勤務を中央郵便・通信局から開始した後で、大蔵省に勤務した。法律学校と法科大学で教鞭をとる。警察法修士。1914年以降、法律学校教授職のまま中央統計委員会委員長となった。





第5章 ソ連期の国家統計組織

—1918—1991 年—

ソビエト時代において、統計事業は、その業務の規模は異なるものの、全ての行政組織において、組織成立の時点から行われていた。その第一歩となったのが最高国民経済会議(BCHX)の設立であった。最高国民経済会議は、全ロシア中央執行委員会(ВЦИК)令に従い1917年12月14日に設立され、経済全般を統括する全国的な中心機関として機能した。1918年後半以降、最高国民経済会議は、経済全般にかかわる組織から工業部門の人民委員部へと変更された。最高国民経済会議のもとには、統計とセンサスにかかわる専門の部署が組織された(その課題には、特に1918年に実施を予定していた工業企業センサスの準備が含まれていた)。しかしながら最高国民経済会議は、しかるべき規模において統一性を保ち、組織的な方法で統計業務にあたることが出来る状況にはなかった。そこで、統一かつ集権的な国家統計制度が必要となったのである。

1918年6月に、第1回全ロシア統計家大会が開催された。当時最高国民経済

パーヴェル・イリイチ・ポポフ：ロシア・ソビエト連邦社会主義共和国中央統計局局长(1918—1922年)。ソ連人民委員会附属中央統計局局长(1923—1926年)。

1909—1917年に、トゥーラ県において、戸別の全数調査と家計特特別の事例研究を組み合わせながら、家計の統計調査を行った。1917年に、農業省農業センサス部長となった。1918年には、「国家統計規則」の策定に参加した。ポポフによる参加・指導の下で、1918年、1920年、1923年に各種のセンサスが実施され、1926年のセンサスが準備された。ポポフは1939年のセンサス実施委員会にも参加した。ポポフはセンサスの他に、一連の家計調査も組織した。また、過去の古く不完全な統計資料の体系的整理・統合と出版を行い、雑誌『統計通報』と『価格公報』を刊行した。さらに、国民経済バランスの作成に関する方法論的問題の研究も行った。1926年から1946年にかけて、ロシア・ソビエト連邦社会主義共和国国家計画委員会幹部会と、全ロシア農業アカデミー幹部会の構成員であり、ロシアの Gosplan では農業部長を務めた。1928—1929年、ソ連中央統計局参事会会員となることが承認され、国際統計協会大会において2度のソビエト代表を務めた。1949年、ソ連中央統計局附属学術・方法論評議会会員に任命された。

会議統計・センサス部の長を務めていたパーヴェル・イリイチ・ポポフが国家統計法案を提起し、大会ではその審議が行われた。

1918年7月25日に、「国家統計」に関するソビエト連邦人民委員会議(Совнарком)令(規定)によって、中央統計局を全国的な統一組織として設立することが正式に決定された(1918年7月25日付けソビエト連邦人民委員会議令)¹。同法令と、1918年9月に承認された「地方統計機関の設立に関する規定」及び「中央統計局付属統計問題評議会に関する規定」は、ロシア・ソビエト連邦社会主義共和国におけるソビエト国家統計制度の基礎となった。

民間の企業や組織は中央統計局の要求に応じて、組織構成や活動内容に関して必要とされる全ての統計情報を提出する義務を課せられた²。市民、軍事、宗教に関係する政府機関や社会組織の全てが、中央統計局による統計情報の収集とその利用に全面的に協力する義務を課せられた。また、法令で規定された規則や、中央統計局による特別な指示や指令に従って、所轄の部署において統計業務を監督し、統制する義務があった。

政府組織であれ社会組織であれ、民間人・公人を問わず、統計分野に関係する出版を行うもの全てが、刊行物を出版から1ヵ月以内に2部ずつ中央統計局に

ヴァレリアン・ヴァレリアノヴィチ・オボレンスキー(党での通称は、N. オシンスキー)：ソ連中央統計局長(1926-1928年)。ソ連国家計画委員会付属中央国民経済計算局局长(1932-1935年)。

1917年以降、ロシア・ソビエト連邦社会主義共和国国立中央銀行総裁となり、最高国民経済会議議長を務める。1921-1923年に、土地人民委員部副長官及び最高国民経済会議副議長。1923-1924年、在スウェーデン全権大使。1925-1928年、ソビエト国家計画委員会幹部会の構成員。主著として、『ロシア南部の穀物収穫』(1899-1912年)、『農業に対する国家統制』(1920年)、『国民経済計算の現状と課題』(1932年)がある。

¹ [訳注] 1922年末にソビエト社会主義共和国連邦が成立するまでは、ロシア・ソビエト連邦社会主義共和国中央統計局として存在した。中央統計局は、1923年にソ連人民委員会議付属中央統計局へ改組された。

² [訳注] 1918年6月28日における産業国有化令の布告によって、100万ルーブル以上の資本を有する大規模工業企業が国有化された。その後、手工業等の企業(1918年9月7日)や、小規模の企業(1920年11月29日)に関する国有化令が發布された。1920年11月までに国有化された企業の割合は7~8割である。詳細に関しては、下記の研究を参照：西澤富夫(1948)『国有化問題の研究』、世界評論社。

提出する義務を課せられた。

1926—1927年、中央統計局と地方国家統計機関が再編された。ソ連中央統計局局長が人民委員会において議決権を有する構成員となり、中央統計局はソビエト統合人民委員部の権限を付与された³。

1930年初めに、ソ連中央統計局の独立性は奪われることとなった。統計局の職員と機能はソ連国家計画委員会(ゴスプラン)に引き継がれ、そこにゴスプラン経済統計課が設置された。1931年12月には、経済統計課は自律的な組織としてソ連国家計画委員会附属中央国民経済計算局(ЦУНХУ)へと改組され、政府の直轄下におかれた。

国民経済を国家によって指導・管理する必要性が強まっていったことを背景として、統計業務の改善が求められた。1948年8月10日付けソ連閣僚会議決定によって、ソ連の統計業務を改善し、統計制度を再編成することが採択された。そして、ソ連閣僚会議附属中央統計局の設立によって、中央統計局がゴスプランの指揮下から分離され独立の組織となったのである。

1948年の国家統計組織の再編を受けて、中央統計局に統計方法論課と科学

セルゲイ・ヴラディーミロヴィチ・ミナーエフ：ソ連国家計画委員会経済統計課課長(1930—1931年)。ソ連国家計画委員会附属中央国民経済計算局局長(1931年)。

アダム・イヴァーノヴィチ・クラヴァリ：ソ連国家計画委員会附属中央国民経済計算局局長(1935—1937年)

経済学博士。専門分野は労働経済学・統計学。1924—1930年、最高国民経済会議幹部会代表幹部、1928—1930年に幹部会幹部。1930—1932年、ソ連労働人民委員部副長官。1933—1935年、中央国民経済計算局第一副局長、ソ連国家計画委員会幹部会幹部。ソ連国民経済発展第1次5ヵ年計画の策定に参加。労働資源、労働力の合理的な配分と利用、労働生産性、労働報酬の問題を研究。また、一連のセンサスを指揮・実施した。

³ [訳注] 第2次世界大戦以前の時期のソ連では、政府執行機関(内閣)に相当する人民委員会(ソビエト連邦人民委員会)が設置され、その下に、省に相当する人民委員部が配置されていた。1924年のソビエト連邦憲法に従い、人民委員部は2つに区別された。1つは、全連邦的(общесоюзные)な人民委員部であり、もう1つが統合(объединённые)人民委員部である。前者には、連邦構成共和国レベルの人民委員部が直接従属しており、共和国においても全権を有していた。その一方で、後者の統合人民委員部は、実際の業務を遂行する連邦構成共和国レベルの同名の人民委員部を通して活動した。

技術会議が設置されることとなった。科学技術会議は、統計の方法論的問題に関して科学的な助言を行うセンターとして設置され、最重要の統計業務に関する方法論上の問題、その内容、指示書を検討することが使命として課せられた。

(〔訳注〕：またこの制度再編の過程において)『統計通報』誌(Вестник статистики)の復刊と、統計書籍の出版社として「国家統計出版社(ゴススタイズダート: Госстатиздат)の設立が決定された。

1956年に、鉱工業部門別省が解体され、各経済地域の鉱工業を主管する組織として国民経済会議(ソブナルホーズ)が設立されたため、それまで各省庁が行っていた主たる統計報告書の作成業務がソ連中央統計局の部署によって行われるようになった。

官庁によって行われる統計業務は概要情報の整理にとどまり、企業や組織ごとの個別的な統計報告は(〔訳注〕：統計局に)提出されることになった。

鉱工業部門や建設部門において統計報告が中央統計局へと集中化された(1957年)ことに続いて、それ以外の経済部門においても、管理方式は以前のものであったが、中央統計局への統計報告の集中化が行われた。

1964年に部門別鉱工業省の組織が復活した後においても、提出され処理されることになる統計データ量が増大し、その詳細さも増していったため、工業統計の集中化は維持された。

報告資料の収集と処理をソ連中央統計局の部署に集中させたことによって、国家統計制度を地域の支部から中央に至るまで一層確固たるものにするべく、統計業務の機械化を全面的に強化させる必要が生じた。州レベルの統計局には、コンピューターセンター(機械計算ステーション)が設置され、地区レベルには計算機ステーションが設置された。その後、地区・計算機ステーションは、国家統計監督局と統合され、ローカルな統計組織として地区情報計算ステーションへと再編された。統計業務を機械化する必要性は、1926年人口センサスの資料の処理に際して深刻な検討課題として提起されたのがそもそもの発端であった。1927年1月の人民委員会議決定は、統計計算業務の機械化の問題に取り組み、国家統計業務の機械化に関する計画案を人民委員会議に提出し、承認を得るという課題を中央統計

局に課した。

1950年代から1980年代においては、再編された中央統計局は、社会経済政策を確実に実行出来るようにするために、統計の方法と組織の両面に関して政府によって提起された課題の解決に取り組んだ。

1980年代末になると、完全なホズラスチョート(独立採算制)による企業経営、新方式による社会経済発展計画の策定、質的指標の役割の強化といったソ連経済管理体制の根本的な改革期(ペレストロイカ)の条件の下で、国家統計制度は企業合同や組織の業務の評価に根本的に新しい方法の導入を行う方向で動き出した。この時期、経済分析や統計情報の改善、報告制度の効率化や信頼性の強化、統計の透明性の拡大、統計組織の再編と役割の向上が重視された。

1987年にソ連中央統計局は、ソビエト社会主義共和国連邦国家統計員会(ソ連ゴスコムスタット)に改組された。

以上で概観したソビエト統計の時代は、それ以前と比べて、その活動の活発さの点で際立っている。すなわち、特別に組織されたセンサスや調査が多数実施されたのである。また、ソ連期において最初の国民経済バランスがこの時代に作成された。

既に1918年末には、中央統計局によりロシア全体の工業企業に関するセンサスが実施されている。また、1920年8月には、人口センサス、労働力調査、農業センサス、簡略的な工業企業センサスが全ロシア規模で実施された⁴。

1920年の各種のセンサスの資料は全ロシア電化計画(ゴエルロ・プラン)の作成の基礎となった。

ソ連統計が最初に成した基礎的な業績の一つは、1924年7月1日付け労働国防会議決定に基づき、最初の国民経済バランスとして1923/1924年度のバランスを作成したことである。この国民経済バランスの作成は、方法論・理論・実務の観点において複雑であり独特のものであった。

⁴ [訳注] 可能な限りにおいて、当時内戦中であり、全土はカバーしていない。1920年には人口センサスが実施されているが、ロシア共和国・ウクライナ・ベラルーシのみが対象であり、トルケスタンは対象となっていない。

この研究成果の長大な序文でのなかで、パーヴェル・イリイチ・ポポフ⁵(中央統計局長、国民経済バランス作成委員会委員長、同編集責任者)は、強い確信をもって次のように記している:

「統計学、経済学、ロシア及び西欧のいずれの文献にも、([訳注]: バランスを作成するという)このような業績の例はなく、我々は作業を進めるにあたって、技術的な問題を独自に解決してだけでなく、研究を行うための方法論的前提条件を解明していかなければならなかった」。

国民経済バランスの作成によって、部門間における生産物の流れを追跡し、生産と配分の流れに沿った部門間の相互関係を明らかにすることが可能となった。

部門間関係の分析にバランス法を用いたことは、国民経済バランスの作成者が最初に達成した最も大きな研究成果の一つであったが、このことは当時まだ認識されていなかった。後にヴァシーリー・レオンチェフはこれらのアイデアを「産業連関表」(Input-Output Analysis)として創造的に発展させた。

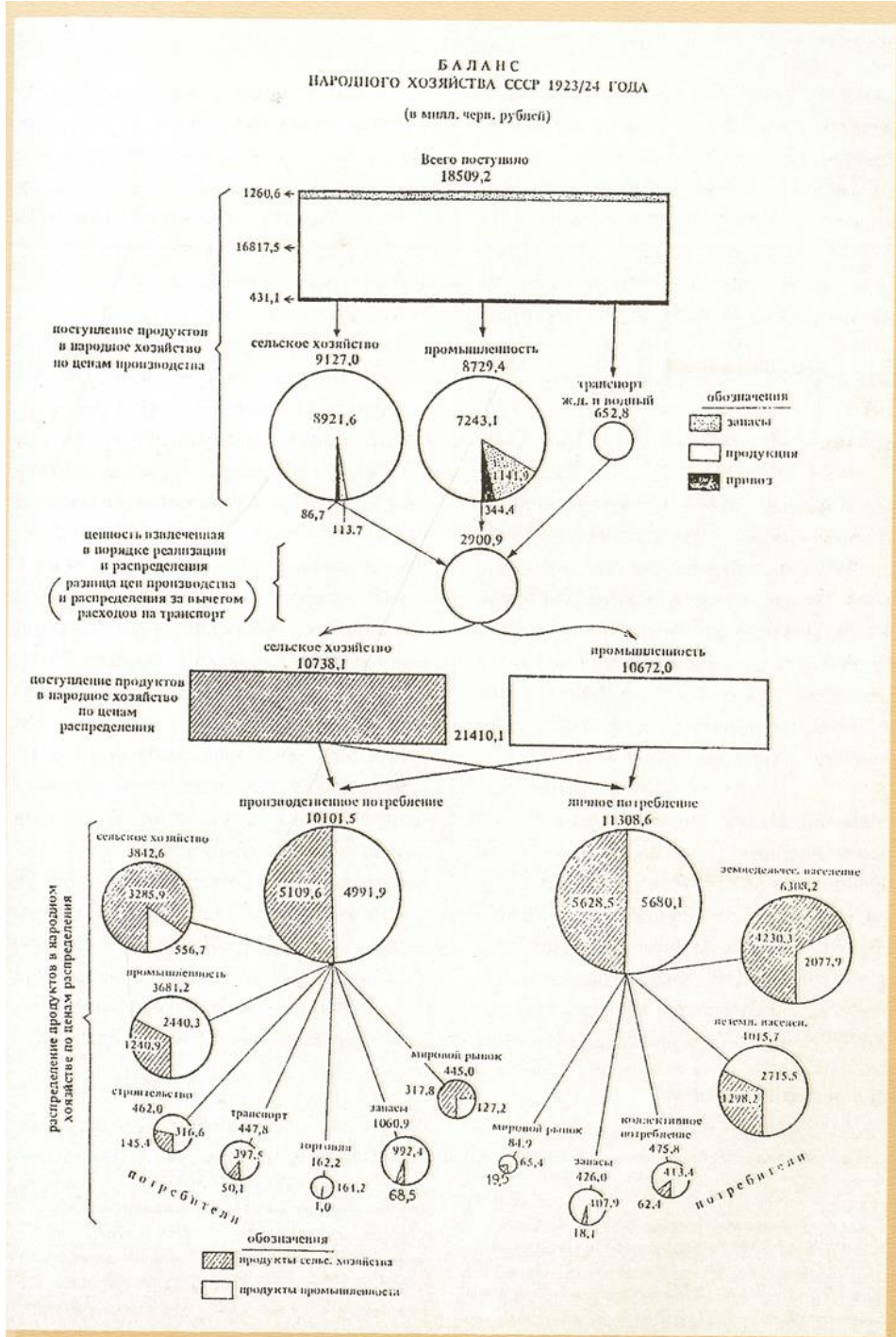
1926年から1930年には、次のような一連の統計調査が行われた。すなわち、いわゆる「B(ベー)票」による年次工業・企業調査⁶、労働生産性とその要因に関する調査、当時の工業部門の相当な比重を占めていた小規模企業調査といった統計調査である。また集団農場(コルホーズ)と国営農場(ソフホーズ)の経営に関する統計的分析の方法論の構築が開始された。1926年に全国的に実施された人口センサスは重要な国民経済的意義を持っていた。また1927年には全国学校センサスが行われ、その資料は初等義務教育への移行に利用された。

1930年代には、企業・組織の年次統計報告制度が導入された。また1932年と1934年の工業機械センサス、1932年と1935年以降毎年実施された家畜センサス、1935年の商業センサス、1937年と1939年の人口センサス(1937年人口センサス

⁵ [訳注] 原著では Б.И. Попов となっているが、П.И. の誤りであり、ロススタット・ウェブサイトでも修正されている。

⁶ [訳注] 1926年にソ連中央統計局工業統計課が設置され、事業所からの定期的報告に基づいた統計作成への移行が始まった。この際に、新しい調査票(B票)が導入され、単一形式による統計報告が行われた。この制度の詳細に関しては下記文献を参照: 山口秋義(2003)「B票について」『ロシア国家統計制度の成立』, 梓出版社, pp. 141-145.

「1923/1924 年国民経済バランスの概要」



の結果は公表されていない⁷といった一連の大規模な統計調査が実施された。

大祖国戦争期に、戦時下という条件の下で喫緊の課題を解決するために、ソ連にいかなる資源が現存するかを明らかにし、それらを動員することを可能にしたのが統計であった。最も重要な意義を持っていたのは、物資に関する臨時センサス、人口・労働力の規模と構成に関する調査と推計であり、また軍事戦略面で最も重要な企業や経済部門の活動に関して機動的な統計を組織化することであった。

大祖国戦争期とそれに続く 1946－1947 年に、中央統計局によって実施された臨時センサスの回数は合計で 142 回にも及ぶ。

戦後初期の統計は、戦中期に特有の基本的な特徴を備えていた。戦争の終結から 1947 年まで、機械や資材に関する臨時センサスが 37 回にわたり実施され、年齢・性別・職業・賃金別の労働者・職員に関する一時調査が行われた。毎年の家畜センサスが再開され、多年生植物に関するセンサスが行われた。

戦後最初の全ソ的な人口センサスが 1959 年 1 月に実施された。

国民経済会議(ソブナルホーズ)の創設や社会分野への注目の強まりから、鉱工業部門の新方式による分業と特化に関して一連の調査が行われた(1958 年)。また、生産工程の機械化と自動化、設備の近代化、工業部門への新しい技術プロセスの導入と改善に関する調査(1958－1961 年)、供給体制の分業化による地区間・地域内の生産連関(1960 年)、包装商品の取引や販売員のいない商店の業務に関する標本調査(1958－1962 年、1967 年)、セルフ・サービス方式による食堂業務の標本調査(1958、1959 年)、クレジットでの商品販売に関する標本調査(1960 年)、無機肥料の使用とその収穫量の増加に対する効果に関してのコルホーズ・ソフホーズの標本調査(1964 年、1965 年)が行われた。

イヴァン・ドミートリエヴィチ・ヴェレメンチェフ：

ソ連国家計画委員会附属中央国民経済計算局局長(1937 年)。

⁷ [訳注] 本書の刊行後の 2007 年に、1937 年人口センサスの結果が刊行されている。その一部は、デモスコープ(Демоскоп Weekly)のウェブサイトで見ることが出来る(アクセス日: 2015 年 4 月 6 日): <http://demoscope.ru/weekly/2009/0373/biblio05.php>。

1920年代末から1930年代初頭にかけて、国民経済バランスの作成が再開された。この作成作業の成果は、1928年、1929年、1930年の国民経済バランス資料集として、A・I・ペトロフの監修のもとで編纂され、刊行された。1930年代半ばには、住民貨幣収支バランスの作成の手順がまとめられ、実際に作成作業が開始された。また、1930年代末には社会的生産物と国民所得の（〔訳注〕：生産・消費・蓄積における）分配・再分配のバランス（いわゆる財務バランス）が作成された。

1950年代半ば以降、ソ連全体と構成共和国別の国民経済バランス作成が一層活発に行われるようになった。そのなかでもとりわけ広く普及したのは、生産物の生産・配分に関する部門間バランス（119－120の産業部門）であり、1959年以降には事実上5年に1度の頻度で作成されるようになった。

1972年以降には、より簡略なものではあったが部門間バランス（18部門）が毎年作成されるようになった。

1950年代に、『国民経済計画遂行の結果に関するソ連中央統計局の発表』、『ソ連国民経済統計年鑑』、産業部門別や地域ごとの統計集といった統計資料の出版が再開された。

1920－1930年代の統計学は、ロシア統計学の伝統を継承し、統計学の理論を大きく発展させた。様々な学派や思潮によって新しい科学概念が生み出されていた。主導的立場にあったのは、中央統計局附属方法論会議、実験統計・統計方法論研究所、ウクライナ科学アカデミー・人口学研究所といった統計的・数理的手法

イヴァン・ヴァシーリエヴィチ・サウチン：

ソ連国家計画委員会附属中央国民経済計算局局長（1938－1940年）。

ヴラディーミール・ニコラエヴィチ・スタロフスキー：ソ連国家計画委員会附属中央国民経済計算局局長（1940－1948年）。ソ連中央統計局局長（1948－1975年）。

経済学者・統計学者。ソ連科学アカデミー通信会員（1958年）。1919年以降、統計学や国民経済計算の分野で活躍した。1939－1940年、ソ連国家計画委員会附属中央国民経済計算局副局長。主に、統計学の一般理論、人口統計、数理統計、政治経済学を研究した。

の支持者(賛同者)やロシアの数理統計学派である。また、動学理論や予測理論の分野においてもっとも独自性の強い研究成果が得られた。

ニコライ・ドミートリエヴィチ・コンドラチエフは景気循環論を発展させ、アルベルト・リヴォヴィチ・ヴァインシュテインは経済予測と産業連関分析の研究に取り組んだ。

多くの研究者グループが成長指数や価格指数の構築の問題に取り組み成果を上げた。アレクサンドル・アレクサンドロヴィチ・コニュース、ミハイル・ヴァシーリエヴィチ・イグナチエフ、セルゲイ・パーヴロヴィチ・ボブロフなどである。また、ニコライ・セルゲーヴィチ・チェトヴェリコフ(1885-1973年)はロシアではじめてインデックス法に関して論文を発表した。一方で、ソビエト統計学においてインデックス法に関する最初の書籍となったのは、セルゲイ・パヴロヴィチ・ボブロフ(1889-1979年)による『国会計画委員会のインデックス』(モスクワ, 1925年)であった。この著書には次の3つの基本的問題が設けられている。すなわち、インデックスの平均値の選択、ウェイトの問題、基準年との比較の問題である。

スタニスラフ・グスターヴォヴィチ・ストルミリン(1877-1974年)とヴラディーミル・ニーコノヴィチ・スタロフスキー(1905-1975年)は、平均値よりも集計値に重きを置いた。ナジェージダ・マトヴェエーヴナ・ヴィノグラードヴァは、その著書『インデックス理論』(レニングラード, 1930年:手稿として出版された)において、インデックスの分析概念を発展させた。実際の指数の計算とその科学的な根拠づけに大きな貢献をもたらしたのはミハイル・ヴァシーリエヴィチ・イグナチエフ(1894-1959年)であった。イグナチエフは、ソ連及びその他諸国の商品一般に関する物価指数を算定し、そ

レフ・マルコーヴィチ・ヴォロダフスキー：ソ連中央統計局局長(1975-1985年)。

1938-1940年にレニングラード州計画委員会副委員長, 1940-1942年にレニングラード市及びレニングラード州に関するソ連国家計画委員会全権代表, 1942-1948年にソ連国家計画委員会総務部部長, 1948-1955年に工業統計部部長, 1956-1967年にソ連中央統計局副局長, 1967-1975年にソ連中央統計局第一副局長となる。1953-1955年に統計出版社(ゴスストイズダート)の編集責任者となる。ソ連中央統計局での業務と同時に、研究と教育にも従事した。1962年に経済学博士, 1964年に教授資格を得る。統計学、経済学、計画論の分野において研究成果を発表し、国連統計委員会やその他国際機関の活動にも積極的に参加した。また10年間にわたり、経済相互援助会議(コメコン)統計常任委員会議長を務めた。

の比較を初めて試みている。

収穫量に関する統計資料の作成は、実際的な必要に迫られてのものであった。この課題に取り組んだのは、ヴラディーミル・ミハイロヴィチ・オブホフ、ボリス・セルゲーヴィチ・ヤストレムスキー、N・M・セミョーノフらの学者グループであった。ニコライ・セルゲーヴィチ・チェトヴェリコフは穀物価格と収穫量との関係を研究し(1924年)、ある年の収穫量が隣接する年の収穫量と連動すること([訳注]: 自己相関があること)を示す景気の波もしくは「循環」の存在を明らかにした。チェトヴェリコフはまさにこのことにより自己相関の問題が持つ実践的な意義を明らかにしたのである。エヴゲニー・エヴゲニエヴィチ・スルツキー(1880-1948年)は、互いに相関関係を有する時系列データ上で生じる擬似周期的な循環を発見した。このことによって、時系列データ間の相関係数に誤りを見つけ出すことが可能となった。さらにスルツキーは均衡理論と確率過程の研究に取り組んだ。

時系列分析もソ連において大きく注目された研究分野であった。ボリス・セルゲーヴィチ・ヤストレムスキー(1877-1962年)は、時系列データの定常性と変動に関する研究を行った。ヤストレフスキーは、ヴィルヘルム・レキシス([訳注]: ドイツの経済学者・統計学者, 1837-1914年)の統計事象の安定性に関する研究を批判的に検討し、「数理統計研究における静学と動学」(『統計通報』, 1923年, 第7号-第11号)と題する論文を執筆している。このことを手始めとして、時系列分析に関して一貫性をもった理論体系を構築することが可能となった。ヤストレムスキーは、変数の相関関係、統計データの相対的安定性がデータ数に依存すること、大数の法則、頻度と確率の概念上の関係、平均と分布の評価といった問題に関して研究を行った。

A・G・コヴァレフスキーはその著書『標本調査法の基礎理論』において、理論的に根拠がある標本抽出法の実践的な意義を示した。そこでは、層化抽出法に関心が向けられている。標本抽出の基礎理論は、チェトヴェリコフの論文「標本調査に関して(方法論の理論的特徴づけの試み)」(『統計通報』, 1919年, 第8号-第12号)において示されている。

ヴァレンチン・イヴァーノヴィチ・ホチムスキーは、その著書『最小二乗法による時

系列データの線形化(チェビシェフの手法)』において統計学の基本問題を検討した。この研究成果は放射線を用いて時系列データの外挿を行うことを可能にし、そのための特別な計算用行列表も添付されたものである。

1925年に刊行されたアレクサンドル・アレクサンドロヴィチ・チュプロフによる晩年の著作『数理統計学の基本的課題』と『相関の基礎理論』は、相関分析を普及させ、相関関係の特異性を明らかにし、相関関係と因果関係の無矛盾性を明らかにした。様々な(関数的、確率的)分析方法の弁証法や、測定誤差によって関数関係が確率的関係に変化する可能性が明らかにされた。

農民の経済格差、すなわち家計分類を分析するための統計的方法論に対しても関心が向けられている。アンナ・イヴァーノヴナ・フリヤーシェヴァの論文「農民の階層化を検討するための大量統計資料の分類原則の問題について」(『統計通報』, 1925年, 第1号—第3号)では、分類の際に細分化の方針を一貫させることと、いくつかの類型の家計を合算することが提案された。農家は、いくつかの家計特性の組み合わせに基づいて分類される。その特性とは、活動内容(耕作、非耕作)、搾取的経営の有無(雇用労働者の規模、農業機械・用具・家畜の貸し出し、商工業施設の有無、借地の有無)である。ヴァシーリー・セルゲーヴィチ・ネムチーノフは、自身の論文「農村における階級分化の統計的研究」(1926年)、「農家の社会経済的分類に関して」(1927年)、「農家の階級分類の試み」(1928年)において、農家を分類する際に生じる問題に関して詳細な分析を行った⁸。

ミハイル・ヴァシーリエヴィチ・プトゥーハ(1884—1964年)とユーリー・アフクセンチェヴィチ・コルチャーク=チュプロフスキー(1896—1967年)は、人口統計の問題、特にロシアの死亡率に関する表の作成法の問題、婚姻率・離婚率・出生率・女性1人当たりの出産率に関する統計表の作成法の開発研究に取り組み、成果を上げた。

保健衛生統計の発展は、ピョートル・イヴァーノヴィチ・クルキンに多くを負っている。クルキンは、住民の疾病統計を整備し、死亡と病気の原因の分類を行った。ス

⁸ [訳注] この時期のネムチーノフの主要な研究として、「農村の階級分化」『1924—1925年のウラルの経済』(1926年, スヴェルドロフスク: ウラル州統計局)、「農民の階級分類の試み」『統計通報』(1928年, 第1号)がある。

タニスラフ・グスターヴォヴィチ・ストルミリンは、出産数の減少と生産年齢人口の減少を算定し、1921－1941年のロシアの年齢性別人口構成の予測を行ったが、その予測の大部分は正しかったことが確認されている。

犯罪に関する詳細な分析は、ミハイル・ニコラエヴィチ・ゲルネットが著書『道徳統計』(1922年)において行っている。アレクサンドル・ヴァシリエヴィチ・チャヤーノフ(1888－1937年)は家計統計を作成した。チャヤーノフは、「簿記統計」と呼ばれる複式簿記によって農家の経営効率を評価した。チャヤーノフは『家計調査：歴史と方法』(1929年)をはじめとする著作において、課税の問題と方法、標本の代表性、家計調査の歴史を考察した。

工業統計に関しては、調査単位の規定、工業センサス、産業部門の分類問題について研究が行われている。これらの研究課題の解決に大きく貢献したのが、マリア・ナターノブナ・スミス([訳注]: スミス=フォークナー)、ベルンガルド・ボリーソヴィチ・カフェンハウス、ドミートリー・ヴァシーリエヴィチ・サヴィンスキー、スタニスラフ・グスターヴォヴィチ・ストルミリン、ヴァシーリー・エゴーロヴィチ・ヴァルザールであった。工業生産物の総量と工業生産額の総合指標の構築法が開発され、工業部門における労働生産性の計測法が改善された。

1930年代においては、アーロン・ヤコヴレヴィチ・ボヤルスキー、ヴラディーミル・ニーコノヴィチ・スタロフスキー、ヴァレンチン・イヴァーノヴィチ・ホチムスキー、ボリス・セルゲーヴィチ・ヤストレムスキーらの研究において、統計の確率的性質が証明され、数理統計学の手法を用いることの必要性が強調された。

1957年、1968年、1977年には、ソ連中央統計局の主催により全ソ統計家大会が開催された。

1956年に、経済相互援助会議(コメコン)の枠内において、加盟国の経済発展に関する主要な価額指標の国際比較が行われるようになった(1959年、1966年、1973年、1978年、1983年)。

1932年には、ソ連国家計画委員会附属中央国民経済計算局の附属組織として、統計データを機械的に処理する最初の機関が創設された。企業組織の統計報告が集中的に処理されるようになった。この機関はソ連全土において人口センサスを

実施するべく、1958年に中央機械計算ステーションに改組された。

1967年に、ソ連中央統計局計算センターが設立され、1994年以降にはロシア連邦国家統計委員会計算センターとなり、現在もロシア連邦内での情報計算処理の業務を行っている。

1963年には計算センター・経済情報システム立案研究所(ソ連中央統計局附属科学研究所)が設置され、現在ではロシア連邦国家統計委員会附属統計経済研究所として活動を行っている⁹。

1971年には、ソビエト中央統計局附属全ソ計算機械化・計算設計技術研究所が設置され、現在のロシア国家統計委員会附属統計情報システム科学研究・設計技術所([訳注]: 現在は、ロシア連邦国家統計局附属統計情報システム科学研究所)となっている。

各時代のロシアの共和国レベルの国家統計機関の長は以下のとおりである。

| | |
|------------|------------------------|
| 1926-1931年 | セミョーン・パーフヌチエヴィチ・セレダー |
| 1932-1936年 | ニコライ・イヴァーノヴィチ・ソロヴィヨフ |
| 1936-1937年 | モイセイ・マールコヴィチ・ムードリク |
| 1937年 | アナトリー・リヴォーヴィチ・クラエヴィチ |
| 1937-1940年 | フョードル・ニキーティチ・フィリップフ |
| 1940-1947年 | フョードル・イヴァノヴィチ・クチャニン |
| 1947-1950年 | アレクサンドル・ミハイロヴィチ・スハレフ |
| 1950-1970年 | ボリース・ティモフェーヴィチ・コルパコフ |
| 1970-1985年 | アレクサンドル・パーヴロヴィチ・ドリューチン |
| 1985-1993年 | パーヴェル・フョードロヴィチ・グジヴィン |

⁹ [訳注] ロシア連邦国家統計委員会がロシア連邦国家統計局へ改組され、研究所も国家統計局附属統計研究所へと改称された。

ヴァディム・ニキトヴィチ・キリチェンコ:

ソ連国家統計委員会議長(1989-1992年).

ミハイル・アントーノヴィチ・カラリョフ:

ソ連中央統計局局長(1985-1987年). ソ連国家統計委員会議長(1987-1989年).





第6章 現代ロシアの国家統計制度

—市場経済への移行期—

1990年代初頭はソ連が消滅し、その領域に独立国家が成立した時期に当たる。以来、ロシア連邦国家統計委員会(ゴスコムスタット)は、ソ連領域内で蓄積されたソビエト統計の方法論及びその実務面での経験を継承することとなった。

現在、ロシアの国家統計機関に勤務する人々の数は5万人以上にのぼる。そのうち中央機関で働く人々の比率は1.7%、地方の地域機関の比率は94%、計算センターは3.4%、科学研究所や計画機関は0.9%となっている。

ロシア連邦国家統計委員会は、ロシアにおける統計に関して指導を行う連邦レベルの執行行政機関である。その構成には、共和国・地方・州・自治管区・自治州から成る88の地域レベルの統計員会、計算センター、統計情報システム科学研究所、統計経済研究所、教育機関(会計及び統計分野の指導的な役割を担う優秀な労働者・専門家を育成するための部門をまたいだ教育研究機関、14の単科大学及び技術専門学校、58の教育センター)が含まれる。

1932年以降、モスクワ大学経済学・統計・情報学部(1996年以降は、モスクワ経済統計研究所)において国家統計機関や経済部門のための専門家養成が行われている。この種の専門家の養成は、8つの地方教育機関においても行われている(サンクト・ペテルブルク経済金融大学、ロストフ国立経済大学、ノヴォシビルスク国立経済経営大学など)。

ロシア連邦国家統計委員会は、経済改革と密接に結びついた統計業務を実行する主体としてだけでなく、その方法論を構築する主体としても中心的役割を担

¹ [訳注] 2008年までに地域行政の統合が行われ、2014年初時点の連邦構成主体数は83であった。2014年3月18日に「クリミア自治共和国とセヴァストポリ特別市のロシア連邦加盟に関する条約」が調印され、セヴァストポリ連邦市とクリミア共和国が84番目及び85番目の連邦構成主体として編入された。

ってきた。

これは、ロシア連邦が市場経済の発展に応じて国際的に採用された会計・統計システムへと移行する必要に迫られてのことであった。そして、この方針は1993年2月12日付け第121号の政府決定により承認された、当該のプログラムにおいて規定された²。

プログラムに従って、既存の統計指標体系が大きく改訂され、国民経済計算体系(SNA)が構築されるとともに、国内総生産(GDP)の国際比較が開始された。また、価格、金融、人口、労働、貿易に関する統計や関税統計、財政統計、銀行統計が国際基準に対応するものとなった。さらに、国家統計への法人や独立組織の登録や、技術的・経済的・社会的な情報の分類とコーディングの統一システムの基礎が構築された。

1995年11月に開催された全ロシア統計家大会においては、ロシア連邦国家統計委員会のユーリー・アレクセーヴィチ・ユルコフ議長がロシアの国家統計制度の改革の原則と方針について述べた。

最初期の段階におけるロシアの統計制度改革は優先順位に従い進められ、旧システムに存在しなかった新しい要素が導入されていった。現在の統計制度の改革は新しい段階に入っており、優先分野の枠内において統計業務をさらに発展させ改善させていくとともに、市場経済に適応するように制度それ自体を変革させようとしている。

現在、政府諸機関の情報に対するニーズは十分に満たされているが、企業、学術、または個人といったその他の種々の情報にはかなりの精緻化が必要とされている。この精緻化のプロセスを進めていくためには、企業、市場、競争環境、地域の経済状況といった多様性が最も大きいマイクロレベルでの詳細な情報と、マクロ経済の主要な統計とを統合させる必要がある。

² [訳注] 1993年2月12日付けの「市場経済の発展の要求に応じて、国際的に用いられている会計・統計システムへと移行するための国家プログラムの実施に関する措置について」の第121号閣僚会議決定。同決定は、1993年6月20日、1995年12月31日、2001年6月7日に改訂されている。

統計システムが市場経済にどれほど適応出来るかは、情報リソースのマーケティング・サービスがいかに発展しているかに左右される。統計システムに対して要求される情報の「リスト」は消費者、つまり需要に従って作成されなければならない。統計制度改革は、あらゆる量的・質的指標に関するニーズがどれほど満たされているかを考慮し、内容や客観性からデザインに至るまで、消費者の要求に応じることを可能にする。

この際、改革を継続的に実施し、制度を発展させる条件をしっかりと整備することが必要となる。その際の条件は次の点に求められる：

- 伝統や地域・官庁間に存在する既存の相互関係に基づいて国家統計制度を維持していくこと；
- ロシアの社会経済状況を情報に反映させるうえでロシア連邦国家統計委員会制度が持つ統合的機能を強化すること；
- 連邦・地域レベルの間で役割を再分担し、それに応じて地域の統計制度の役割を強化すること；
- 統計情報の客観性と操作性を確保すること；
- 統計事業に関係する最新の技術・機械を導入し、ロシアの統計機関において快適な労働・生活環境を確保すること、である。

改革の第一段階は、移行期の経済や市場経済の状況を複合的に評価するための統計指標の体系を構築することである。社会的・経済的發展を分析する基礎的な指標体系、及び連邦・地域レベルでの複合的な統計体系を組み合わせたスキーム(概要)が1995年に作成された。このスキームの作成は以下の課題を解決することを目的としていた：

- ロシア経済の機能的メカニズムを相互の関係性を踏まえて提示し、そこで生じている経済プロセスの基本的な方向性を見極めること；
- 自国及び世界の経験、国際経済機関による勧告を踏まえて、連邦・地域の双方のレベルにおいて上記のような分析を行っていくために必要となる統計指標の体系を決定すること；

——現代的な統計情報の整備方法を取り入れること・国家報告の形式と指標について再検証を行っている統計組織に対し、しかるべき長期的指針を与えること・経済分析それ自体の内容に基づいて統計の方法論を発展させること、である。

このスキームに基づき、新たな条件下で生じた経済問題の解決に統計学を用いる体制が整えられることになる。義務的に行われてきた報告は広い範囲で標本調査に置き換えられる。そうした制度改革は短期的視点のみならず長期的な観点から定められていくこととなるのである。

統計制度の転換の新たな段階では、以下のように統計指標の方法論においていくつかの重要課題を解決することが求められる：

- 基礎データとして企業統計や官庁・銀行の統計を用い、金融フローの動きを特徴づける国民経済計算体系の指標に関わる方法論を開発すること；
- 産業部門別の統計指標の作成方法を相互に連携させ、生産局面から最終消費に至る全ての領域で、統計指標の解釈を一意的なものとして統一的な利用が出来るようにすること；
- 法や経済の慣習を考慮し、指標の計算方法を改善すること、である。

統計制度改革を体系的に実行するには、これまで基本的な方法として活用してきた部門別の情報収集を取りやめ、企業統計へと転換することが必要となる。このような情報収集アプローチによって、経済学的・人口学的・社会的に複雑な特徴を有する生産者に関し、労働市場、資本市場、財市場、サービス市場の機能を深くまた相互に関連させるような方法で分析することが可能となる。このことは、投資資金の流入額や投下先をより正確に評価したり、金融部門の安定・不安定要因を見いだすことにつながる。また、構造改革や移行プロセスの効率性を示すことや、生産活動と環境の関係性を明らかにすることを可能とするのである。

このことは、企業の情報提供に関わる負担を大きく軽減し、また情報の重複を解消し、データ収集の手続きと組織を簡略化することにつながる。ここからさらに要求

されるのが、まず企業の特殊性に応じ、情報の客観性を確保するべく、既存の情報収集方法を調べなおすことである。この際、大規模・中規模のあらゆる所有形態の企業は全数調査の対象となる方針が維持され、多項目・多頻度の情報提供が求められるが、小規模企業に関する情報は、標本調査によって収集されることになる。

企業統計制度へ移行する際に設立される国家統計登録制度(ГОСТАР)は、経営主体の特定化と会計を行うためのシステムの中心的な組織制度となり、標本調査を実施するための基盤となる。また同制度は、統計調査単位レベルにおける「必須」情報や経済指標のデータ・バンクとなる。制度構築の最初の段階では、最小限の情報入力によって行政機関のニーズを満たすとともに、また商業上の需要にも応えうる大量の統計データを収集することが、システム構築の際に追求される課題となる。

データ収集のプロセスは、経営主体に関する行政情報を他省庁から得る方法も含め、国際的に活用されているあらゆる方法論によって進められていくことになる。

統計制度を体系的に改革していく際に、その基盤となる役割を果たすのは、統計分類法である。企業統計への移行に伴い、会計単位の区分方法に関する規則が明確に設定され、それらの分類法が作成されなければならない。それと同時に、企業の主要な活動形態を特定する方法の根拠づけがなされなければならない。これらの問題の解決は、国際的なコンセンサスが得られている統計基準を(ロシアにおいて)構築することに関わっている。そして、この統計基準によって、統計情報の準備・収集・加工・伝達・分析方法を規定することになる。

統計制度の改革は、情報網に存在する多様な主体間の相互関係を分析できるように進めていかなければならない。それとともに、情報の流れを階層構造に従って追跡できるようにする必要がある。これはつまり、財あるいはサービスの生産と消費との相互関係や、対外貿易と対内取引との関係、専門家の雇用と育成との連関、あるいは固定資本の更新の条件やその更新の必要性を考慮した上での生産構造と生産規模との関係などの分析が必要になる、ということである。

ロシアの統計を改善していくその過程で解決が図られた問題群のうち、分類法に関わって最も重要であったのは、様々な集計レベルに応じて、相互に似通った

財・サービスの品目リストを構築することを制度化した点である。そうした財・サービスの分類を行った上で経済状況の分析や予測を行う事や、あるいは国際的な統計コミュニティの規範に沿った解釈を可能とする経済情報データベースの作成につながり得るような系統立った分類方法の構築を行う事もそれに含まれる。

こうした方向性に従って統計精度の改善を図っていけば、作り上げるべき統計情報が實際上どれほど必要であるのかということ客観的に決定することが可能になる。それは計算機を用意したり、電子的データ編集システムあるいはパソコンレベルでソフトウェアを利用して作業内容を構築したりするといった課題を解決するにあたって、第一の要件となるものなのである。そうすれば、統計制度を技術的に近代化する際にも直感的な方針に沿わないように出来るであろうし、計算機の導入自体を目的にしてしまうような恐れも排除出来る。従って、制度の改革過程が本質的に、効率的かつ有意義なものとなるであろう。

進行過程にある改革の最も重要な点は、ロシアの統計システムを完成させる技術的・技術工学的側面にあり、統計業務のあらゆる段階の組織と密接に関わっていくことで実現されるだろう。

ロシア連邦国家統計委員会は、国際連合統計部、また国際連合欧州経済委員会、アジア太平洋経済社会委員会、国際連合教育科学文化機関、国際労働機関、国際連合食糧農業機関といった組織の統計機関、そして国際通貨基金、世界銀行、経済協力開発機構その他の国際機関とも積極的な協力関係を構築している。

また、各国の統計機関との相互協力も2か国間の合意の枠内で行われている。そのような合意を行った国には、イギリス、アメリカ合衆国(センサスビューローや農務省)、フランス、ドイツ、イタリア、スウェーデン、フィンランド、韓国がある。

さらに独立国家共同体諸国の統計機関とは2か国間での協力関係が展開されており、ベラルーシ共和国の統計分析省³との間で協定の調印がなされた。

ロシアの国家統計制度は改革の途上にあり、質的に新しい歴史的発展段階に

³ [訳注] 現在の国家統計委員会。2008年8月26日付け大統領令によって、「ベラルーシ共和国統計分析省」が改組された(アクセス日:2015年4月7日):

<http://belstat.gov.by/o-belstate/istoriya-belorusskoi-gosudarstvennoi-statistiki/etapy/>.

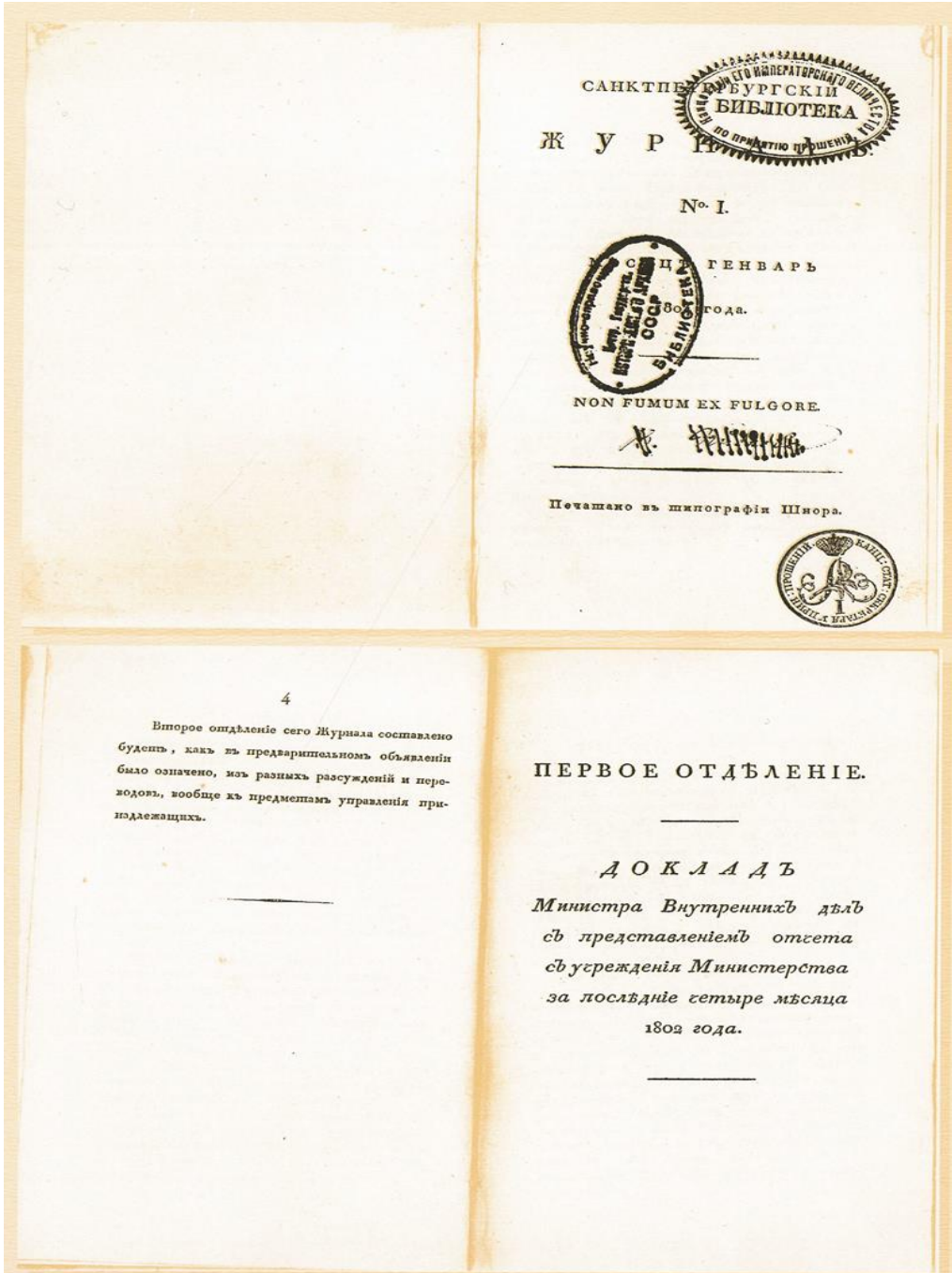
まで高めようとしている.



付 録

「1802 年の最後 4 か月間における内務大臣による省設置に関する報告」

(『 Санкт・ペテルブルク・ジャーナル 』, 第 1 号, 1804 年.)



「1802 年の最後 4 か月間における内務大臣による省設置に関する報告」

(『Санкт・ペテルブルク・ジャーナル』, 第 1 号, 1804 年.)

(つづき)

Въ Высочайшемъ Манифестѣ 8 Сентября, Ваше Императорское Величество повелѣвъ Министрамъ представлять чрезъ Правительствующій Сенатъ письменный отчетъ въ управленіи всѣхъ вѣренныхъ имъ частей, вмѣстѣ съ тѣмъ означить соизволили и главныя черты составляющія сей отчетъ. Онъ долженъ содержать въ себѣ изъясненіе, какое употребленіе сдѣлано изъ денегъ, опущенныхъ на годичное каждой части движеніе, какіе успѣхи каждая изъ нихъ имѣла, въ какомъ находились они положеніи и чего въ будущія времена отъ нихъ ожидать можно. Такимъ образомъ отчетъ долженъ содержать въ себѣ 1.) Экономическое положеніе каждой части. 2.) Показаніе главныхъ операций въ ней дѣланныхъ. 3.) Настоящее положеніе, въ коемъ она находилась и 4.) Возвръненіе на тѣ вѣроятности, кои къ совершенству ея въ будущемъ времени представляются и съ пользою предприняты быть могутъ.

Ясно, что таковой отчетъ предполагать, чтобы всѣ части были уже въ полномъ ихъ движениіи.

8

Министерство Внутреннихъ дѣлъ въ настоящемъ его составѣ доселѣ не существовавшее, чрезъ четыре мѣсяца своего установленія, не можетъ льстить себя надеждою удовлетворить симъ видамъ съ тою полнотою и совершенствомъ, какого въ дѣлѣ сего рода желать бы должно было. — При отправленіи обыкновенныхъ текущихъ дѣлъ, оно едва имѣло довольно времени, чтобы составить себѣ нѣкоторое общее понятіе о всѣхъ частяхъ въ немъ соединенныхъ и установить необходимую связь между собою и ими.

И такъ отчетъ, который имѣю и счисленіи нынѣ представить Вашему Величеству по 1 Генваря текущаго года, будетъ содержать въ себѣ одно только главное начертаніе тѣхъ дѣйствій, кои я счелъ наиболее нужными, чтобы установить бышіе Министерства мнѣ вѣреннаго въ починѣхъ его предѣлахъ и поставивъ его въ мѣрѣ исполнять съ пользою дальнѣйшее его предначертаніе.

Дѣйствія сіи можно раздѣлить на два рода: одни относятся къ устройству самаго Министерства, другія къ тѣмъ распоряженіямъ, какія по частямъ его сдѣланы.

9

I. Объ устройствѣ Министерства.

Вмѣстѣ съ тѣмъ какъ Министерство вступило въ отправленіе текущихъ дѣлъ, оно признало необходимымъ 1.) определить сколь можно точнѣе порядокъ и предметы его сношеній съ мѣстами и лицами ему подчиненными. 2.) Снабдить себя всѣми свѣденіями о настоящемъ ихъ положеніи и 3.) впродъ до лучшаго устройства всѣхъ частей его на обширнѣйшемъ планѣ, установить внутренний порядокъ для дѣлъ, непосредственно къ Министру входящихъ и завести обрядъ ихъ производства.

На сей конецъ, раздробивъ всѣ предметы, въ составъ вѣреннаго мнѣ Министерства входящія, циркулярнымъ письмомъ моимъ ко всѣмъ Губернаторамъ, означилъ я, въ какихъ именно случаяхъ и какимъ образомъ они должны ко мнѣ относиться; предписалъ, какія свѣденія одновременно отъ нихъ должны быши доставлены и руководствуясь порядкомъ въ самомъ Манифестѣ изображеннымъ, раздѣливъ всѣ дѣла ко мнѣ входящія на четыре части, имѣлъ я цѣспіе поднести въ свое время на Высочайшее усмотрѣніе Вашего Императорскаго

「1802 年の最後 4 か月間における内務大臣による省設置に関する報告」

(『Санкт・ペテルブルク・ジャーナル』, 第 1 号, 1804 年.)

(つづき)

10

Величества начертание правилъ, по коимъ каждый изъ нихъ въ обрядѣ своемъ должна дѣйствовать. Начертаніе сіе удостоено Высочайшаго утвержденія. Такимъ образомъ все воспріяло свое дѣйствіе.

По спѣзъ назначенной для сношеній мѣстѣ подчиненныхъ, они вошли съ Министромъ въ переписку, и предметы одной довольно просто и ясно были назначены пактъ, что доселѣ рѣдко случалось они изъ предѣловъ, для сего изъ предписанныхъ, и исполненія сіи немедленно поправлялись.

Свѣденія опредѣляющія постоянное положеніе каждой части и Губерніи, при всей новостии сего установленія доставляющіяся съ довольнымъ успѣхомъ, и кои не имѣютъ еще она той точности и простирательства, какого въ бумагахъ сего рода желать должно, но приводя ихъ здѣсь въ лучшей порядокъ, составили изъ нихъ сравнительныя табели, и надѣюсь можно будетъ положить первое основаніе статистическихъ на каждую часть и Губернію описаній, кои въ необходимости, признавая во всѣхъ провинціальныхъ Государствахъ, тѣмъ болѣе въ Россіи оцупительна, что доселѣ всѣ

11

сія предметы извѣстны въ ней были пактъ сказать по преданію, и очень мало занимались привести ихъ въ систематическій порядокъ.

По начертанію, для Департамента Внутреннихъ дѣлъ Высочайше утвержденному, успроить въ немъ существующій нынѣ порядокъ, и естли крайность времени и количесно дѣлъ не дозволяли еще утвердить оныхъ простому сего порядку, по крайней мѣрѣ изъ предписаннаго Вашему Величеству за испекше четыре мѣсяца крайнаго отчета, о числѣ дѣлъ въ немъ исполненныхъ, видно, и Вашимъ Величествомъ милосивно замѣчено усердіе исполнителей.

Сюда относятся нѣкоторыя другія установленія, къ устройству Департамента принадлежащія: положеніе о курьерахъ, о Канцелярскомъ расходѣ и прочія подробности, въ связи всего дѣла необходимыя, но въ особенности ни чего важнаго не представляющія; а поному напомнить только ихъ, и долженъ обратиться къ тѣмъ предметамъ, кои особенно въ сіе краткое время привлекали на себя вниманіе Министрства.

28

Представляя симъ образомъ краткое начертаніе тѣхъ главныхъ предметовъ, кои въ теченіи четырехъ мѣсяцовъ Министерствѣ моему вѣренному занималось, я почту себя щастливымъ, когда Ваше Императорское Величество соизволите увидѣть въ немъ, естли не самые плоды сего полезнаго установленія, единымъ временемъ и опытомъ производимыя: по, по крайней мѣрѣ, начала и надежду лучшаго.

Сей докладъ представленъ Правительствующему Сенату при рапортѣ слѣдующаго содержания:

Высочайшимъ Манифестомъ 8 Сентября минувшаго года повелѣно: каждому Министру, въ концѣ года, подавать Его Императорскому Величеству черезъ Правительствующій Сенатъ письменный отчетъ въ управленіи всѣхъ вѣренныхъ ему частей.

29

Во исполненіе сей Высочайшей Воли, честь имѣю представить Правительствующему Сенату всеподданнѣйшій Докладъ мой съ приложеніями его, содержащій въ себѣ отчетъ, по вѣренному моему Министерствѣ Внутреннихъ дѣлъ, со времени учрежденія его по 1 Генваря сего года.



「1802 年の最後 4 か月間における内務大臣による省設置に関する報告」

(『Санкт・ペテルブルク・ジャーナル』, 第 1 号, 1804 年.)

(つづき)

30

ПРИЛОЖЕНИЯ КЪ ДОКЛАДУ.

- 1). *Списокъ съ циркулярнаго отношенія отъ Министра Внутреннихъ дѣлъ ко всѣмъ Губернаторамъ посланнаго 19 Сентября 1801 года.*

Изъ Высочайшаго Манифеста и Указа въ 8 децъ сего мѣсяца Правительствующему Сенату даннаго Вашему Превосходительству уже извѣстно учрежденіе Министерства Внутреннихъ дѣлъ и что часть сія по Высочайшему соизволенію мнѣ вѣрена.

При первомъ воззрѣніи на обязанности сего новаго служенія находя между многими многія спазмы до Губернскаго управленія относящіяся, счелъ я прежде всего нужнымъ воспоставить на ихъ образъ сношеній моихъ съ Господами начальствующими въ Губерніяхъ и учредить съ ними въ ихъ предметахъ, кои по личной ихъ должности и по Полнціи ко вѣренной мнѣ части принадлежатъ могутъ.

Предметы сія вообще раздѣляются на два рода. Одни содержатъ въ себѣ всѣ

31

тѣ свѣденія, кои Министерству разъ на всегда нужно собрать изъ Губерній, дабы составить о положеніи каждой сколько можно полное и коренное познаніе. — Другія относятся ко временнымъ измѣненіямъ и предсавленіямъ, извѣстнымъ подъ именемъ дѣлъ спекуляцій.

Первыя заключаютъ въ себѣ слѣдующія спазмы.

1. Карту Губерній по послѣднему ея раздѣленію и плану городовъ.

2. Свѣденіе о числѣ народа вообще и по округамъ съ означеніемъ состоянія, какъ то: крестьянъ помѣщичьихъ, казенныхъ, купцовъ, мѣщанъ и проч.

3. Свѣденіе о податяхъ каждаму состояніемъ плашмыхъ 1^о въ казну,

2. на земскія или Поліцейскія повинности натурою и деньгами оприваемыя.

4. Свѣденіе о годичномъ произраженіи разнаго рода хлѣба по сложности десяти-дѣльной съ прѣимрнымъ означеніемъ: 1. сколько употребляется онаго на выкуреніе, 2. сколько вывозится изъ Губерній, 3. сколько остается на внутреннее ея продовольствіе, или сколько къ оному не достаетъ и изъ вѣнъ привозится.

32

5. О состояніи сельскихъ магазиновъ и способахъ, коими обезпечено продовольствіе въ тѣхъ городахъ, гдѣ окружное сельское земледѣіе не доставляетъ достаточнаго пропитанія.

6. Свѣденіе о фабрикахъ, Мануфактурахъ и заводахъ, о числѣ рабочихъ, рыбныхъ и другихъ промыслахъ, о канцеляшлѣ, доходахъ и обращеніи ихъ.

7. Свѣденіе о городскихъ доходахъ крозь сбора и ихъ употребленія.

8. О публичныхъ зданіяхъ; сюда принадлежатъ, палаты, фасады, сѣсныя исправленій.

Сіи свѣденія яко нужныя и времени не терпящія должны быть необходимо доставлены по крайней мѣрѣ въ шестъ недѣль по полученіи сего, а скорѣйшее ихъ доставленіе послужитъ Министерству пріятнымъ доказательствомъ отличнаго желанія содѣйствовать въ порученной ему части, коей усильное движеніе всегда будетъ имъ опіесяно къ чести исполняющихъ.

Второй родъ сношеній Господь начальствующихъ въ Губерніяхъ съ Министромъ Внутреннихъ дѣлъ содержитъ въ себѣ перепаску ихъ по дѣламъ спекуляцій;

33

предметы оной могутъ быть слѣдующіе:

1. Двухъ-недѣльныхъ вѣдомости о состояніи Губерній или о провинціяхъ.

Вѣдомости сіи по разосланнымъ прѣжде формамъ должны быть доставляемы по прѣжнему на Высочайшее Имѣ надписанная на пакетахъ Его Императорскому Влччеству, *отъ таково-то, по части Министра Внутреннихъ дѣлъ.* Если бы представилось нужнымъ довести до свѣденія Министра по какому либо провинціально частнымъ подробностямъ или обстоятельствамъ, коихъ въ самой вѣдомости помѣстить бы было не можно: то вмѣстѣ съ оными, обстоятельства сія можно изъяснить въ особомъ письмѣ къ Министру.

2. Вѣдомости о хлѣбномъ урожаѣ въ надлежащее время года, съ примѣрнымъ изчисленіемъ сколько пошребно онаго на продовольствіе, сколько на выкуреніе, сколько останется на вынукъ изъ Губерній, или напротивъ сколько не достанетъ, и изъ какихъ Губерній привезенъ на продажу быть можетъ.

3. Вѣдомости о цѣнахъ хлѣба по прѣимрн года съ показаніемъ урождовъ и съ означеніемъ въ особой табели какія

「1802 年の最後 4 か月間における内務大臣による省設置に関する報告」

(『Санкт-Петербург-ジャーナル』, 第 1 号, 1804 年.)

(つづき)

34

изъ нихъ и когда утверждены Губернаторами для заготовлений Прованскаго Департаментша.

4. Донесенія о чрезвычайномъ, ежели бы гдѣ случилось, возвышеніи цѣнъ на хлѣбъ съ изъясненіемъ истинныхъ тому причинъ.

5. Донесенія о Саранчѣ и ея изгребленія, о вредѣ хлѣбу отъ града, засухи и тому подобныхъ съ изъясненіемъ средствъ принятьхъ на мѣспѣ къ обезпеченію продовольствія.

6. Донесенія о качествахъ вина и соли; если бы открылись въ сихъ двухъ спашьхъ злоупотребленія вреднаго прирѣса, а въ послѣдней естля бы Начальникъ Губерніи замѣтилъ недостатокъ въ доставленіи по росписанію Соляной Канторъ или злоупотребленія при магазиннахъ или бургахъ гдѣ воляная продажа соли существоуеитъ.

7. Донесенія объ учрежденіи новыхъ фабрикъ, заводовъ, промыслоу, введеніи новаго лучшаго образа обработыванія полей, открытіи рудъ, каменнаго угля, разработки порфа, введеніи бѣлаго землянаго строенія и тому подобныхъ предмѣлоу промышленноспи.

35

8. О исправленіяхъ казенныхъ зданийъ времени не терпящихъ и обыкновенную ремонтную сумму превышающихъ.

9. По Полиціи, разумѣя подъ сизь все тѣ предмѣты, коиимъ нарушено быть можетъ общее спокойствіе и повинование закону: какъ по:

Въ Городахъ.

a. Водкаго рода сконища и собранія подъ открытымъ видомъ тайную не позволенную цѣль имѣющихъ, такъ на прирѣсѣ естлябы въ ложахъ, клубахъ и прочихъ сообществлахъ, кои во виѣшемъ обыкновенномъ ихъ составѣ не имѣютъ ничего запрещеннаго, прирѣсено было тайное прошивузаконное намѣреніе, не позволенная связь, или предмѣты полшическія.

b. Такія же общества развратную или соблазнительную для нравовъ цѣль имѣющихъ.

c. Запрещенная игра, публичная лопери безъ дозволенія, и прочее тому подобное.

d. Явная продажа и обращеніе въ публикѣ развратныхъ, возмущительныхъ,

36

анархическихъ и безбожныхъ книгъ, Журналоу, листовъ, паскалей, естамповъ, картинъ и тому подобное.

e. Появленіе людей подозрительныхъ не имѣющихъ ни вида, ни управленія, бродягъ, вредныхъ шармановъ, обманщиковъ, ворожей, пророковъ, начинщиковъ какихъ-либо полшическихъ или касающихся до Въры сектъ и умноженіе нищихъ.

f. Средства къ лучшей безопасности улицъ и домовъ отъ пожара и воровства, къ лучшему освѣщенію улицъ и тому подобное.

Въ Селеніяхъ.

a. Объ усилившихся партіяхъ разбоевъ на сухомъ пути или на водахъ безопасности сообщенія прерывающихъ.

b. О пресѣченіи сообщенія отъ нагнуральныхъ притчъ какъ по: разрывъ большихъ мостовъ, коихъ починка или поспроеніе превышаетъ способъ обыкновенной земской повинности.

c. Появленіе между поселеніями ложныхъ слуховъ касающихся до важныхъ частей Правительствша, а особливо ложныхъ Указовъ, Манифестовъ, возмущительныхъ листовъ и тому подобное.

37

d. Появленіе новыхъ ересей и расколовъ, или не обыкновенное усиліе прежнихъ.

e. Велкое движеніе неповиновенія въ народѣ къ учрежденнымъ властямъ, ослушаніе помѣщикамъ, а паче возмущеніе цѣлыхъ селеній и средства къ усмиренію принятія.

f. Свѣденіе о жестокостяхъ въ наказаніи, непомѣрныхъ работахъ по 84ѣ спашь Учрежденія.

Въ семь состоятъ, сколько можно по первому обозрѣнію опредѣлять, предмѣты обыкновенной переписки Господь Начальствующахъ въ Губерніяхъ съ Министромъ Внутреннихъ дѣлъ. Слѣдующія общія примѣчанія на сію переписку естлямо я нужнымъ здѣлать, дабы поставлять ее болѣе въ ясности.

I. Между предмѣтами оной естля спашь, коихъ распорженіе предоставлено особеннымъ мѣспамъ, какъ по: вѣная и солиная часть, свѣденія о числѣ народа, часть спровиньельная принадлежатъ къ обязанности Казенной Палаты. Министертво Внутреннихъ дѣлъ пребуа о сихъ статьяхъ свѣдений и вѣщай ихъ въ свою переписку съ Начальниками Губерній, никакъ не предполагаетъ сизь



「1802 年の最後 4 か月間における内務大臣による省設置に関する報告」

(『Санкт・Петербург・ジャーナル』, 第 1 号, 1804 年.)

(つづき)

38

адылашъ и маалышга прикосновения къ шому порядку, на коемъ управление и распоряженіе сѣхъ частей общимиъ Учрежденіемъ, наставляемъ Казеннымъ Палатамъ и прочими узаконеніями послано и не переимѣня предѣловъ власти, въ концы Начальства Губернскія состояшъ между собою, оно не вводитъ сямъ Господъ Губернаторовъ ни въ какія новыя по сямъ спашьмъ распоряженія, но ожидать ошъ ныхъ нужныхъ ему свидѣній, какъ ошъ хозяйствъ Губерній, обязаныхъ знать положеніе всѣхъ ея частей.

II. Само собою разумѣется, что въ собраніи свидѣній какъ единовременныхъ, такъ и текущихъ, о произращеніи хлѣба, о количествахъ его употребляемомъ на выносуреніе, о выпускѣ его на продажу въ Губерніи, о фабрикахъ и заводахъ, о числѣ рабочихъ, о капиталлахъ и прочихъ спашьмъ до частнаго хозяйства принадлежалыхъ, Губернское Начальство никакъ не должно себѣ позволять жѣръ принужденія и никакъ сказать обыска помѣщиковъ и частныхъ владѣльцовъ, на противъ предполагается, что оно свидѣнія сіи или уже имѣетъ по общимъ обязанностямъ его знать положеніе всѣхъ частей Губерній, или удобно имѣть ихъ

39

можетъ извѣдывалъ добровольно, а никакъ не разыскивалъ съ принужденіемъ.

III. Всѣ донесенія, представленія и извѣщенія Господъ Начальствующихъ, заключающа въдомостей о проанестившихъ, могутъ быть доставляемы или въ писмахъ къ Министру, или въ рапортахъ на Высочайшее Имя по ихъ усмотрѣнію; но въ послѣднемъ случаѣ необходимо должно надписывать въ низу пакета: *по части Министра Внутреннихъ Дѣлъ*; держась въ прочемъ правѣмъ означеннаго.

IV. Какъ въ общемъ стеченія и многихъ разнообразныхъ дѣлъ и сама не привѣтными подробностями обряда бывающа весьма важны для установленія порядка и единообразія: по Министерству желало бы, чтобы всѣ отношенія къ Министру во извѣстной формѣ изъ были соображены съ прилагаемымъ при семъ образцомъ, въ коемъ начальныя буквы М. В. Д. значатъ Министру Внутреннихъ дѣлъ.

Сентябрь 19 дня
1802 года.

40

2). *Его Императорскому Величеству.*
Отъ Министра Внутреннихъ Дѣлъ

Д О К Л А Д Ъ.

На поданномъ лично Собственно Его Императорскаго Величества рукою шако: Имъ же сему.
АЛЕКСАНДРЪ,
Въ С. П. Бургѣ
Ноября 1. 1802.

Исполная Высочайшее повелѣніе въ Манифестѣ 8 минулаго Сентября о учрежденіи Министерствъ означенное, имѣю счастье представить на благоусмотрѣніе Вашего Императорскаго Величества Шашъ Департамента мнѣ вѣреннаго и начертаніе о порядкѣ производима дѣлъ его.

Министерство Внутреннихъ Дѣлъ при составленіи сего Шаша и начертанія, старалось въ числѣ людей ограничить себя пѣмъ количествомъ, какое по первому обобрию предѣльному порученнымъ, предсказивалось ему необходимымъ; а въ порядкѣ производима дѣлъ его уклонялся всѣхъ излишностей, желало сколь можно сокращать обряды писмоводства, и въ поже время услышать и облегчить его движенія.

41

Сверхъ чиновъ въ Шашѣ полагаемыхъ, Министерствомъ испрашивается Высочайшаго соизволенія на учрежденіе при Департаментѣ сословія дворянъ изъ десяти человекъ сосноящаго. Молодые люди получивше отличное воспитаніе и образомъ своего просвѣщенія предопредѣленные къ гражданской службѣ, часто уклоняются отъ оной по тому только, что вступивъ въ дѣйсствительное опираленіе дѣлъ безъ опыта считаномъ службѣ и себѣ предсудительнымъ; а приобрести сей омышъ предварительнымъ приуготовленіемъ при всемъ желаніи ихъ не находятъ способамъ. Учрежденіе таковаго общества при Департаментѣ, откроешь имъ нушь уморительныя ихъ познанія обратитъ въ дѣло и не щестно быть просвѣщенными.

Возръ Монаршаго благоволенія на трудъ ихъ отъ времени до времени извѣданный, иконопорые знаки милосостіи и вѣрна надежда зная лучша мѣста въ той части, въ коей наиболее они успѣють, составлятъ для нихъ наилучшее ободреніе и награду. — Жалованья имъ не полагаются.

Для лучшаго удержанія порядка Министерствомъ испрашивается дозволенія

「1802 年の最後 4 か月間における内務大臣による省設置に関する報告」

(『サンクト・ペテルブルク・ジャーナル』, 第 1 号, 1804 年.)

(つづき)

4a

всѣхъ чиновъ въ Департаментѣ служащихъ, включая Директора и Начальниковъ Экспедицій, определять и увольнять опредѣленіями Министра, съ коихъ списки для свѣденія будущь доставляемы въ Герольдію.

Опытъ и постоянное наблюдѣніе въ управленіи дѣлъ могутъ представить со временемъ удобнѣйшіе виды къ внутреннему разпорядку сего Департамента. Министерствѣ будетъ тогда въ возможности поднести Вашему Императорскому Величеству полный планъ управленія всѣхъ частей въ вѣдомство его соединенныхъ. А до того времени удерживая исполщій порядокъ вещей, оно будетъ стараться точностію исполненія сохранять связь и отношенія ихъ къ народнымъ нуждамъ, аналъ что сей есть единый способъ оправдать Высочайшую къ нему довѣренность.

Подписалъ *Графъ В. Котлубей.*

Копія съ гькументовъ.

№ 1.

Господиному Статскому Секретарю и кавалеру
Александрову.

Въ каждомъ благоустроенномъ Императорскомъ
Статистическомъ канцелярии составлены списки изъ самыхъ
важнѣйшихъ предметовъ прависій; канцелярия —
своимъ правящимъ учрежденіемъ, Министерствомъ Полиціи
находясь въ Министерствѣ внутреннихъ Дѣлъ,
привлекла уже къ себѣ вниманіе предметниковъ
и получила начало свое въ 1803 году;
по сдѣланнымъ извѣстнымъ обстоятельствамъ,
бѣла некоторымъ образомъ почти совершенно
бѣго настоятельная продолженіе оной и не дово-
дена до той степени значительности, на кото-
рой она имѣла се видѣть; я, предполагая
употребить особенное мое стараніе къ восста-
новленію оной, кромѣ моего порученія вамъ, при-
своивъ къ себѣ профессора Вирсана, принимаю
въ веденіе ваше все то свидѣніе, которое по

(つづき)

Спартитическою частю Россійской Имперіи при
Министерствѣ Полиціи отискахотса поучена
и по томъ исполнить слѣдующее:

1.) Пересмотрѣть все свѣдѣнія по сей части, ко-
торыхъ во разныхъ видахъ до сихъ поръ собрано
и въ разныхъ губерціяхъ и естии охаротса что еще
еще не выполненнаго изъ требованій предде
бывшаго, то все медля заготовитса ртисити-
комъ и настоятельно отъ моего имени пред-
писаніемъ кому слѣдуетъ для поурядочія копие-
носія

2.) Такимъ образомъ усилитса готовитса така
сказати пренесе предположеніе, между темъ
временно о всахъ таихъ свѣдѣніяхъ, которыхъ еще
сверха того вана нужны охаротса вровъ ко по-
полненію предде требованія, представитса
мнѣ и о таихъ замечаніяхъ, которая от моего
утвержденія или замечанія не медля для
приведенія въ дѣйство и возвращенія ко вана вѣст-
нноттѣ.

3.) Во сей же саихъ время, во которое будутъ

「1811年3月20日付け第168号警察大臣通達」

(つづき)

постепенно вводить сии первоначальные требо-
вания, заняться вами во 2^{ой} профессорской ар-
мазии составлением подробного и обдуманного
плана Статистической части при Министер-
стве Полиции составиться инспекция,
дабы представить сей отчетливо вверенной
на твердую и постоянную основу во всякое
отношении на предбудущее время.

4) Со требованными вами для получения
инспекция при Министерстве сводении, со-
вольше относится ко Управляющим Доче-
дациями и канцелярскими, кои по содействию
вами дано уже предписание

Подлин. подписан: Министром Полиции
Балашово.

N^o 168

20^{го} Марта
1811^{го} года.

N^o 2.

Возвещая Профессору Горману
Поручив 2^{ой} Статскому Советнику Козловскому

「1811年3月20日付け第168号警察大臣通達」

(つづき)

объясъ са ваши прѣдстави Статистическую часть
при Министерствѣ Полиціи въ порядкахъ и
постановленіяхъ ея на прочую основу для пред-
будущаго времени; часть шипто препроводитъ
у себя копию съ предписанія моего по сему пред-
мету на имя его данскаго, изъ котораго въ чис-
лѣ триста два листа оубежины иселенія: 1) чтобы
не тѣрѣвъ ни времени ни собраннаго свиданія
снѣкъ поименно и 2) чтобы представлено быль
лишь на усмотреніе плано, на хвалитъ бы основано
было удобнѣ сѣю часть въ совершенно выходящихъ и
прочныхъ видахъ; — въ первомъ наибѣтѣ надѣюсь
и на известную мою ревность 9^{го} Статискаго
Всвѣтѣльскаго Астафрова; въ последнихъ все бѣтѣ
ожидаю отъ усвѣтѣльскаго вѣтѣль поименно вѣтѣль,
не только вообще въ наукѣхъ но и особенно въ сѣи.

подлин: подписанъ: Министръ Полиціи
Балашевъ.

№ 169.
20^{го} марта
1811^{го} года

M. B. D.

Статистическое Отдѣ-
ление

Учрежденіе
1823 года

№ 1

О постановлении по
Статистическому



Господиному Директору Департамента
Внутренних Дѣлъ

Въспомнивъ предписаніе Вашему Превосхо-
дству отъ 18 Мая сего года № 242, касая-
щуюся представить при семъ: 1) Вѣдому въ томъ
постановленіи и правиламъ, данныхъ Началь-
ствомъ Статистическому Отдѣленію съ начала
устройства оного въ приложеніи повѣдательствъ
важныхъ дѣлъ съ спискомъ документовъ; 2) Спискомъ
инвентаріа, въ отдѣленіи составленнаго, съ описа-
ніемъ нахъ орудій и запчастей. — Это все касаясь
до сущаго на статистическую часть предписа-
нней, то дальнѣе себя представляю Вашему Превос-
ходству дознати, что ни какой сумми-
ръ Статистическое Отдѣленіе не поставляетъ,
а инвентаріи оныхъ оныхъ свои подаютъ въ Кан-
целярію Министерства Внутреннихъ Дѣлъ, от-
куда такъ же, по требованіямъ сего Отдѣленія,
отпущаются и канцелярскіе матеріалы.

Статскій Советникъ и кавалеръ Карлъ Серманъ

(つづき)

Занука

Объяснение Статистической части при бывшем Министерстве Полиции по правилам, данным ономъ казеннымъ директоромъ.

1. 2. 3.

(присоед. №1 и 2.)



Великий 2^{ой} Министръ Полиции Есаише, желая возобновить при самомъ Министерстве Статистическую часть, пожелавши убо и на каю свое в 1803 году при Министерстве Внутреннихъ Делъ, предписана 20^{го} Марта 1811^{го} года съобщившему при Министерстве Полиции Статистическому Советнику Астафьеву, принять себя въ полицию наводившаяся при самомъ ономъ Министерстве Профессора Вермана, исполнить следующее:

- 1) Попытаться наводившаяся по сему предписанию въ Министерстве Полиции съездомъ, поставить на видъ и та кои найдутся противныя для усовершенствования оного.
- 2) Составить подробный планъ Статистической части, при самомъ Министерстве составить и исполнить.

(присоед. № 3.)

Моею же года Августа 20^{го} дня 1^{ой} Министръ Полиции раздѣляя Статистическую часть на два Отделения: уездное и Царскоселское, начавши начальниками

(つづき)

первою 2^ю Серванса а второю 3^ю Астафьева.
Ученному Отделению предоставляется: 1) Состав-
ление плана о устройстве Статистической
части; 2) Новейшие сведения из полученных
отчетов губернаторских и отчетов чиновни-
ков полученных по сей части; 3) Составление
расчетов на каждый отчет или Статис-
тическое сведение

На Исполнительном Отделении возложено: 1)
Составление предписаний Начальникам Губер-
ний на основании присланного плана и предостав-
ление оных 2^{му} Министру; из канцелярии
этого отъездом рассматриваются по принадлеж-
ности; 2) рассматривание неудобств и пре-
пятствий, которые встречаются Начальники
Губерний в исполнении Статистических требо-
ваний; 3) Составление инструкцій чиновникам
рассматриваемых по Губерниям для статистиче-
ского описания оных; 4) Рассмотрение поу-
добств встречающихся или в исполнении или
возможного; 5) Заготовление вообще всех бумаг
по порядку Статистической.

Прислан оный составлен был в обязанность
каждому Начальнику по своей части предоставляется

(つづき)

(примеч. № 4.)
2^м. Министерству на утверждение куренно работна-
на работъ и потребности есае чиновниковъ напред
назначенна или моста, какое и было представле-
но 2^м начальникова уреннаго Отдѣленія особенно
запискою Августа 27^м дня 1811^м года. Состорожна
же начальникова Императорскаго Отдѣленія сего
представлена не была.

(примеч. № 5.)
Во 1812^м году Января 19^м дня по случаю выде-
тия изъ Министерства Империи 2^м. Ассистента
приказано было всемъ чиновникамъ Императорска-
го Отдѣленія находиться въ распоряжении та-
чашника уреннаго Отдѣленія.

(примеч. № 6.)
По соединеніи таковыхъ образомъ обоехъ Отдѣленій
въ одинъ составъ, учрежденъ былъ въ Императорской
части Августа 1^м дня 1812 года Императорскимъ
отказомъ на кого возложено было производить часть
дѣлъ, составлявшихъ предметъ бывшего Императорскаго
Отдѣленія съ некоторыми поправками.

Въ сии времена по 9^м Августа 181^м года Императорскаго
Отдѣленія заключены въ себя индивидуальныя
части или отаки: уренній, ревизионный, Императорскаго
Отдѣленія, Департаментъ и таковыя Библіотечу.

Уренній Отделъ имеетъ своихъ предметовъ Императорскаго
Отдѣленія, ревизионный былъ совершенно
по особому для уреннаго, и обязанъ былъ ревизовать

(つづき)

тожево въ отношеніи периферическихъ картъ работныя
устройства стола, таже и самыя документы въ оныя
поступавшія отъ разныхъ местъ сиихъ, снзъ дабы
такимъ образомъ работныя устроенія стола, составлены
были съ точностію — Генералъ-карты быхъ
аранжированы въ Атласовъ, въ Статистическое
Отдѣленіе поступавшія, но вѣдому охъ тѣмъ
и обиданъ быхъ заниматися составленіемъ Статистическихъ
картъ по правымъ даваемымъ оны
му 2^м Канцелярскому Отдѣленію Дамптинскому
оу руководствѣ по сии части иже оу въ предписаніи
2^м Министра Полиціи 30^м Октября
1816^м года

(: прѣписокъ № 7.)

1816^м года Октября 21^м дня дана была 2^м Министру
Ферриси, по которой Статистическое
Отдѣленіе обиданъ было исполненіемъ представителю
ому оу въ снзъ замѣчалъ; а 1817^м года
Января 18^м предписано быхъ образъ Канцелярскаго
устройства для сего отдѣленія.

(: прѣписокъ № 8.)

(: прѣписокъ № 9.)

Въ 1817^м году Августа 9^м дня Статистическое
Отдѣленіе получило новыя образованіе, кою
сущность состояла въ слѣдующемъ:

Учрежденіи: Уставовъшеніе уреносъ, Сотная Тор-
опиенная и Регистратура.

Къ онымъ предписаніемъ внахъ работныя

(: прѣписокъ № 10.)

(つづき)

(. прилож. № 11)

в вышеозначенномъ предписаніи / в. М. Министра / 30^{го} №
ября / 1816^{го} года / прилож. № 7 / — Въ томъ же / должно сослать
содѣйствіи по сему предмету какъ упомянутое Уставное
такъ и Военной, изложено въ приложенной при сего
выписки изъ журнала / в. М. Министра / Полковника отъ
8^{го} Августа / 1817^{го} года.

Какъ Французская, такъ Военная и Корпус-
ная подчиняются Начальнику Ученого Училища,
который даетъ направленіе войскъ изъ записокъ
и войскъ начальники сихъ частей обязаны
не представлять отчеты о своихъ занятіяхъ по
вышеупомянутой формѣ / прилож. № 8 / съ приложе-
ніемъ Отчетовъ о своихъ чиновникахъ для высе-
нія въ общий отчетъ представляемый Высочайше
Начальнику Ученого Училища / в. М. Министра.
Но впрочемъ все внутренній распорядокъ по частямъ
предоставляется начальнику каждой части.

Ученому Училищу и Военной дозволено про-
водить свои работы по плану, Корпусной же
заниматься въ самой Статистической части.

Канцелярскіе напорядки Военная получаетъ
изъ Ученого Училища; на расходъ же по Ар-
твальной полковне отпускается ежедне по 420^{руб.} суммъ / 1200^{руб.} на канцелярскіе расходи по Стат-
стической части опредѣленной въ упомянутой

(つづき)

всего: равно и самым материалам, начиная
как той и другой долины давати весьма ясно
открыти каковыяку: время установления.

По сему образованию полагаю быть не-
сколькою книжками под непосредственным
руководством самого Министра, в каковой
список введены как отправляемые по субсри-
пции для Статистических описаний, так
и те книжки, кои находятся при Ученом
Установлении по выше заметки по особенному
определению.

(примеч. № 12.)

Во 1818^м году Июля 19^м дня 2^м Министре
Полции сообщил по сему пожелание допол-
нение каких предписывалось: во первых: на-
значивался Восточной и Западной казачьих
Историческим, а каковыяку: Ученом Уста-
новления Общым Историческим. во вторых:
Предметами заметий Статистических 3
иметь: 1) Великое или пространство, 2) На-
селенности этой и 3) промышленность; при чем
в своих описаниях от начала заметий
Статистической части по настоящему брали.

Наконец по желанию 2^м Министра
Полции в свием Указе Субсриптора 3

「1823年6月12日付け第7号内務省統計局文書」

(つづき)

(прилож. № 13)

срѣдятся она отъ 18^{го} Декабря 1819^{го} года
Начальнику Статистической части оставить
все упомянутыя введенныя или названія, въ
инвентаряхъ сей части именоваться своими
именами.

Статистический Советникъ и кавалеръ Карлъ Серманъ

Министерство
Внутренних Дел.
Департамент
Полиции Исполнительной.
Статистическое
Отделение
Октября 7 1825 года.

№ 18.

В представлении произ-
веденных в Статистическо-
м Отделении работъ.

При словъ свѣдѣн^{іи}
два прилжени^я
подъ №№ 2 и 4

Приказано принять въ
сведѣніи.

Въ Санктъ-Петербургѣ
Секретарь Департамента
Полиции Исполнительной
С. А. Савинъ

Въ Департаментъ Полиции
Исполнительной

Статистическое Отделение при
семъ честь имѣетъ представить
на разсмотрѣніе Вашего Департа-
мента свѣдущіе произведенныя
въ ономъ работы:

1, Статистическую ведомость
числа жителей и числа домовъ
первоклассныхъ по населенію своему
городовъ Россійскихъ или такихъ
въ коихъ жителей больше 20 тысячъ
со означеніемъ при ка-
домъ содержаній: 1^е мужскаго
женскаго полу, 2^е каменная
домовъ къ деревяннымъ, 3^е число жи-
телей вообще, къ общему же числу
домовъ или по скольку требуется
средннее число жителей на
каждый домъ.

2, Изобразительную таблицу оныхъ
же первоклассныхъ городовъ со озна-
ченіемъ красками и по масштабу
такихъ же содержаній для удобнѣй-
шаго сравненія.

3, Статистическую ведомость
необходимую означенной подъ № 1^е о
городахъ второклассныхъ или та-
кихъ коихъ населеніе отъ 10^{ти}

до 20 тысячъ обоего пола жителей. »

4, Изобразительную таблицу о второклас-
сныхъ городахъ подобную означенной подъ № 2^е

Статскій Советникъ Карлъ Сермавъ

№ 26 18 Августа 3

(つづき)

№2 Статистическая изобразительная табель населения и числа домовъ городовъ 1^{го} класса.

Октябрь 7^{го} 1825 года

| ГОРОДА | Число жителей | ЖИТЕЛИ | СТРОЕНИЯ |
|----------------|---------------|---|--|
| 1 С ПЕТЕРБУРГЪ | 444 71 | 444324 Всего Мужская 219238 Женская 125021 | Всего 7126 Каменистые 2763 Деревянные 4363 |
| 2 МОСКВА | 248 100 | 246494. Всего Мужская 100101 Женская 86551 | Всего 10001 Каменистые 2829 Деревянные 7172 |
| 3 ВИЛЬНА | 16 14 | 96744 М 24818 Ж 11226 | 707 726 1433 |
| 4 ОДЕССА | 13 23 | 70438 М 25330 Ж 15708 | Камени. 2360 |
| 5 РИГА | 30 36 | 33865 М 20785 Ж 13080 | Кам. 2984 Дер. 2675 3659 |
| 6 САРАТОВЪ | 38 20 | 34855 М 24376 Ж 10389 | Деревянн. 2579 2900 |
| 7 ТУЛА | 38 39 | 38559 М 24332 Ж 14227 | Деревянн. 5807 Всего 5334 |
| 8 АСТРАХАНЬ | 38 32 | 35047 М 16871 Ж 21176 | Деревянн. 3057 3237 |
| 9 КАЗАНЬ | 37 37 | 37375 М 20703 Ж 17212 | Деревянн. 3773 3773 |
| 10 ТВЕРЬ | 33 26 | 33386 М 23266 Ж 10120 | Дер. 1024 2692 |
| 11 ТИФЛИСЬ | 29 30 | 31859 М 16218 Ж 15641 | Камени. 2036 |
| 12 ОРЕЛЬ | 28 33 | 30321 М 15111 Ж 15210 | Кам. Деревянн. 3337 3340 |
| 13 КАЛУГА | 27 37 | 27415 М 15262 Ж 12153 | Дер. Деревянн. 2202 3708 |
| 14 КРОНШТАТЪ | 26 9 | 26200 М 22741 Ж 3775 | Кам. Деревянн. 805 880 |
| 15 КИЕВЪ | 24 42 | 24477 М 11025 Ж 13452 | Дер. Деревянн. 4101 4250 |
| 16 АХАНГЕЛЬСКЪ | 22 19 | 22093 М 10371 Ж 11722 | Кам. Деревянн. 1044 1268 |
| 17 СЕВАСТОПОЛЬ | 21 18 | 21935 М 20088 Ж 1847 | Кам. Деревянн. 1824 1822 |
| 18 РЕВЕЛЬ | 21 19 | 21532 М 13059 Ж 8473 | Дер. Деревянн. 1800 1800 |
| 19 ВОРОНЕЖЪ | 21 24 | 21150 М 12705 Ж 8445 | Деревянн. 2107 2462 |
| 20 ЯРОСЛАВЪ | 20 25 | 20612 М 12620 Ж 7992 | Дер. Деревянн. 2144 2535 |

Масштабъ только жителей. Масштабъ сотенъ домовъ.
 Составилъ Императоръ Великий Александръ Николаевичъ
 Главный Календарщикъ Александръ Ивановичъ

「ロシア帝国法律大全, 第2集第9卷第2部, 1834年」

ПОЛНОЕ СОБРАНИЕ
ЗАКОНОВЪ
РОССІЙСКОЙ ИМПЕРІИ.

СОБРАНИЕ ВТОРОЕ.

ТОМЪ ІХ.

ОТДѢЛЕНІЕ ВТОРОЕ.

1854.



Отъ № 7380—7716.

САНКТПЕТЕРБУРГЪ.

Печатано въ Типографіи II Отдѣленія Собственной
ЕГО ИМПЕРАТОРСКАГО ВЕЛИЧЕСТВА Канцеляріи.

1855.

(つづき)

ШЕ ГОСУДАРЯ

1834

Декабрь

7684.—Декабря 20 (*). Высочайше утвержденныя Правила для Статистическаго Отдѣленія при Совѣтѣ Министерства Внутреннихъ Дѣлъ и Статистическихъ Комитетовъ въ Губерніяхъ.

I.—О Статистическомъ Отдѣленіи Совѣта Министерства Внутреннихъ Дѣлъ.

§ 1. Въ Совѣтѣ Министерства Внутреннихъ Дѣлъ учреждается особое Статистическое Отдѣленіе.

§ 2. Цѣль учрежденія Статистическаго Отдѣленія есть: составленіе подробныхъ и по возможности точныхъ описаній состоянія всѣхъ частей, подвѣдомственныхъ Министерству Внутреннихъ Дѣлъ.

§ 3. Сверхъ сего Статистическому Отдѣленію Совѣта Министерства Внутреннихъ Дѣлъ поручается предварительное разсмотрѣніе и соображеніе представляемыхъ вновь Министерству плановъ городовъ, проектовъ новыхъ раздѣленій Губерній и уѣздовъ, предположеній о городскихъ доходахъ и расходахъ и разсмотрѣніе въ хозяйственномъ отношеніи предполагаемыхъ по вѣдомству Министерства Внутреннихъ Дѣлъ новыхъ зданій.

§ 4. Товарищъ Министра Внутреннихъ Дѣлъ есть Предсѣдатель Статистическаго Отдѣленія.

§ 5. Директоры Департаментовъ и Канцелярій Министерства Внутреннихъ Дѣлъ и Гражданскій Генераль-Штабъ-Докторъ суть, по званію своему, Члены Статистическаго Отдѣленія.

§ 6. Кромѣ Директоровъ и Гражданскаго Генераль-Штабъ-Доктора, Членами Статистическаго Отдѣленія назначаются, по усмотрѣнію Министра, нѣкоторые изъ Членовъ Совѣта Министерства.

§ 7. Для совѣщанія по дѣламъ, требующимъ общихъ соображеній и сужденій, Члены Отдѣленія имѣютъ обыкновенныя Собранія по одному разу въ недѣлю. Сверхъ того, по усмотрѣнію Министра или Предсѣдателя, могутъ

быть назначаемы особенныя Собранія Отдѣленія.

§ 8. Съ согласія Министра, или Предсѣдателя, могутъ въ Собраніи Отдѣленія быть приглашаемы, кромѣ Членовъ, и другія лица, для совѣщаній или указаній въ дѣлахъ особенно важныхъ и тѣхъ, кои требуютъ какихъ-либо спеціальныхъ, или мѣстныхъ свѣдѣній.

§ 9. Съ сею же цѣлю Статистическое Отдѣленіе имѣеть Членовъ Корреспондентовъ преимущественно изъ людей, отличающихся свѣдѣніями и опытностію въ дѣлахъ внутренняго управленія. Сии Члены Корреспонденты избираются Отдѣленіемъ и утверждаются Министромъ Внутреннихъ Дѣлъ.

§ 10. Одному изъ Членовъ Статистическаго Отдѣленія, по избранію Министра, ввѣряется главное управленіе всѣхъ производящихся въ ономъ дѣлъ.

§ 11. Управляющій дѣлами Членъ обязанъ составить общій планъ Статистическихъ работъ въ Отдѣленіи и наблюдать за успѣшнымъ оныхъ теченіемъ.

§ 12. Управляющій Членъ имѣетъ также начертать формы отчетовъ и табелей, по коимъ Начальники Губерній и Члены Корреспонденты доставляютъ требуемыя отъ нихъ свѣдѣнія.

§ 13. Сей планъ и формы отчетовъ и табелей разсматриваются въ Собраніи Статистическаго Отдѣленія и въ Общемъ Собраніи Совѣта Министерства Внутреннихъ Дѣлъ и потомъ представляются на окончательное утвержденіе Министра.

§ 14. При Статистическомъ Отдѣленіи состоитъ особая Канцелярія; составъ оной опредѣляется прилагаемымъ у сего штатомъ.

§ 15. Текущими въ оной дѣлами и перепискою съ разными Правительственными мѣстами и лицами завѣдываетъ особый Правитель Канцеляріи подъ руководствомъ Управляющаго Члена.

§ 16. Для составленія нужныхъ картъ и плановъ и для первоначальнаго разсмотрѣнія въ

хозяйственномъ отношеніи предполагаемыхъ по вѣдомству Министерства Внутреннихъ Дѣлъ зданий, а равно и плановъ городовъ, уѣздовъ и Губерній, при Статистическомъ Отдѣленіи состоятъ Архитекторъ и Землемѣръ и учреждается Чертежная.

§ 17. Сверхъ означенныхъ въ штатѣ Канцеляріи Статистическаго Отдѣленія Чиновниковъ, въ оную опредѣляются преимущественно вступающіе вновь на службу по Министерству Внутреннихъ Дѣлъ молодые люди, окончившіе курсъ ученія въ высшихъ учебныхъ заведеніяхъ, какъ для участія въ трудахъ Отдѣленія, требующихъ классическаго образованія, такъ и для испытанія ихъ способностей и знаній и для приготовленія къ занятію штатныхъ мѣстъ въ Департаментахъ и Канцеляріи Министерства Внутреннихъ Дѣлъ.

§ 18. Распределеніе Статистическихъ работъ между Чиновниками представляется Управляющему Члену; Правитель Канцеляріи наблюдаетъ за ихъ дѣйствіями.

§ 19. Основаніемъ Статистическихъ работъ, поручаемыхъ Канцеляріи Статистическаго Отдѣленія, имѣютъ служить свѣдѣнія, получаемыя изъ Департаментовъ Министерства и отъ Начальниковъ Губерній.

§ 20. Директоры Департаментовъ имѣютъ доставлять Отдѣленію всѣ нужныя оному извѣстія, какъ по дѣламъ настоящаго управленія, такъ и по дѣламъ прежнихъ лѣтъ, кромѣ подлежащихъ тайнѣ.

§ 21. Для разбора старыхъ дѣлъ и извлеченія свѣдѣній изъ оныхъ, можетъ быть учреждена временная при Статистическомъ Отдѣленіи Коммисія, которая составитъ подробную опись всѣхъ бумагъ, хранящихся въ Архивахъ Департаментовъ и Канцеляріи Министерства, за исключеніемъ также дѣлъ, подлежащихъ тайнѣ.

§ 22. Чиновникъ, приступая къ Статистической работѣ, ему назначенной, долженъ предварительно составить планъ ея и чрезъ Управля-

7684

ющаго Члена поднести оный на рассмотрение Общаго Собранія, которое или утверждает его своимъ одобреніемъ, или же даёт ему иныя указанія и наставленія.

§ 23. При производствѣ Статистическихъ работъ чиновники должны всегда начинать историческимъ обзореніемъ прежняго состоянія описываемой ими части, для сравненія онаго съ настоящимъ. Къ тексту описаній имѣютъ, когда нужно, быть прилагаемы и таблицы.

§ 24. Всѣ Статистическія работы чиновниковъ, по приведеніи ихъ, къ окончанію, представляются Управляющимъ Членомъ Статистическому Отдѣленію.

§ 25. Присутствіе Статистическаго Отдѣленія разделяетъ сіи работы между Членами, изъ коихъ каждый тщательно рассмотрѣвъ и окончательно исправивъ, или дополнивъ представленную работу, вноситъ ее снова въ Отдѣленіе съ своимъ заключеніемъ.

§ 26. Работы, такимъ образомъ окончанныя и одобренныя Статистическимъ Отдѣленіемъ, вносятся изъ онаго въ Общее Собраніе Совѣта Министерства Внутреннихъ Дѣлъ, для представленія Министру съ его заключеніемъ.

II. — О Губернскихъ Статистическихъ Комитетахъ.

§ 27. Во всѣхъ Губернскихъ городахъ учреждаются Статистическіе Комитеты, подъ предсѣдательствомъ Гражданскихъ Губернаторовъ и главнымъ вѣднѣемъ Генераль-Губернаторовъ, гдѣ оныя находятся.

§ 28. Кромѣ Предсѣдателя, непремѣнными Членами Статистическаго Губернскаго Комитета имѣютъ быть Губернскій Предводитель Дворянства, Вице-Губернаторъ, Почетный Попечитель Гимназій, Прокуроръ, Инспекторъ Врачебной Управы, Управляющій Удѣльною Конторою, Губернскій Директоръ Училищъ и Членъ Духовной Консисторіи по избранію Епархіальнаго Архіерея.

29. По усмотрѣнію Комитетовъ, могутъ

быть избираемы въ Члены оныхъ и другія пользующіяся общимъ уваженіемъ въ Губерніи лица.

§ 30. Каждый изъ Членовъ содѣйствуетъ достиженію предназначенной симъ Комитетомъ цѣли, средствами, отъ него зависящими. Члены оныхъ, завѣдывающіе какими-либо частями управления, обязаны доставлять Комитетамъ точныя свѣдѣнія о состояніи частей, имъ вѣренныхъ.

§ 31. По дѣламъ городскихъ купеческихъ обществъ Губернаторъ требуетъ нужныхъ свѣдѣній отъ Городскаго Главы.

§ 32. Губернскіе Статистическіе Комитеты имѣютъ также своихъ Членовъ Корреспондентовъ, изъ постоянныхъ жителей той Губерніи.

§ 33. Сии Члены Корреспонденты избираются Статистическими Комитетами и утверждаются Министромъ Внутреннихъ Дѣлъ.

§ 34. Уѣздные Предводители Дворянства, по званію своему, суть Члены Корреспонденты Губернскаго Статистическаго Комитета.

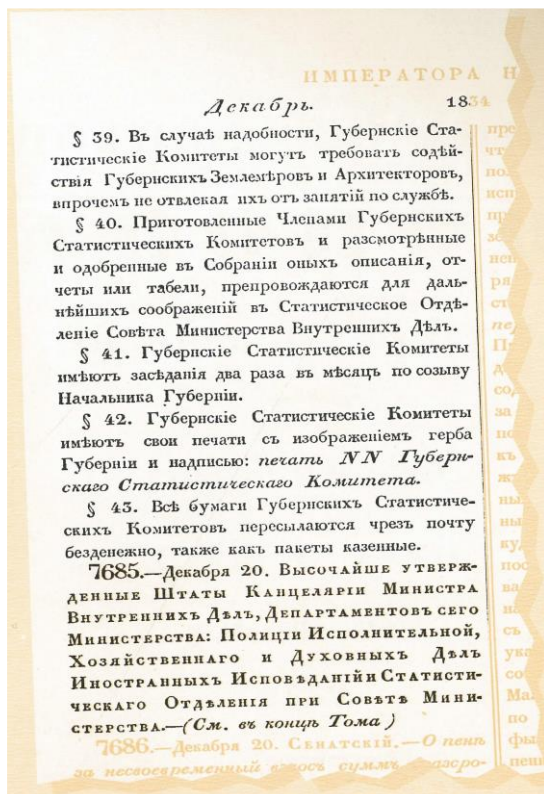
§ 35. Члены Корреспонденты своимъ посредничествомъ, или собственными трудами, стараются способствовать Комитету въ собраніи нужныхъ ему свѣдѣній и составленіи Статистическихъ описаній Губерніи, или части оной.

§ 36. О Членахъ Корреспондентахъ, отличившихся особеннымъ усердіемъ и дѣятельностію, Комитетъ представляетъ съ своимъ заключеніемъ Министру Внутреннихъ Дѣлъ.

§ 37. Для производства дѣлъ въ Губернскомъ Статистическомъ Комитетѣ, назначается одинъ изъ Членовъ онаго.

§ 38. Губернскій Статистическій Комитетъ, по собраніи свѣдѣній, занимается повѣркою оныхъ и приведеніемъ въ единообразный порядокъ, или внося ихъ въ табели по даннымъ отъ Статистическаго Отдѣленія Совѣта Министерства Внутреннихъ Дѣлъ формамъ, или составляя на основаніи оныхъ подробныя и точныя описанія состоянія Губерніи вообще, или же отдѣльно нѣкоторыхъ въ оной частей управления, хозяйства, промышленности и торговли.

(つづき)



「ロシア帝国法律大全, 第2集第27卷第1部, 1852年」

ПОЛНОЕ СОБРАНИЕ
ЗАКОНОВЪ
РОССІЙСКОЙ ИМПЕРІИ.

СОБРАНИЕ ВТОРОЕ.

ТОМЪ ХХVII.

ОТДѢЛЕНИЕ ПЕРВОЕ.

1852.

Отъ № 25870—26904.

САНКТПЕТЕРБУРГЪ.

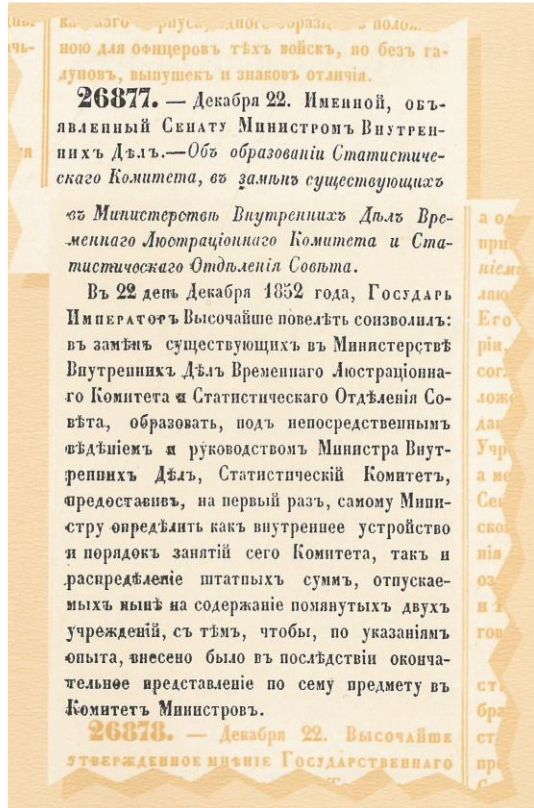
Въ Типографіи II Отдѣленія Собственной Е. И. В. Канцеляріи.

1855.



92427

(つづき)



「ロシア帝国法律大全, 第2集第33卷第1部, 1858年」

ПОЛНОЕ СОБРАНИЕ
ЗАКОНОВЪ
РОССІЙСКОЙ ИМПЕРІИ.

СОБРАНИЕ ВТОРОЕ.

ТОМЪ XXXIII.

ОТДѢЛЕНИЕ ПЕРВОЕ.

1858.

Отъ № 52629—53350.

САНКТПЕТЕРБУРГЪ.

Въ Типографіи II Отдѣленія Собственной Е. И. В. Канцеляріи.

1860.

92414



ить, веденіи въ порядокъ и обработкѣ, въ систематическомъ видѣ, необходимыхъ для Правительства, въ административномъ отношеніи, статистическихъ данныхъ по всемъ отраслямъ управленія Имперіи. Комитетъ сообщаетъ свѣдѣнія сіи какъ Департаментамъ Министерства Внутреннихъ Дѣлъ, такъ и другимъ высшимъ Управленіямъ, по ихъ требованіямъ, и сверхъ того обязанъ заботиться о постепенномъ изданіи въ свѣтъ своихъ трудовъ.

4. Вѣдѣнію Земскаго отдѣла подлежить предварительное обсужденіе и обработка всѣхъ дѣлъ по вопросамъ, касающимся земско-хозяйственнаго устройства въ Имперіи; причемъ Комитетъ долженъ руководствоваться особыми указаціями Министра Внутреннихъ Дѣлъ.

5. Товарищъ Министра Внутреннихъ Дѣлъ председательствуетъ въ обоихъ отдѣлахъ Комитета. Каждый изъ сихъ отдѣловъ состоитъ изъ трехъ членовъ изъ коихъ одинъ, непрѣмный завѣдываетъ всемъ ходомъ дѣла и перепискою, а два другіе занимаются дѣлами, кои возложены будутъ на нихъ Председателемъ. Непремѣнные члены Комитета могутъ быть избираемы Министромъ Внутреннихъ Дѣлъ изъ Членовъ Совѣта Министра, или вообще изъ лицъ, состоящихъ при Министерствѣ; они получаютъ определенное по штату жалованье. Остальные же члены назначаются Министромъ изъ лицъ, состоящихъ на службѣ въ Министерствѣ Внутреннихъ Дѣлъ, при другихъ должностяхъ.

6. Для согласенія статистическихъ данныхъ по разнымъ отраслямъ государственнаго управленія и для предупрежденія требованій двоякой однихъ и тѣхъ же свѣдѣній различными вѣдомствами отъ губернскихъ начальствъ, въ Статистическій отдѣлъ Комитета назначаются Министрами и Главноуправляющими постоянные совѣщательные члены изъ каждаго вѣдомства, съ правомъ голоса; они приглашаются въ засѣданія, когда въ томъ представляется надобность, Председателемъ Комитета, для обсужденія и прѣд-

Резолюція. «Быть по сему».

(Штатъ см. въ концѣ Тома.)

52826.—Марта 4. Высочайше утвержденное мнѣніе Государственнаго Совѣта, разсужденнаго 27 Марта. — *Объ устройствѣ Центрального Статистическаго Комитета при Министерствѣ Внутреннихъ Дѣлъ.*

Государственный Совѣтъ, въ Департаментѣ Государственной Экономіи и въ Общемъ Собраніи, разсмотрѣвъ представленіе Министра Внутреннихъ Дѣлъ объ устройствѣ Центрального Статистическаго Комитета при Министерствѣ Внутреннихъ Дѣлъ, мнѣніемъ положилъ: представленіе сіе утвердить и, вслѣдствіе того:

1. Въ дополненіе подлежащихъ статьѣ Сводныхъ постановить:

1. Учрежденный при Министерствѣ Внутреннихъ Дѣлъ, по Высочайшему повелѣнію Декабря 1852 года (26377), Статистическій Комитетъ получаетъ наименованіе Центрального Статистическаго Комитета.

2. Комитетъ сей, по роду возлагаемыхъ на него занятій, раздѣляется на два отдѣла: Статистическій и Земскій.

3. Занятія Статистическаго отдѣла состоятъ: въ собраніи, критической повѣркѣ, при-

52827 щихъ всѣмъ или нѣкоторымъ вѣдомствамъ. Означеннымъ членамъ жалованья не полагаются.

7. Директоры Департаментовъ Министерства Внутреннихъ Дѣлъ, по званію своему, состоятъ совѣтельными членами, съ правомъ голоса, въ обоихъ отдѣлахъ Комитета; они не обязаны, впрочемъ, присутствовать во всѣхъ засѣданіяхъ Комитета, а приглашаются въ оный также, по мѣрѣ надобности, Предсѣдателемъ.

8. Въ оба отдѣла Комитета могутъ быть, равнымъ образомъ, приглашаемы для совѣщаній, съ разрѣшенія Министра Внутреннихъ Дѣлъ, Губернаторы и Предводители Дворянства во время пребыванія ихъ въ столицѣ, извѣстные ученые помѣщики, купцы, фабриканты и т. п. Лица, на семь основаній приглашаемыя въ Комитетъ, присутствую въ засѣданіяхъ оного, нѣтъ права голоса наравнѣ съ прочими членами.

9. Программа занятій Комитета, по обоимъ его отдѣламъ, утверждается Министромъ, которому, въ важнѣйшихъ случаяхъ, представляются и протоколы его засѣданій.

10. Центральному Статистическому Комитету предоставляется право требовать статистическія матеріалы, по предметамъ, входящимъ въ кругъ его дѣйствій, не только отъ Департаментовъ Министерства Внутреннихъ Дѣлъ, но и отъ другихъ высшихъ Управленій, которыя обязываются сообщать ему требуемыя имъ статистическія свѣдѣнія, исключая подлежащихъ тайнѣ. Такія требованія дѣлаются Комитетомъ писменно, отъ имени Предсѣдателя, или чрезъ посредство приглашаемыхъ въ засѣданіе его совѣщательныхъ членовъ отъ разныхъ вѣдомствъ. Равнымъ образомъ, чрезъ тѣхъ же совѣщательныхъ членовъ, могутъ быть требуемы отъ Статистическаго Комитета и постороннія вѣдомствами необходимыя имъ свѣдѣнія, сосредоточиваемыя въ сей Комитетъ по всѣмъ отраслямъ управленія.

11. Статистическій Комитетъ не входитъ ни въ какія административныя дѣйствія, пре-

доставлены различнымъ Департаментамъ Министерства Внутреннихъ Дѣлъ.

12. Центральному Статистическому Комитету подчиняются, относительно полученія необходимыхъ для него свѣдѣній и повѣрки статистическихъ работъ, всѣ Губернскіе Статистическіе Комитеты, которымъ Центральный Комитетъ и долженъ давать надлежащія наставленія и руководства по сему предмету.

13. Ревизія шнуровыхъ приходо-расходныхъ книгъ Губернскихъ Комитетовъ возлагается на мѣстныхъ Губернскихъ Правленій, которымъ Комитеты сіи и обязаны, по окончаніи года, представлять свои шнуровыя книги и денежные отчеты за минувшій годъ, препровождая въ Центральный Статистическій Комитетъ только извлеченія изъ сихъ отчетовъ, для свѣдѣнія.

14. Канцелярія Комитета состоитъ въ завѣдываніи Предсѣдателя, а въ случаѣ его отсутствія, старшаго изъ непремѣнныхъ членовъ.

11. Проектъ штата Центрального Статистическаго Комитета представить, при мнѣніи Государственнаго Совѣта, на Высочайшее Его Императорскаго Величества утвержденіе.

Резолюція. «Быть по сему».

(Штатъ см. въ концѣ Тома.)

52827. Мартъ 5. Импер. указъ

「ロシア帝国法律大全, 第2集第36卷第2部, 1861年」

ПОЛНОЕ СОБРАНИЕ
ЗАКОНОВЪ

РОССІЙСКОЙ ИМПЕРІИ.

СОБРАНИЕ ВТОРОЕ.

ТОМЪ XXXVI.

ОТДѢЛЕНИЕ ВТОРОЕ.

1861.



Отъ № 57191—57826.

САНКТПЕТЕРБУРГЪ.

Въ Типографіи II Отдѣленія Собственной Е. И. В. Канцеляріи.

1865.

ый,
ь до-
ныхъ
стра-
легко
воль-
пред-
иска-
разъ-
лучаѣ
болѣе
лений
ия по
доро-
дѣй-
денія
явно
елтъ-
хъ, и
толь-
пре-
для
ь со-
Юли-
ли за-
ныхъ
жены
слѣд-
чрезъ
оща-
іями.
лений
роп-
пред-
опи
денію
лений
юки,
явни
ихъ,
чно.

37290.—Июля 27. Высочайше утверж- **37290**

денное положеніе Главнаго Комитета объ устройствѣ сельскаго состоянія, объявленное Сенату Управляющимъ Министерствомъ Внутреннихъ Дѣлъ.—*Объ усиленіи средствъ Земскаго Отдѣла Министерства Внутреннихъ Дѣлъ, и о порядкѣ дѣлопроизводства въ ономъ.*

Государь Императоръ, согласно положенію Главнаго Комитета объ устройствѣ сельскаго состоянія, принявъ во вниманіе, что для обезпеченія успѣшнаго хода крестьянскихъ дѣлъ, производство конхъ по Министерству Внутреннихъ Дѣлъ сосредоточено въ Земскомъ Отдѣлѣ, представляется дѣйствительная надобность въ усиленіи средствъ сего Отдѣла и въ опредѣленіи болѣе соответствующаго настоящей потребности порядка производства дѣлъ оного, Высочайше соизволилъ, 27 Іюля сего года, утвердить представляемый у сего штатъ Земскаго Отдѣла Министерства Внутреннихъ Дѣлъ и повелѣть:

I. Исчисленную по сему штату сумму 55,970 рублей, отпускать изъ тѣхъ же источниковъ, изъ конхъ она ассигновалась донынѣ.

II. Отдѣливъ Земскій Отдѣлъ отъ Центральнаго Статистическаго Комитета Министерства, принять для руководства, относительно распределенія занятій и производства дѣлъ по сему Отдѣлу, а также обязанностей находящихся въ составѣ его чиновъ, слѣдующія правила:

1. Тѣ дѣла Земскаго Отдѣла, которыя, или по важности своей, или по соприкосновенію ихъ съ дѣлами другихъ Департаментовъ Министерства, потребуютъ разсмотрѣнія ихъ совѣщательнымъ порядкомъ, вносятся, согласно Общему Учрежденію Министерствъ, въ Совѣтъ Министра Внутреннихъ Дѣлъ.

2. По усмотрѣнію Министра, въ засѣданія Совѣта по дѣламъ Земскаго Отдѣла могутъ быть приглашаемы Начальники губерній, Губернскіе и Уѣздные Предводители Дворянства, Члены Губернскихъ Присутствій, Мировые Посредники и другія служащіе и неслужащіе лица, постоянно или временно пребывающія въ С.-Петербургѣ и могущія быть полезными своими знаніями и опытностію.

37291 5. Дѣла, вносимыя въ Совѣтъ Министра, по земско-хозяйственному устройству, производятся и исполняются по Земскому Отдѣлу.

37292 4. Земскій Отдѣлъ состоитъ въ завѣдываніи

37293 Управляющаго онымъ, который, по сей должности, есть Членъ Совѣта Министра.

5. Помощникъ Управляющаго Земскимъ Отдѣломъ, подобно Вице-Директорамъ Департаментовъ, имѣетъ главною обязанностію облегчать Управляющаго въ занятіяхъ и способствовать безостановочному ходу счетныхъ дѣлъ, а въ случаѣ болѣзни, отлучки или увольненія Управляющаго Земскимъ Отдѣломъ, заступаетъ его мѣсто, если отъ Министра не будетъ сдѣлано другаго распоряженія.

6. Производители дѣлъ и Помощники ихъ имѣютъ права и несутъ ответственность, сообразно роду обязанностей, возложенныхъ на каждаго изъ нихъ Управляющимъ Земскимъ Отдѣломъ.

7. На Секретаря, при содѣйствіи его Помощниковъ, лежатъ всѣ обязанности Правителей Департаментскихъ Канцелярій, а также казначейская и экзекуторская части.

8. Управляющій Земскимъ Отдѣломъ и его Помощникъ опредѣляются Высочайшими приказами по Министерству Внутреннихъ Дѣлъ, Производители Дѣлъ и Секретарь Министромъ, а прочіе штатные чиновники—Управляющимъ Земскимъ Отдѣломъ.

9. Канцелярскіе чиновники и писцы или числятся на службѣ, или занимаются по найму.

(Штатъ см. въ концѣ Тома.)

37291.—Июль 27. Высочайше утвержденный журналъ Главнаго Комитета объ устройствѣ селенскаго состоянія—

нови
крес
ной
сь и
рев
сбо
ное
вал
чест
Г
го К
ла
д
де
овт
овт
ск
нво
и
ков
ст

ни
ск
ств
уст
пр
ство
чай
ло
стер
пат
со
воло
изт

「ロシア帝国法律大全, 第2集第38卷第1部, 1863年」

**ПОЛНОЕ СОБРАНИЕ
ЗАКОНОВЪ
РОССІЙСКОЙ ИМПЕРІИ.**

СОБРАНИЕ ВТОРОЕ.

ТОМЪ XXXVIII.

ОТДѢЛЕНИЕ ПЕРВОЕ.

1865.

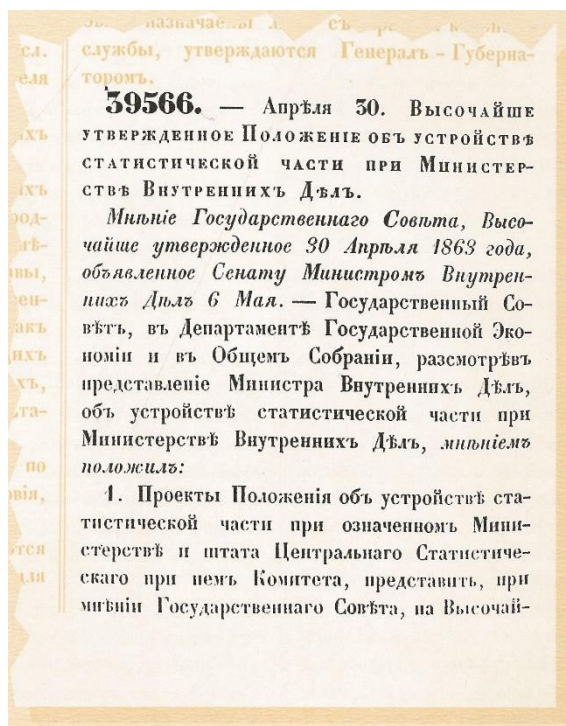
Отъ № 59117—40024.

САНКТПЕТЕРБУРГЪ.

Въ Типографіи II Отдѣленія Собственной Е. И. В. Канцеляріи.

1866.

(つづき)



шее утвержденіе Его Императорскаго Величества.

2. Съ открытіемъ Центрального Статистическаго Комитета, упразднить существующій нынѣ при Министерствѣ Внутреннихъ Дѣлъ Статистическій Отдѣлъ Центрального Статистическаго Комитета;—и

3. Исчисленный по новому штату расходъ (26.000 руб. сер. въ годъ) на содержаніе Центрального Статистическаго Комитета отнести вполнѣ на суммы государственнаго казначейства, и затѣмъ, производящійся нынѣ, изъ частнаго земскаго сбора нѣкоторыхъ губерній, отпускъ суммы (14.261 руб. 77 коп.) на содержаніе Статистическаго Отдѣла Центрального Статистическаго Комитета прекратить.

Резолюціа. «Быть по сему».

Положеніе.

§ 1. При Министерствѣ Внутреннихъ Дѣлъ, для статистической части, учреждается: 1) Статистическій Совѣтъ и 2) Центральный Статистическій Комитетъ.

И. Статистическій Совѣтъ.

§ 2. Статистическій Совѣтъ имѣетъ предметомъ установленіе правильнѣйшихъ и вѣрнѣйшихъ способовъ собранія и обработки статистическихъ свѣдѣній въ Имперіи и однообразное направленіе всѣхъ работъ по сей части.

§ 3. Статистическій Совѣтъ состоитъ подъ предѣлательствомъ и непосредственнымъ руководствомъ Товарища Министра Внутреннихъ Дѣлъ, изъ членовъ: непремѣнныхъ и совѣщательныхъ.

§ 4. Непремѣнные члены суть, по званію своему: Директоръ Центрального Статистическаго Комитета при Министерствѣ Внутреннихъ Дѣлъ (онъ же заступаетъ мѣсто Предѣлателя Совѣта въ отсутствіи Товарища Министра); Академикъ Императорской Академіи Наукъ по каедрѣ статистики и политической экономіи; Управляющіе Статистическими Отдѣленіями Департамента Генеральнаго Штаба Военнаго Министерства и Департамента Сельскаго Хозяйства Министерства Государственныхъ Имуществъ, и, вообще управляющіе отдѣльными или постоянными статистическими

учрежденіями въ разныхъ Министерствахъ и Главныхъ Управленіяхъ. **59566**

§ 5. Совѣщательные члены назначаются отъ всѣхъ вѣдомствъ (кромѣ вышепоименованныхъ, имѣющихъ постоянныя статистическія учрежденія) и отъ Государственной Канцеляріи—Министрами и Главноуправляющими, а по Государственной Канцеляріи Государственнымъ Секретаремъ, по одному отъ каждаго вѣдомства, преимущественно изъ лицъ, спеціально знакомыхъ съ административною статистикою. Министру Внутреннихъ Дѣлъ предоставляется назначать въ Статистическій Совѣтъ, по усмотрѣнію, двухъ или трехъ совѣщательныхъ членовъ.

§ 6. Каждый изъ членовъ, по своему вѣдомству, содѣйствуетъ Центральному Статистическому Комитету въ полученіи необходимыхъ для Правительства свѣдѣній по разнымъ отраслямъ администраціи.

§ 7. Члены Статистическаго Совѣта, какъ непремѣнные, такъ и совѣщательные, имѣютъ равное право голоса въ опредѣленіяхъ Совѣта. Тѣ и другіе, по званію членовъ Совѣта, жалованья не получаютъ.

§ 8. Въ Статистическій Совѣтъ могутъ быть приглашаемы временно, какъ Директоры или Вице-Директоры Департаментовъ разныхъ Министерствъ, такъ и пребывающіе въ С.-Петербургѣ Начальники губерній, Предводители Дворянства, Городскіе Головы, ученые, фабриканты, купцы и другія лица, если будутъ возбуждены спеціальныя вопросы, требующіе ихъ присутствія. Всѣ эти лица, наравнѣ съ прочими членами Совѣта, непремѣнными и совѣщательными, имѣютъ право голоса въ засѣданіяхъ, въ которыхъ они участвуютъ.

§ 9. Статистическому Совѣту поручается: а) обсужденіе способовъ производства всѣхъ вообще статистическихъ работъ и мѣропріятій, касающихся собранія свѣдѣній по всей Имперіи и требующихъ содѣйствія разныхъ вѣдомствъ; б) обсужденіе производства частныхъ статистическихъ работъ отдѣльных вѣдомствъ и установленіе общей формы для изданія и обнародованія ихъ, и в) постепенное

39567 приведение въ извѣстность и улучшение способъ регистраціи статистическихъ данныхъ, получаемыхъ при обыкновенномъ дѣлопроизводствѣ въ разныхъ вѣдомствахъ.

II. Центральный Статистическій Комитетъ.

§ 10. Для производства статистическихъ работъ по Министерству Внутреннихъ Дѣлъ, существующій нынѣ при Министерствѣ Статистическій Отдѣлъ Центрального Статистическаго Комитета переименовывается въ Центральный Статистическій Комитетъ.

§ 11. Центральному Статистическому Комитету поручается: а) сосредоточеніе, повѣрка, обработка и печатаніе поступающихъ ежегодно изъ Губернскихъ, Областныхъ и Городскихъ Статистическихъ Комитетовъ таблицъ и свѣдѣній, по всей Имперіи; б) собраніе и разработка статистическихъ данныхъ, необходимыхъ для соображеній при раскладкѣ земскихъ повинностей; в) разработка и печатаніе статистическихъ данныхъ, доставляемыхъ другими вѣдомствами, на основаніи опредѣленій Статистическаго Совѣта; г) доставленіе другимъ вѣдомствамъ статистическихъ свѣдѣній, собираемыхъ по Центральному Статистическому Комитету, и д) всякаго рода единовременныя статистическія работы, по порученію Министра Внутреннихъ Дѣлъ или на основаніи опредѣленій Статистическаго Совѣта.

§ 12. Центральному Статистическому Комитету подчиняются, въ отношеніи производства работъ и научнаго направленія, всѣ Губернскіе, Областные и Городскіе Статистическіе Комитеты.

§ 13. Управленіе Центральнымъ Статистическимъ Комитетомъ вѣряется Директору, назначаемому изъ лицъ, заявившихъ спеціальныя знанія по статистикѣ. Директоръ, по своему званію, есть Членъ Совѣта Министра и вмѣстѣ съ тѣмъ непремѣнный членъ Статистическаго Совѣта. Онъ опредѣляется и увольняется, по представленію Министра Внутреннихъ Дѣлъ, Высочайшими указами Правительствующему Сенату и Высочайшими приказами.

§ 14. Въ составъ Центрального Статистиче-

скаго Комитета назначаются редакторы и другіе чины по штату.

§ 15. Распределеніе работъ между редакторами и установленіе порядка занятій предоставляется Директору Комитета, съ утвержденія Предсѣдателя Статистическаго Совѣта.

(Штатъ см. въ концѣ Тома.)

39567. — Апрѣль 30. Высочайше утвержденно Императорскимъ Высочайшимъ

Сенатомъ. По Высочайшему повелѣнію. Губернскіе, Областные и Городскіе Статистическіе Комитеты переименованы въ Статистическіе Комитеты. Министру Внутреннихъ Дѣлъ поручено: а) сосредоточеніе, повѣрка, обработка и печатаніе поступающихъ ежегодно изъ Губернскихъ, Областныхъ и Городскихъ Статистическихъ Комитетовъ таблицъ и свѣдѣній, по всей Имперіи; б) собраніе и разработка статистическихъ данныхъ, необходимыхъ для соображеній при раскладкѣ земскихъ повинностей; в) разработка и печатаніе статистическихъ данныхъ, доставляемыхъ другими вѣдомствами, на основаніи опредѣленій Статистическаго Совѣта; г) доставленіе другимъ вѣдомствамъ статистическихъ свѣдѣній, собираемыхъ по Центральному Статистическому Комитету, и д) всякаго рода единовременныя статистическія работы, по порученію Министра Внутреннихъ Дѣлъ или на основаніи опредѣленій Статистическаго Совѣта. Центральному Статистическому Комитету подчиняются, въ отношеніи производства работъ и научнаго направленія, всѣ Губернскіе, Областные и Городскіе Статистическіе Комитеты. Управленіе Центральнымъ Статистическимъ Комитетомъ вѣряется Директору, назначаемому изъ лицъ, заявившихъ спеціальныя знанія по статистикѣ. Директоръ, по своему званію, есть Членъ Совѣта Министра и вмѣстѣ съ тѣмъ непремѣнный членъ Статистическаго Совѣта. Онъ опредѣляется и увольняется, по представленію Министра Внутреннихъ Дѣлъ, Высочайшими указами Правительствующему Сенату и Высочайшими приказами. Въ составъ Центрального Статистиче-

「ブロックハウス・エフロン百科事典」

ЭНЦИКЛОПЕДИЧЕСКІЙ
СЛОВАРЬ
РОССІЯ

ИЗДАТЕЛИ:

Ф. А. Брокгаузъ (Лейпцигъ)
И. А. Ефронъ (С.-Петербургъ)

С.-ПЕТЕРБУРГЪ
1898

II. Население. А. Статистика населения. Источники сведений о населении Р. До 1897 г. данные о числе жителей в Р. не отличались точностью. Главным способом для исчисления народонаселения служили ревизии, цель которых почти исключительно состояла в счете податных душ. Имѣя чисто фискальный характер, онѣ сообщали неточныя свѣдѣнія о числѣ женщинъ и лицъ неподатныхъ сословій, да и самый счетъ податныхъ сословій не давалъ вполне вѣрныхъ результатовъ, такъ какъ укрывательство отъ ревизій представляло лицамъ этихъ сословій матеріальныя выгоды. Въ 1897 г. произведена была во всей Имперіи, кромѣ великаго княжества Финляндскаго, первая народная перепись, имѣвшая цѣлью не опредѣленіе числа податныхъ душъ, а подробное изслѣдованіе семейнаго положенія, возрастнаго состава и занятій всего населенія. Число жителей по одиннадцати народоисчисленіямъ опредѣлялось слѣдующими цифрами:

| Народоисчисления въ хронологическомъ порядкѣ. | Годы народоисчисления. | Оказавшееся число жителей. |
|---|------------------------|----------------------------|
| 1-я ревизія | 1722 | 14 милл. |
| 2 » » » » » » | 1742 | 16 » |
| 3 » » » » » » | 1762 | 19 » |
| 4 » » » » » » | 1782 | 28 » |
| 5 » » » » » » | 1796 | 36 » |
| 6 » » » » » » | 1812 | 41 » |
| 7 » » » » » » | 1815 | 45 » |
| 8 » » » » » » | 1835 | 60 » |
| 9 » » » » » » | 1851 | 69 » |
| 10 » » » » » » | 1858 | 74 » |
| 1-я общая перепись | 1897 | 129 » |

Въ 39-лѣтній промежутокъ времени между 10-мъ и 11-мъ народоисчисленіями былъ въ употребленіи административно-полицейскій способъ опредѣленія числа жителей, чрезъ посредство мѣстныхъ губернскихъ статистическихъ комитетовъ, полицейскихъ управленій и волостныхъ правленій. Основаніемъ его служили подворные или посемейные списки, изъ которыхъ исключались умершіе за данный періодъ времени и выписавшіеся изъ сельскихъ и городскихъ обществъ, а прибавлялись родившіеся и приписавшіеся къ обществамъ. Въ нѣкоторыхъ большихъ городахъ, время отъ времени, производились однодневныя переписи населенія, по обширнымъ программамъ и съ примѣненіемъ усовершенствованныхъ приемовъ, выработанныхъ западноевропейскою наукою и практикой. Такія переписи произведены были въ СПб. (1865, 1869, 1881 и 1890), въ Москвѣ (1882), въ Варшавѣ (1891), въ Одессѣ (1895). Подворными земскими статистическими изслѣдованіями выяснены численность и составъ населенія болѣе чѣмъ въ 200 уѣздахъ. Центральныи статистическій комитетъ опубликовалъ собранныя полицейскимъ путемъ свѣдѣнія о населеніи всей Европ. Р. за 1856, 1858, 1863, 1867, 1870, 1882, 1883, 1885, 1886, 1890 и 1895 гг., но почти всякій разъ оговаривалъ ихъ неточность.

45) Статистика. Русская научно-статистическая литература начинается трудами академиков конца XVIII и начала XIX ст., Германа и, главным образом, Шторха (H. Storch, «Historisch-statistisches Gemälde des russischen Reichs Ende des XVIII Jahr», Paga—Лип. 1793—1803 и др.). Но их труды, как и лекции профессоров статистики в университетах, двигались в рамках так назыв. немецкой университетской статистики или описательного государствоведения. Это направление оставалось господствующим до половины XIX в.; образцом его могут служить «Статистические очерки» К. И. Арсеньева (СПб., 1848; автор раньше преподавал статистику Цесаревичу Александру Николаевичу), единственное из ученых сочинений этого направления, которое сохранило некоторое значение. Уже в 1830-х и 1840-х годах являются попытки научной разработки русских статистических материалов в новом духе, получившем преобладание лишь во второй половине XIX в. Таковы изследования академика Келлена и сотрудников Киселева в первую эпоху министерства государств. имуществ (Протопопова, Заблоцкого-Досатовского, Соловьева, Вешнякова и др.). К ним примыкают некоторые деятели министерства финансов той эпохи (Гагемейстер и особенно Г. П. Небольсин) и некоторые местные деятели (Д. П. Журавский, А. Скальковский, Фундуклей). Самый выдающийся научно-статистический труд той эпохи — «Обозрение внешней торговли России», Г. П. Небольсина (СПб., 1850). К этому же времени относятся и первое серьезное изследование по уголовной статистике России, Анучина. Оживление, которое Кетле повсюду внес в научное развитие статистики, сказалось и в России, особенно благодаря тому, что оно совпало с оживлением, происшедшим в нашей умственной и общественной жизни послѣ крымской войны. Новое направление в научно-статистической литературе России выразилось в появившихся в это время трудах Е. И. Ламанского — о русских кредитных учреждениях и денежном обращении, Ф. Г. Тернера — о внешней торговле, И. И. Вильсона — о статистике сельского хозяйства. В это же время начинается преобразование статистических учреждений различных ведомств, и в состав этих учреждений оказывается ряд лиц, приобретших себя своими трудами ученую репутацию: в центр. статист. комитет — К. И. Арсеньев, П. П. Семенов; в министерств. госуд. имуществ — И. И. Вильсон, А. С. Ермолов, В. И. Ковалевский; в министерств. финансов — А. Б. фонь-Бушень и А. К. Веселовский; в военном ведомств — Н. Н. Обручев; в министерств. путей сообщения — А. А. Головачев. Большею частью труды этих лиц входят в состав официально-статистических изданий различных ведомств, но они имеют значение монографических исследований, в которых систематически разработаны огромный материал. Таковы, напр., объяснения П. П. Семенова к русской статистике землевладения, исследования фонь-Бушена по русской демо-

графии, исследования Вильсона и Ермолова по русскому сельскому хозяйству, И. С. Иващенко — о банках, русская финансовая статистика Кауфмана и его же русская банковая статистика, труд А. Рейнбота по мобилизации земли (1893) и т. д. Производились и статистические исследования неофициального свойства, возникавшие по частному научному почину, образцом их является исследование русской хлебной торговли, исполненное специалистами по статистике из числа членов географического и вольно-экономического обществ — Янсономъ, Чаславским, Безобразовым и др. — Наконец, новое поле для статистических исследований у нас явилось с возникновением богатой трудами земской статистики (см. Велецкий, «Земская статистика», М., 1899). Труды таких земских статистиков, как В. И. Орлов, братья Н. А. и К. А. Вернерь, В. Н. Григорьев, Ф. А. Щербина, Н. А. Кабуков, И. П. Боголюбов, С. А. Харизоменов, М. И. и Е. И. Красноперовы, П. П. Червинский, В. И. Покровский, Н. Н. Романов, Д. И. Рихтер, А. А. Кауфмань, В. Е. Варзарь, А. А. Русов, Н. Ф. Анненский, А. И. Шинкевич и многие другие, надолго сохраняют цену и значение при изучении русского народного хозяйства и его положений в конце XIX стол. Собственно по теории статистики русская ученая литература вправе гордиться сочинением по этому предмету покойного проф. Янсона, которое принадлежит к лучшим в европейской литературе и по образцу которого составлены другие университетские курсы — Чупрова, Федоровича и Ходского.

И. Б.

малое число организационных трудов, осо-

ДЕКРЕТ СОВЕТА НАРОДНЫХ КОМИССАРОВ

о государственной статистике

(положение)*

§ 1. Ведение статистики в Российской Социалистической Федеративной Советской Республике возлагается:

- а) на Центральное статистическое управление и органы, им образуемые;
- б) на статистические организации отдельных ведомств;
- в) на статистические организации губернские и городские;
- г) на губернские, районные, уездные, волостные и сельские административные и административно-хозяйственные органы.

Центральные органы

§ 2. Центральное статистическое управление в отношении своей внутренней организации и порядка сношений со всеми учреждениями Республики руководствуется соответствующими правилами, установленными для Народных Комиссариатов.

§ 3. Во главе Центрального статистического управления стоит Управляющий, избираемый Советом Народных Комиссаров и пользующийся правом совещательного голоса в Совете Народных Комиссаров.

§ 4. При Центральном статистическом управлении образуется Коллегия, состав которой утверждается Советом Народных Комиссаров.

§ 5. Статистические учреждения отдельных Народных Комиссариатов определяются особыми положениями.

Примечание 1. Центральный Статистический Комитет Народного Комиссариата по Внутренним делам, как орган государственной статистики, прекращает свое действие, оставаясь ведомственным органом указанного Комиссариата.

Примечание 2. Все имеющиеся в Центральном Статистическом Комитете инструменты и приборы, дела, книги и материалы, относящиеся к государственной статистике, передаются Центральному статистическому управлению.

§ 6. На Центральное статистическое управление возлагается:

I. Общее попечение о развитии правильной постановки статистики в государстве и расширении статистических знаний.

II. Утверждение планов и программ всякого рода статистических обследований и переписей, производимых ведомственными установлениями, а также утверждение ежегодно составляемых ведомствами планов статистических работ, организационных планов и инструкций.

*Б.И. Ленин об организации статистики. — М.: Статистика, 1968. — с. 10-15.

- III. Ведение демографической статистики.
- IV. Ведение статистики народного здоровья и санитарии.
- V. Ведение моральной статистики.
- VI. Ведение статистики землепользования.
- VII. Ведение статистики потребления и продуктообмена.
- VIII. Ведение статистики сельскохозяйственного производства.
- IX. Производство работ по кадастру.
- X. Объединение промышленной общегосударственной статистики.
- XI. Ведение статистики труда, военной и просвещения.
- XII. Ведение транспортной статистики.

Примечание. Центральное статистическое управление определяет, какая часть работы в этой отрасли статистики производится Народным Комиссариатом Путей Сообщения и Главным Управлением Водных Сообщений и какая производится непосредственно Центральным статистическим управлением.

XIII. Производство общегосударственных переписей населения, промышленных, профессиональных, сельскохозяйственных и т.п., и разработка собранных переписями материалов.

XIV. Объединение и согласование работ по городской статистике, производимых городскими организациями.

XV. Издание ежегодников и других периодических изданий, заключающих все важнейшие статистические данные о государстве, а также сборников, обзоров, монографий по отдельным вопросам ведения Центрального статистического управления.

XVI. Организация статистической библиотеки, музея и архива статистических материалов.

XVII. Ведение делопроизводства статистических конференций.

XVIII. Производство других статистических работ, не вошедших в предыдущие пункты, кои могут быть возложены на Центральное статистическое управление по делам государственной статистики законом или постановлениями Центральной Советской власти.

§ 7. Центральное статистическое управление создает, согласно разработанного им плана работ, органы наблюдения и контроля в области собирания статистического материала, реорганизует или закрывает в полной мере те статистические учреждения, которые им организованы и ему подведомственны, объединяет, руководит и инструктирует местные и ведомственные учреждения в работе, возложенной на них государственной статистикой.

§ 8. Центральное статистическое управление в случае надобности командировывает своих агентов во все центральные и местные учреждения или для производства непосредственных работ, входящих в круг ведения Центрального статистического управления по делам государственной статистики, или для фактического установления правильности производства этих работ.

「1918 年 7 月 25 日付け人民委員会議令」

(つづき)

§ 9. Для согласования работ по русской статистике с работами по статистике других государств Центральное статистическое управление в лице своих представителей принимает участие в работах Международного статистического института, в конгрессах и других международных учреждениях и собраниях по вопросам международной статистики.

§ 10. При Центральном статистическом управлении, на основании особого положения, создается Совет по делам государственной статистики для:

а) разработки планов и практических мер объединения и согласования деятельности статистических организаций центральных, областных и местных правительственных и общественных учреждений;

б) дачи заключений по организационно-программным вопросам, касающимся планов и программ всякого рода переписей и обследований, производимых центральными и местными советскими учреждениями как ежегодно, так и периодически;

в) разработки вопроса о распространении статистических знаний в стране;

г) разработки вопросов и методов наблюдения и обработки статистических материалов.

§ 11. Для установления контакта между различными частями государственно-коммунальных статистических учреждений, для разработки программно-организационных вопросов и для выбора представителей в государственно-статистические учреждения Центральным статистическим управлением созываются не менее одного раза в год, а в случае надобности чаще, конференции из ответственных представителей центральных, губернских и городских (действующих на правах губернских) статистических учреждений, а также тех общественных учреждений, статистическая деятельность которых объединяется Центральным статистическим управлением, затем, представителей статистической науки по выбору научно-общественных учреждений и высших учебных заведений, по одному от каждого.

Примечание: Центральные и губернские, государственные и общественные учреждения, а также высшие учебные заведения и научно-общественные учреждения могут делегировать на конференции еще по одному представителю, но таковые так же как и особо приглашенные лица, пользуются на конференциях правом совещательного голоса.

§ 12. В целях всестороннего освещения вопросов по выработке организационных планов и программ общегосударственных переписей и других общегосударственных статистических работ созываются периодически или по мере надобности Всероссийские съезды статистиков всех специальностей.

§ 13. Организационные планы и программы общегосударственных переписей и других общегосударственных статистических работ своевременно сообщаются Исполнительной комиссией Всероссийских статистических съездов для передачи их на обсуждение съездов или для получения ее заключения в случае невозможности созыва съезда.

「1918 年 7 月 25 日付け人民委員会議令」

(つづき)

§ 14. На центральные государственные учреждения возлагаются обязанности:

а) представлять Центральному статистическому управлению для получения заключений Совета по делам государственной статистики планы и программы статистических работ как периодически, так и ежегодно ими производимых;

б) доставлять Центральному статистическому управлению необходимые для его работ сведения и оказывать ему полное содействие при производстве им выборок из делопроизводства, а также из имеющихся в их распоряжении статистических материалов;

в) оказывать полное содействие лицам, командированным Центральным статистическим управлением для установления правильности производства ведомствами выборок, необходимых Центральному статистическому управлению для его работ.

Примечание: В целях координирования и согласования всех статистических работ в государстве эти же обязанности возлагаются на частные и общественные учреждения, производящие статистические работы.

§ 15. На частные общества и учреждения возлагается обязанность представлять по требованию Центрального статистического управления все необходимые статистические сведения о своем устройстве и трудах.

§ 16. На все гражданские, военные и вероисповедного характера правительственные и общественные организации возлагается обязанность оказывать Центральному статистическому управлению полное содействие при собирании им статистических сведений и доставления ему сведений, необходимых для работ и трудов, и производить согласно правил, предусмотренных как сим положением, так и согласно особым законам или специальных распоряжений Центрального статистического управления, — работы по наблюдению или контролю над наблюдением в областях, им подведомственных.

§ 17. Все государственные и общественные органы, частные и общественные лица, печатающие издания, относящиеся к области статистики, обязаны в течение месяца по отпечатании изданий посылать их в двух экземплярах в Центральное статистическое управление.

§ 18. Статистические местные учреждения, как органы государственной статистики, определяются особым положением.

Подписали:

Председатель Совета Народных Комиссаров
В. Ульянов (Ленин)

Управляющий Делами Совета Народных Комиссаров
В.Д. Бонч-Бруевич

25 июля 1918 г.

Распубликован в № 160 Известий Всероссийского Центрального Исполнительного Комитета Совета от 30 июля 1918 года.
(«Собрание Узаконений и Распоряжений Рабочего и Крестьянского Правительства», № 55, 31 июля 1918 г., ст. 511).

